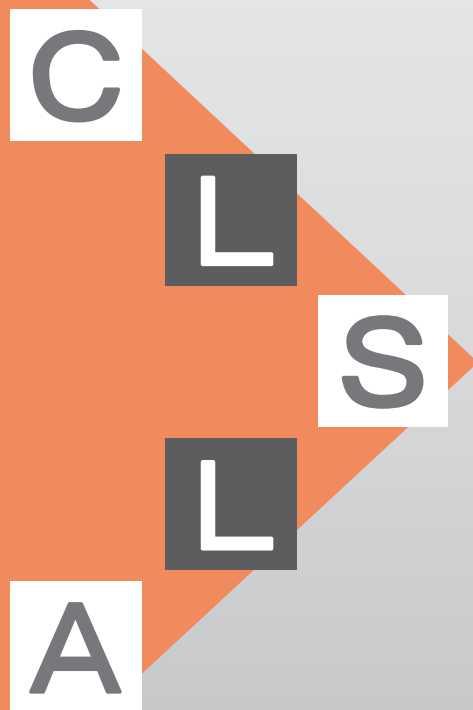


学習支援センター(SLAサポート) 年次活動報告書 2018年度

Annual Report 2018 / Center for Learning Support(SLA Support Office)



東北大学
高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University

学習支援センター（SLA サポート）
年次活動報告書
2018年度

巻頭言

飛鳥の如く

学習支援センター長 芳賀 満

人が本を読み学び考える姿は美しい。紀元後 50 年頃の古代ローマのポンペイ出土壁画の《書字板と尖筆をもつ女性》は知的な瞳を輝かせて魅力的だ。兼好法師は 1330 年頃の春の暮れつかた京の一隅で好ましい家を見つけその南正面にそっと廻り込み御簾から見て、「かたち清げなる男の、年^{はたち}廿ばかりにて、うちとけたれど、心にくゝのどやかなるさまして、机の上に文をくりひろげて見ぬたり」(『徒然草』第 43 段) と、ゆったりと楽しげに本に読み耽る貴公子を観察する。わが学習支援センターもこのような学生たちに溢れ、しかも机を挟んで共に学んでいる。

実に先輩後輩の学生たちが考え学び部屋全体が静かにさんざめいているさまは好ましい。ひとつの若い生き生きとした教育の共同体を形成しているようで、大げさに言えば、人類社会の未来も安堵できるなと思うほどにも頼もしい。

たしかに東北大学は「研究第一」を謳う。そもそも学問の基本はあくまで研究であり、大学という教育機関の根本も研究にあると思う。仏陀も「犀の角のようにただ独り歩め」と孤独な探究をすすめる。しかし、同時に「学識ゆたかで真理をわきまえ、高邁明敏な友と交われ」とも言う。そもそも、長く厳しい研究の結果に真理を会得しそれを一人で三昧していた仏陀は、梵天に勧め請われてその真理を後輩たちに説いた。それが仏教という学問分野の始まりである。

では大学にいる研究者としての教員、若き研究者としての学生はどうあるべきであろうか。現代日本を作った一人である福澤諭吉は、真の研究者は「談話演説」により人々の啓蒙に尽力すべきだと述べる。

私に沈深なるは淵^{ふち}の如く、人に接して活発なるは飛鳥^{ひちよう}の如く、其密なるや内^{うち}なきが如く、其豪大なるや外^{そと}なきが如くして、始めて真の学者と称す可きなり (『学問のすゝめ』12 編)

真の研究者は内への孤独な沈潜と共に、教育者としての外への活発な伝達を行うべきなのである。学ぶ人々が集う、そのような活力ある楽しく賑やかな場を提供し続けてゆきたい。

目次

巻頭言 「飛鳥の如く」	芳賀満 ----- 1
2018 年度ダイジェスト・トピック -----	3
2018 年度事業内容・成果 -----	5
1. センター概要 -----	7
2. センター活動・実績報告 -----	10
1) 2018 年度重点目標 (10)	
2) 理系科目支援 (11)	
3) 英会話支援 (13)	
4) ライティング支援 (15)	
5) 学習企画・イベント (17)	
6) 利用学生評価 (19)	
7) SLA サポート窓口開設状況 (21)	
8) 自主ゼミ支援 (22)	
9) CLS”学びの転換”セミナー (23)	
10) その他活動 (学内連携、訪問受入、照会、学内貢献活動、広報活動) (24)	
3. 部会活動報告 -----	25
1) 物理部会 (26)	2) 数学部会 (29)
3) 化学部会 (32)	4) 英語部会 (35)
5) ライティング部会 (39)	6) 企画部会 (42)
4. SLA の採用と育成・研修活動報告 -----	45
1) SLA の採用・育成 (46)	2) 活動説明会・活動報告会 (49)
3) 夏期研修 (53)	4) 3 大学合同研修 (60)
5) SLA 共通研修 (62)	6) 振り返りシート・個別ヒアリング (63)
資料	
A. 利用学生アンケート結果 (コメント有・全データ) -----	65
B. 2018 年度発行ポスター -----	77
C. 2018 年度学習支援センター活動略歴 -----	87

2018年度ダイジェスト・トピック

「学びのヒント」ページの作成・公開

学びに関する情報を発信するページ「学びのヒント」を作成・公開。

The screenshot shows the homepage of the Center for Learning Support (SLA Support Office) at Tohoku University. The page features a navigation menu with categories like Physics, Mathematics, Chemistry, Experiments/Math, Writing, and English. A featured article titled '手袋をしたままスマートフォンを触っても反応しないのはなぜ?' (Why doesn't my smartphone respond when I touch it with gloves?) is highlighted. The page also includes a search bar and a '最新記事' (Latest News) section.

理系科目の学習情報を発信

SNS やポスターを利用し、理系科目に関する学習情報を発信。

The poster is titled '形式電荷' (Formal Charge). It explains that formal charges are used to represent the distribution of electrons in a molecule. It includes a chemical structure of a carboxylic acid derivative with a red circle around the carbonyl oxygen atom and a speech bubble saying 'コレ!!' (This!!). Below the structure, it lists '形式電荷の計算のポイント' (Key points for calculating formal charges):

- 分子内で原子に割り当てられる電子数が、元々持っている価電子数からどのくらい変化しているのか、ということを示している。
- 結合1つは2電子を含み結合は均等（ホモリシス）に割れると考える。つまり、1結合につき原子は1電子を持っているとする。
- 電子は負電荷を有するので、元々の価電子数よりも多くの電子を所有する場合にはマイナスの電荷を持つことになる。

The poster is titled 'ファラデーの電磁誘導の法則' (Faraday's Law of Induction). It explains that a changing magnetic field induces an electric field. It includes a diagram of a bar magnet moving towards a coil, with magnetic field lines and induced current shown. The text states: 'ファラデーの電磁誘導の法則といえば、コイル内の磁場を変化させると電圧が生み出される。' (Faraday's law of induction is that a voltage is generated when the magnetic field inside a coil changes.)

The poster is titled '1年生向け物理の学びポイント!' (Key points for learning physics for first-year students!). It lists several topics:

- 【振動と波】** (Vibration and Waves): Discusses wave propagation and energy transfer.
- 【相対運動】** (Relative Motion): Discusses relative velocity and acceleration.
- 【量子力学】** (Quantum Mechanics): Discusses wave-particle duality and the uncertainty principle.

 It also includes a section for '内容別 おすすめの曜日' (Recommended days by content) and '物理のミニクイズ' (Physics mini-quiz).

英会話体験 WEEK の開催

英会話支援をまだ利用したことがない学生に向けて、体験会を実施。



留学生支援の強化

日本語ライティング支援、日本語会話ワークショップを拡充。



「美術館の楽しみ方、 教えます！」開催

すぐ近くにある宮城県美術館にあまり訪れたことがない学生を主な対象に、学芸員の解説を聞き、対話しながら鑑賞する企画を実施。

「統計学の基礎と批判的思考 をじっくりと学ぶゼミ」開催

主に文系学生に向けて、統計学の基本的なイメージをつかむことと、批判的・論理的な思考力を高めるためのゼミを開発・実施。



◆2018年度事業内容・成果

1. スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

本学学生による学生のための学習支援スタッフである SLA (Student Learning Adviser)により、主に学部生の授業時間外の学習に対する支援を行っている。2018 年度の SLA 数は、前期 32 名、後期は 39 名であった。うち当該年度中に新規採用した SLA は 19 名である。

この SLA による学習支援は、①理系科目の学習支援、②英会話・日本語会話学習支援、③ライティング支援、④学習イベント企画という 4 つに大きく分けられる。2018 年度の利用者数は延べ 1,880 名、1 活動日あたりの利用者数は 13.3 名であった。

2018 年度は情報発信に重点的に取組み、相談窓口を利用しなくても様々な学習情報に学生がアクセスできる環境づくりを目指し、学習情報ポータルサイト「学びのヒント by SLA」を新規開設した。物理・化学に関しては、ポスター掲示やブログ・SNS を活用した情報配信を定期的に行った。

①理系科目

理系科目の学習支援は、質問受付カウンターでの SLA による個別対応型が中心となっている。平日 2 講時から 5 講時の一部の時間帯に、ドロップイン（予約不要）の形態で、個別もしくはグループでの質問を受けている。

学習支援の質向上を目指し、OJT や Off-JT、学生対応の標準化と研修機会の拡充を推進した。2018 年度の利用者数は延べ 729 名、実数では 224 名で、利用者アンケートの総合満足度は平均 93.6 点（回答 389 名）であった。

②英会話（主に日本人学生対象）および日本語会話（留学生対象）

「英会話カフェ」（ワークショップ）および「1 on 1」（個別対応）を通して、利用学生の多様なニーズに応じた学習支援を行った。2018 年度の英会話支援の利用者数は延べ 489 名、実数で 73 名、利用者アンケートにおける総合満足度は平均 98.8 点（回答 392 名）であった。

留学生の日本語学習支援として、「日本語会話」ワークショップ（前期週 2 回・後期週 1 回、1 時間/回）を開催（前期 21 回、後期 9 回）した。参加者は延べ 55 名（前期 21 名、後期 34 名）であり、参加者アンケートにおける評価は平均 99.5 点（回答 40 名）だった。

③ライティング支援

ライティング支援の 2018 年度の窓口利用者は延べ 52 名、実数で 37 名であった。留学生に向けた日本語ライティング支援としても積極的な広報を行うことで利用を促し、留学生利用者数は延べ 21 名、実数で 13 名だった。

また、『東北大学レポート指南書』に準じたアカデミックスキルセミナー「レポート指南書入門ゼミ」を定期開催した。2018 年度は、この「レポート指南書入門ゼミ」の内容を見直し、『東北大学レポート指南書』の章立てに対応するよう、全 5 回の内容から全 6 回の内容に更新した。実施回数は合計で 30 回、参加者は延べ 262 名、参加者アンケートの総合満足度は平均 89.8 点（回答者 246 名）だった。

④学習イベント企画

学習イベント等の企画実施として、新入生を対象とした企画「SLA 雑談会」、哲学カフェ「かんがえるソファ」を開催したほか、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を実施した。また当センター初の学外機関との協働実施企画として、宮城県美術館の協力を得て「美術館の楽しみ方、教えます！」という新規企画を実施することができた。

2. 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2018年度は、「シニア SLA」制度の運用をはじめ、部会活動やメンター制度、その他の OJT の仕組みも合わせて、SLA 同士の自律的な研修・育成システムを継続的に運用した。特に、SLA を学習支援者として育成するための研修プログラムを体系化し、日常的な学生対応について SLA が相互に検討し学び合う環境を醸成できた。

当該年度も、全ての SLA を対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に活動報告会を実施した。これらの活動により、期間を通した SLA サポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題の振り返りを行った。セメスター中には「部会」(SLA の担当分野別研修会)を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。SLA 共通研修として、学内の講師に依頼した研修を 1 回、外部から講師を招聘したセミナーを 2 回開催した。セメスター末には全 SLA に対してアンケートやヒアリングを実施し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討すると同時に、個々の課題を総合的に把握・整理することにより全体課題の精査を行った。3 月には本学にて、北海道大学・福島大学と、学習支援に従事する学生スタッフの合同研修を実施した。

3. 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

学務審議会に対して、半期ごとにセンターの利用状況・活動報告を行った。

その他、理系の初年次基礎科目を中心として、学習支援センターに集まる学生の質問・学修情報を科目委員会にフィードバックした。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、希望のある教員の担当授業に対して、センター教員がアカデミック・ライティング教育に関する「出前授業」を行った。

4. 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習支援の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLA による学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。学習企画イベント実施については、新入生を対象とした企画「SLA 雑談会」(4 月計 5 回開催、参加者延べ 18 名)、哲学カフェ「かんがえるソファ」(前期 12 回、後期 10 回開催、参加者延べ 95 名)を開催したほか、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を実施した。また新規企画として、宮城県美術館の協力を得て実現した「美術館の楽しみ方、教えます！」(後期 3 回開催、参加者延べ 30 名)を開催した。この企画は、美術館を訪れた経験をあまり持たない学生を主たる対象にしたワークショップであり、学芸員による施設及び作品のガイドと、対話による作品鑑賞を通して、芸術に親しむきっかけを提供した。

他に、SLA とセンター教職員の協働による企画として、批判的思考と統計リテラシーの向上を目指した統計ゼミを計 10 回開催した。文系学部学生を主対象としていたが、多様な学年や学部より延べ 61 名の参加者があった。また、学外講師を招聘して「学びの転換セミナー」を開催した。これは SLA 研修を兼ねた一般公開型のセミナーで、年間に計 2 回開催し、参加者は延べ 82 名だった。新入生を対象とした企画「SLA 雑談会」、哲学カフェ「かんがえるソファ」のほか、留学生を対象とした日本語会話ワークショップの開発・拡充を進めた。

5. 学内外における学習支援ネットワークの構築

学内では、機構教員の協力を得て SLA 共通研修を実施したほか、附属図書館から各種イベントの実施や広報に定期的な協力・支援を得た。また、留学生や特別な支援を要する学生等への学生支援に関する情報交換等のため、グローバルラーニングセンターおよび学生相談センターとのミーティングを実施した。

学外との学習支援ネットワークとしては、前年度に引き続き、3 月に本学にて福島大学・北海道大学との 3 大学合同研修会(学生学習支援スタッフ研修)を開催した。

1. センター概要

学習支援センターは、2014年度の高度教養教育・学生支援機構の発足に伴い設立された業務センターの一つである。その前身となったのは、高等教育開発推進センターにおける「SLA サポート室」の活動（2013年度）であり、さらにはそれ以前の「全学教育学習支援プロジェクト—SLA（Student Learning Adviser）制度の実践—」（総長室付け、2010年度～2012年度）の活動が土台となっている。

（1）理念・使命

学習支援センターの使命には、次の3点を掲げている。

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を、実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

学習支援センターの支援対象は主に学部生を対象とした全学教育（教養教育）である。特に1・2年次学生にとっては、高校教育から大学教育への移行において「学びの転換」が課題となっており、その転換を実践的に支援・促進するのが本センターの重要な役割の1つである。

本センターの学習支援の特徴は、学習支援活動の主な担い手が「SLA（Student Learning Adviser）」と呼ばれる学生スタッフであることにある。「学生による学生のための学習支援」の在り方を模索し、開発していくことも本センターの使命の一つである。

（2）事業

学習支援センターが行う事業は、次の4点である。

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施
- (2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践
- (3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献
- (4) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進
- (5) 学内外における学習支援ネットワークの構築

本センターでは、高大接続の円滑化と大学教育での「学びの転換」、そして「単位制度の実質化」に対応するため、大学初期段階での学びのスタートアップ支援を行う。研究大学における学習支援としては「リメディアル教育」に資する支援を行うと同時に、学生が学修を深化させ、あるいはより幅広い学習へと拡張していくための「レベルアップ」のための支援を開発・実施していく。

(3) センタースタッフ構成 (2018 年度時点)

センター長 芳賀 満 (高度教養教育・学生支援機構 教授、考古学)
 副センター長 佐藤智子 (同 准教授、生涯学習・社会教育)
 センター員 縣 拓充 (同 助教、教育心理学・認知科学)
 頼 羽廷 (同 助教、教師教育、教員評価)
 鈴木真衣 (教育・学生支援部 教務課、事務職員〈限定〉)

SLA 2018 年度前期 32 名、後期 39 名 (下表のとおり)

・シニア SLA : 前期 4 名、後期 6 名

・留学生数 : 前期 2 名、後期 3 名

<表 1-1. 2018 年度 SLA 一覧>

	担当	名前	所属	学年	活動期間	備考
1	物理	佐藤 諒	理	D 2	2013 後期～	
2		高根 大地	理	D 1	2014 前期～	シニア (後期より)
3		大野 敦	理	M 2	2015 後期～	シニア
4		吉澤 拓哉	理	M 1	2016 前期～ 2018 前期	
5		早坂 遼一路	工	M 2	2016 前期～	
6		名古屋 雄大	理	B 4	2017 前期～	
7		野本 大作	理	B 4	2017 前期～	
8		小沢 耀弘	理	M 2	2018 前期～	
9		川田 七海	理	M 1	2018 前期～	
10		赤池 瑞生	理	B 4	2018 後期～	
11		早部 希	工	B 3	2018 後期～	
12	数学	中島 啓貴	理	D 2	2013 後期～	
13		伊東 邦大	理	D 2	2017 前期～	
14		三宅 庸仁	理	D 1	2016 前期～	シニア (後期より)
15		浅野 喜敬	理	M 2	2015 後期～	
16		竹熊 健人	理	M 2	2017 前期～	
17		渡辺 孝佳	理	M 1	2018 前期～	
18		佐藤 俊	工	B 3	2018 前期～	
19		森 祥仁	理	M 1	2018 後期～	
20		稲吉 晴子	環	M 1	2018 後期～	
21	化学	三上 進一	理	M 2	2017 前期～	シニア (後期より)
22		鹿野 真史亜	薬	B 3	2018 前期	
23		中村 祐輝	工	B 3	2018 後期～	
24	英語	酒井 祐輔	文	D 2	2015 後期～ 2018 前期	シニア
25		田 偉辰	国文	M 2	2017 前期～	
26		樋口 靖浩	工	M 1	2016 前期～	
27		米田 佑	教	M 1	2016 前期～	
28		韓 吉輝	工	B 4	2018 前期～	
29		水野 彩子	薬	B 3	2018 前期～	
30		田村 惇	文	M 1	2018 後期～	

31	ライティング	玉田 優花子	文	D 2	2016 前期～	シニア
32		木村 真理子	文	D 2	2017 前期～	
33		相原 貴次	文	M 2	2017 前期～	
34	企画	鈴木 あすみ	文	D 1	2016 前期～	シニア
35		松村 健吾	工	M 2	2017 前期～	
36		福地 成彦	理	B 4	2017 前期～	
37		鈴木 志保	文	B 3	2018 前期～	
38		西塚 孝平	教	M 1	2018 前期～	
39		葉 晶晶	経	M 1	2018 後期～	
40		鏡 耀子	文	M 1	2018 後期～	
41		工藤 さやか	文	B 4	2018 後期～	

注) 学年は 2018 年度末のものを記載した。

SLA (エスエルエー) とは、Student Learning Adviser の略で、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことを指す。SLA は学部 3 年生～大学院生の先輩学生たちであり、全学教育を受ける学部 1・2 年生の学習サポートを行っている。SLA による学習支援のコンセプトは学生同士の“学び合い”である。「ともと学ぼう、ともに育とう、『ともそだち』 Together we learn, Together we grow,TOMOSODACHI!」をキーワードに、学習支援を行っている。

<表 1-2. 2011～2018 年度 SLA 人数推移>

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
前期	38	37	36	46	62	50	52	32
後期	37	37	37	49	55	55	45	39

(単位:名)

2. センター活動・実績報告

1 重点目標

学習支援センターでは、SLA が学習支援を行う「SLA サポート」として、①物理・数学・化学を中心とした理系科目支援、②英会話支援、③ライティング支援、④企画発信型支援を行っている。その他の支援としては、⑤自主ゼミ支援、⑥CLS “学びの転換” セミナー開催をしている。

本年度の重点目標は、①企画発信の強化、②正課教育との連携強化、③留学生支援の強化、の3点とした。

①企画発信の強化

- 各種セミナーの開発・実施
 - ・「統計学と批判的思考をじっくりと学ぶゼミ」を開発・実施
- 初年次学生向け学習教材の開発
 - ・初年次学生向けライティング教材『東北大学レポート指南書』の副教材（参考文献の書き方・引用の仕方について）を作成し、学習支援センターのホームページ上で公開
 - ・SLA による学習情報発信活動（ポスター掲示および SNS による発信）
 - 「1 年生向け物理の学びのポイント」（月例発信）
 - 「有機化学の理解のポイント」（不定期発信）
- 全学教育に関する学習情報の積極的配信とポータル Web サイトの開設
 - ・上記学習情報の集約的発信のための学習情報ポータル Web サイト「学びのヒント by SLA」を新設

②正課教育との連携強化

- グローバルゼミへの「出前授業」

国際教育科目の授業「グローバルゼミ」（展開ゼミ）において、センター教員がレポートの書き方について講義する出前授業を1コマ（90分）実施
- 哲学カフェ「かんがえるソファ」との連携

センター教員の授業「学び合いの技法」（展開ゼミ）において、ファシリテーションの場への参加を課し、その一つとして「かんがえるソファ」を紹介

③留学生支援の強化

- 「日本語会話」ワークショップの定期開催

日本語会話を楽しみながら練習できる機会を継続的に提供
- 留学生の日本語ライティング支援

主に研究生による日本語チェックの利用が増加

2 理系科目支援

理系科目（主に物理・数学・化学）の学習支援は、平日2～5講時の間で質問窓口を設置し、個別対応型学習支援の形態で支援を実施している。2018年度の利用者数は、のべ年間729人（前期441人、後期288人）であった。



①利用者数

前年度縮小した窓口開設数だが、SLAの人数が減少したため、今年度はさらに縮小した。延べ利用者数は約1割減少し729人だったが、実数は前年度水準を維持した。延べ数については工学部の利用が100人以上減少した。

②利用傾向

科目群ごとの利用傾向が前年から変化した。具体的には「物理学A・C」や「数学物理学演習」など、物理に関連する科目の利用が大きく減少した。一方、「解析学」「数理統計学」「化学A」を中心に、数学・化学の利用は増加した。また、昨年度大きく減少した「自然科学総合実験」の利用は回復した。

③新たな試み：学生が窓口に来なくても利用できる学習支援

窓口開設数を縮小せざるを得ない状況のなか、窓口開設時間外でも利用できる学習支援として、主に1年生に向けて「今月の物理の学習ポイント」、「身近にある物理現象の仕組み」、「有機化学の理解のポイント」などを情報発信した（ポスター掲示およびSNS配信）。

<表 2-2-1. 2011～2018年度 理系支援利用者数等変遷>

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
前期延べ数	901	1,125	916	1,682	1,545	972	468	441
後期延べ数	433	761	421	1,121	786	795	332	288
合計延べ数	1,334	1,886	1,337	2,803	2,331	1,767	800	729
実数	423	462	350	583	517	356	240	224
開設コマ数	120	129	126	127	126	112	68	52

<表 2-2-2. 利用回数別人数（実数）>

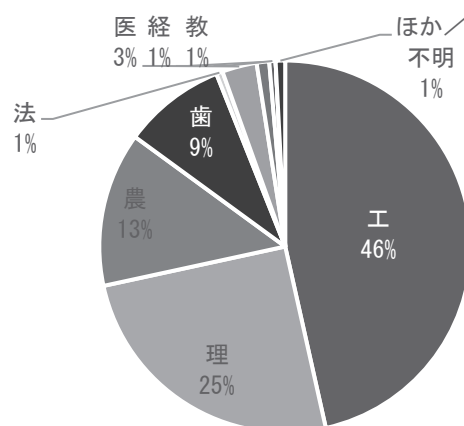
利用回数	2017	2018
1回	125	114
2回	26	24
3回	23	20
4回	21	15
5～10回	28	43
11～20回	14	8
21～30回	1	0
31回以上	2	0

<表 2-2-3. 学年別利用者数（延べ数）>

	2017	2018	割合
1年	619	566	78%
2年	168	133	18%
3年	6	10	1%
4年	6	8	1%
その他	1	12	1%

<表 2-2-4. 学部別利用者数>

学部	実数		延べ数	
	2017	2018	2017	2018
文	3	0	4	0
教	2	2	3	4
法	0	4	0	4
経	6	2	12	8
理	56	50	193	183
医	3	3	9	22
歯	7	11	10	65
薬	6	0	15	0
工	125	125	454	339
農	32	27	91	98
不明	—	—	9	6
合計	240	224	800	729



<図 2-2-1. 学部別利用割合 (延べ数) >

<表 2-2-5. 科目群別利用件数>

	2017	2018
物理	230	133
数学	269	290
化学	76	81
自然科学総合実験	20	47
数学物理学演習	137	80
その他	11	2

<表 2-2-6. 2017・2018 年度上位 8 授業別利用者延べ数比較>

A. 前期セメスター

授業名	2017	2018	増減
解析学 A	47	76	+29
化学 A	20	54	+34
数学物理学演習 I	75	44	-31
物理学 A	65	41	-24
自然科学総合実験	7	41	+34
物理学 D	29	29	±0
線形代数学 A	36	26	-10
線形代数学概要	13	24	+11

B. 後期セメスター

授業名	2017	2018	増減
数学物理学演習 II	81	48	-33
数理統計学	5	48	+43
解析学 B	37	36	-1
線形代数学 B	27	28	+1
化学 C	21	23	+2
解析学概要	16	17	+1
物理学 B	56	14	-42
自然科学総合実験	14	14	±0

利用者数合計	468	441	-27
--------	-----	-----	-----

利用者数合計	332	288	-44
--------	-----	-----	-----

(「利用者数合計」はその他の質問を含むセメスター全体の合計数である。前年度比率の比較のために掲載した。)

3 英会話支援

英会話支援では、複数人で話すタイプの「英会話カフェ」（以下、「カフェ」とする。）とマンツーマンタイプの「1 on 1 英会話」（以下、「1on1」とする。）の2種類の形態で活動している。

① 実施形態

英会話担当 SLA の人数が減少したため、前期セメスターでは「1on1」を行わず「カフェ」のみを実施した。その結果、利用者数が実数で半減し、なかでも1年生の利用が減少した。その要因として「カフェ」のみだと新規利用者が参加しづらかったと考え、後期セメスターでは「1on1」を復活させた。

今年度は、英会話に参加したことがない学生に向けて「英会話カフェ体験会」を開催した（前期5回、後期8回）。前期は普段の活動場所で開催したが、後期には附属図書館でも開催した。



② 利用傾向

活動時間数は前年度の6割となったが、延べ利用者数は前年度並みの489人であった。例年は後期セメスターで利用者数が減少するが、今年度は利用者数が維持された。

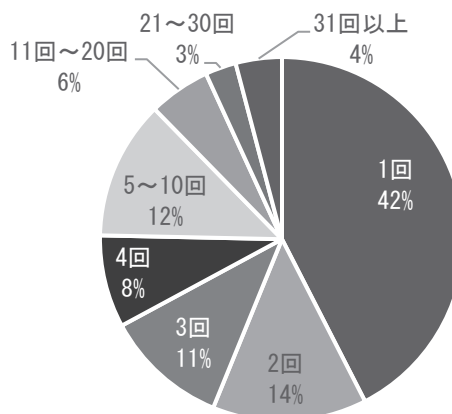
一方、実数で見ると、前期セメスターは前年度から半減し、特に1年生の減少が目立った。それでも延べ数が前年度並みであったのは、リピーター学生が増加したためで、31回以上利用する学生が3名いた（最多は88回）。後期セメスターは「1on1」の復活や「英会話カフェ体験会」の実施により、新規利用者数が増加した。

<表 2-3-1. 2011～2018 年度 英会話支援利用者数等変遷>

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
前期延べ数	215	100	203	238	427	312	306	242
後期延べ数	183	61	133	460	224	206	180	247
合計延べ数	398	161	336	698	651	518	486	489
実数	70	50	94	196	150	130	110	73
開設コマ数	6	7	27	24	46	44	30	18

<表 2-3-2. 利用回数別人数（実数）>

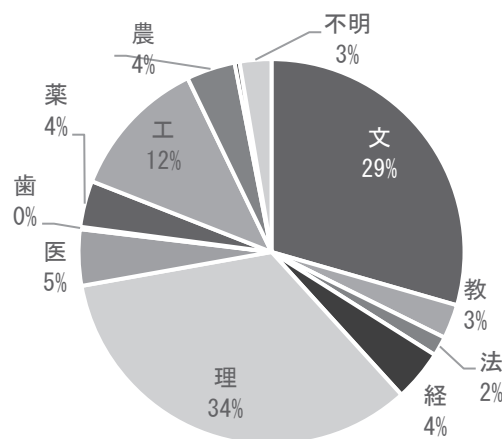
利用回数	2017	2018
1回	51	31
2回	23	10
3回	8	8
4回	5	6
5～10回	12	9
11～20回	8	4
21～30回	2	2
31回以上	1	3



<図 2-3-1. 利用回数別割合（実数）>

<表 2-3-3. 学部別利用者数>

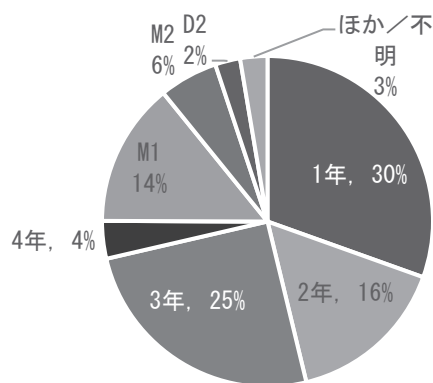
学部	実数		延べ数	
	2017	2018	2017	2018
文	12	17	44	144
教	10	4	26	14
法	5	5	22	8
経	16	7	84	21
理	22	10	186	166
医	7	8	21	23
歯	1	1	2	1
薬	1	1	2	19
工	25	16	68	58
農	7	4	26	20
その他	4	—	4	2
不明	—	—	1	13
合計	110	73	486	489



<図 2-3-2. 学部別利用割合（延べ数）>

<表 2-3-4. 学年別利用者数（延べ数）>

学年	2017	2018
1年	220	149
2年	217	77
3年	37	123
4年	5	18
修士	3	97
博士	2	12
研究生	1	0
不明	1	13
合計	486	489



<図 2-3-3. 学年別利用割合（延べ数）>

4 ライティング支援

ライティング支援は、窓口対応（個別対応型支援）とゼミ開催（企画発信型支援）の2形態で支援活動を行っている。

① 窓口対応（個別対応型支援）

前年度までと異なり、特定授業との連携は行わなかった。全体の利用者数は51人減少したが、特定の連携授業を通じた利用を除いた一般利用者数だけで比較すると、わずかに増加した。

後期セメスターでは、留学生による日本語チェックの利用が増加した。これは、主に研究生から、大学院試を受ける際の研究計画書の確認をしてほしいという相談であった。

② 『レポート指南書』入門ゼミ（企画発信型支援）

昨年度から実施している『レポート指南書』入門ゼミを、内容を改定して開催した。1回45分で、教員またはSLAが実施した。全6回×週2～4回×2クール（計30回）開催し、参加者は延べ262人であった（表3-3-6）。

③ 出前授業の実施（授業連携型支援）

国際教育科目のグローバルゼミ（展開ゼミ）の1クラスに、センター教員がレポートの書き方についての出前授業1コマ（90分）を実施した。

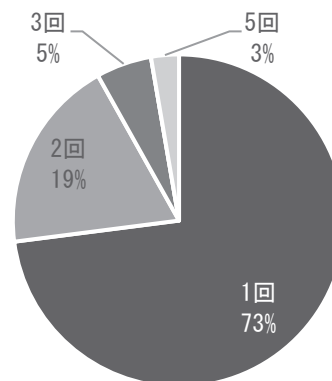


<表 2-4-1. 2014～2018 年度 ライティング支援窓口利用者数>

	2014	2015	2016	2017	2018
前期延べ数	22	54	34	68	31
後期延べ数	4	21	27	35	21
合計延べ数	26	75	61	103	52
うち留学生数	-	-	-	32	21
実数	19	68	56	70	37

<表 2-4-2. 利用回数別人数>

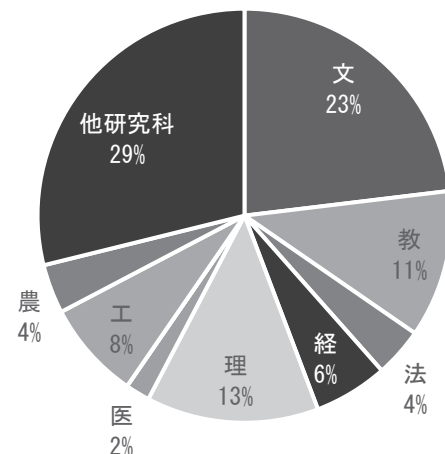
利用回数	2017	2018
1回	50	27
2回	12	7
3回	6	2
4回	0	0
5回	1	1
6回	1	0



<図 2-4-1. 利用回数別割合>

<表 2-4-3. 学部別利用者数>

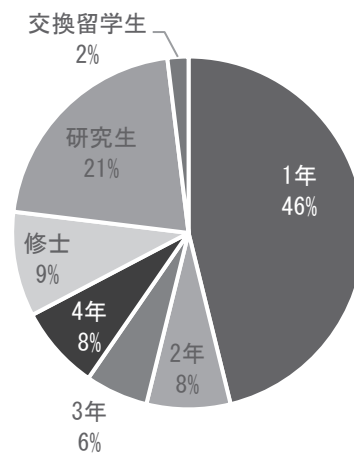
学部	実数		延べ数	
	2017	2018	2017	2018
文	21	11	33	12
教	4	4	8	6
法	8	1	11	2
経	8	3	11	3
理	7	4	10	7
医	1	1	1	1
歯	0	0	0	0
薬	0	0	0	0
工	6	4	7	4
農	6	2	12	2
留学コース	5	0	5	0
他研究科	4	7	5	15
合計	70	37	103	52



<図 2-4-2. 学部別利用割合 (延べ数) >

<表 2-4-4. 学年別利用者数 (延べ数) >

学年	2017	2018
1年	69	24
2年	5	4
3年	6	3
4年	0	4
修士	8	5
研究生	1	11
交換留学生	14	1
合計	103	52



<図 2-4-3. 学年別利用割合 (延べ数) >

<表 2-4-5. 『レポート指南書』入門ゼミ』等参加者数>

	2014	2015	2016	2017	2018
前期 (人)	-	-	40	84	262
後期 (人)	-	17	-	4	-
合計 (人)	-	17	40	88	262

<表 2-4-6. ゼミ開催時期ごと参加者数>

	2017	2018
第1弾 (4~5月)	64 (全5回×4度ずつ)	244 (全6回×4度ずつ)
第2弾 (6~7月)	18 (全5回×2度ずつ)	18 (全3回×2度ずつ)
第3弾 (10~11月)	4 (全5回×1度)	—

5 学習企画・イベント

(1) SLAによる学習企画・イベント

今年度は5つの企画を実施した。

1. 「かんがえるソファ」(イベント)：火曜もしくは水曜の16:30~17:30を中心に開催した。各回60分。普段「当たり前」だと思っている内容や、身近にありながらも実は改めて考えたことのないテーマを取り上げ、学生同士で考え対話する。後期はセンター教員の全学教育の授業とも連携して実施した。
2. 「SLA 日本語会話」(イベント)：留学生を対象に、日本語会話を楽しみながら練習できる機会を提供した。各回60分。後期では留学生団体から聞き取った意見も踏まえて、活動を行った。
3. 「美術館の楽しみ方、教えます！」(イベント)：宮城県美術館と連携した新企画で、全3回実施した。各回120分。「美術館に興味はあった最初の一步を踏み出せなかった人」を主なターゲットに、学芸員のガイドのもと、対話を通して美術鑑賞を行う機会を提供した。
4. 「SLA 雑談会」(イベント)：4月の最初の1週間、お昼の時間に開催した。各回40分。新入生を対象とし、大学での学びに関する多様な疑問や不安について先輩と話をする機会を提供した。
5. 「チャレンジボード」(常設型)：SLA ラウンジ内に自由書き込み型の掲示板を設置し、問題を出し合うなど学生同士の知的交流の場を創出した。

(2) センターによる学習イベント

今年度は2つの企画を実施した。

1. 「学びの転換セミナー」(詳細は23ページ)
 - ①「人工知能(AI)から見た『知識』と『学習』」：講師は日本IBMの間々田隆介氏。
 - ②「インプロ(即興演劇)で学ぶ コミュニケーションスキルと発想力を磨くワークショップ」：講師はインプロ・ワークス代表/東京大学の絹川由梨氏。
2. 「統計学と批判的思考をじっくりと学ぶゼミ」

統計学の基本的な考え方について学びながら、日常や社会に対し、批判的な視点を身につけることを目的とした。センターの教員とSLAが共同で企画・教材作成をし、附属図書館にて全5回、各回2度実施した。

【スケジュール】

◆全5回・各回16:30~17:30

第1回「情報を批判的に捉えよう：イントロダクション」

－ 11/19(月)・11/20(火)

第2回「データをどうまとめる？：記述統計」

－ 11/26(月)・11/27(火)

第3回「2つの指標の関係性を考える：相関と因果」

－ 12/3(月)・12/4(火)

第4回「一部から全体を推測する：推測統計」

－ 12/10(月)・12/11(火)

第5回「調査研究の落とし穴」

－ 12/17(月)・12/18(火)

(3) その他のイベント

「トランスサイエンスカフェ 地震予測と防災」: 本学のグローバル安全学トップリーダー育成プログラムの大学院生が企画。当センターと共催という形で実施した。

<表 2-5-1. 2018 年度 学習イベント利用者数>

企画名	実施日数（実施日）	利用者のべ数
■SLA 企画		
かんがえるソファ	前期	計 12 回 (4/23～7/24)
	後期	計 10 回 (11/6～1/22)
SLA 日本語会話	前期	計 21 回 (5/22～8/2)
	後期	計 9 回 (11/9～2/1)
美術館の楽しみ方、教えます！	計 3 回 (12/21～2/19)	30 人
SLA 雑談会	計 5 回 (4/9～13))	18 人
■センター企画		
学びの転換セミナー「人工知能 (AI) から見た『知識』と『学習』」	1 回 (7/9)	57 人
学びの転換セミナー「インプロ (即興演劇) で学ぶ コミュニケーションスキルと発想力を磨くワークショップ」	1 回 (2/12)	25 人
統計学と批判的思考をじっくりと学ぶゼミ	計 10 回 (11/19～12/8)	61 人
■その他		
トランスサイエンスカフェ 地震予測と防災	1 回 (12/13)	7 人
計		348 人

<表 2-5-2. 「統計学の基礎と批判的思考をじっくりと学ぶゼミ」開催日ごと参加人数>

第 1 回		第 2 回		第 3 回		第 4 回		第 5 回	
11/19	11/20	11/26	11/27	12/3	12/4	12/10	12/11	12/17	12/18
22	32	14	16	2	10	4	12	4	6

6 利用学生評価

当センターでは、利用学生からの評価を得るためアンケートを実施している。このアンケートには2種類ある。一つは、相談窓口の開設という形態で実施している、理系科目、英会話、ライティング支援におけるアンケート（以下、「利用者アンケート」）である。もう一つは、学習イベントにおいて、各企画への参加者に対し行うアンケート（以下、「イベント参加者アンケート」）である。

① 利用者アンケート

利用者アンケートは、対応ごとにその都度アンケート用紙を配布する形で行っている。アンケート用紙は図 2-6-1 のもので、前年度から変更はない。上半分の「問題解決、対応満足、対応総合点」は回答を求めており、コメント欄は任意の形で案内している。実際回答するかは学生次第であり、用紙を渡しても未回収のこともある。このため利用者総数とは一致しないが、2018 年度に回収したアンケート総数は 959 件であった。

2018 年度の利用学生による対応総合点は平均 96.5 点であり、過去最高だった前年度 96.7 点と大きく差はなかった（点数が記入されていたものは 908 件、100 点以上は 100 点に修正換算）。また、問題解決と対応満足についての質問には、下表の通り多くの対応で、「解決」「満足」の回答を得ることができている。なお、コメント一覧は付録 A に掲載している。

<表 2-6-1. 「利用者アンケート」の回答結果【2018】>

	Q 問題は解決しましたか？			Q 対応に満足できましたか？		
	した	どちらでもない	しなかった	できた	どちらでもない	できなかった
前期	358	25	9	482	16	1
後期	268	9	3	380	4	0
合計	626	34	12	862	20	1

利用日 ____ 月 ____ 日 () 利用内容: 物理・数学・化学・英語・他
数物・実験・ライティング・日本語

■問題は解決しましたか？ した・しなかった・どちらでもない
※英会話の場合は↑は未記入でOKです！

■対応に満足できましたか？ できた・できなかった・どちらでもない

SLA の対応総合点 ____ 点 / 100 点

<コメント (任意)>

.....

.....

.....

(お好みで) ニックネーム _____

一部、SLA サポート室の壁に掲示します♪ 掲示不可の場合は丸を付けてください。⇒ 掲示不可

<図 2-6-1. 2018 年度版「利用者アンケート」用紙>

② イベント参加者アンケート

イベント参加者アンケートは、下記の活動で配布した。満足度は概ね 80 点台後半から 90 点台前半であった。

<表 2-6-2. イベント参加者アンケートにおける評価結果【2018】>

	イベント名	満足度平均	感想（抜粋）
1	『レポート指南書』入門ゼミ (計 30 回)	89.8 (n=246)	マインドマップを使うことによってレポートが書きやすくなることを知ったので、マインドマップをこれからも利用しようと思う。 アウトラインを立てるだけで、自分のレポートが論理的であるのか（問いと主張が一致しているか）を確認でき、とても大切なことだと思いました。
2	SLA 雑談会 (計 4 回)	91.4 (n=17)	何でも話せる雰囲気が良いと思いました。 SAP の話やバイトの話など聞きたいことが聞けてとてもためになりました！ありがとうございました！！
3	考えるソファ (計 22 回)	88.5 (n=82)	自分一人では達することのできなかつた意見にたかめることができ、参加して良かったと思う。 講義ではない場で意見を交わすのは楽しかった。自分がコミュ障なのかわからないけど、他の人のコミュ力への考えにも触れられたので満足している。
4	美術館の楽しみ方、教えます！ (計 3 回)	89.2 (n=26)	自分が知らないものを知れてとても楽しかった。作品をもっと時間をかけて見たいので、また来ようと思う。 作品のどういう点を見て感じるのか、皆さん違って面白かったです。作品の背景を知ること、より楽しめることが分かりました。

7 SLA サポート窓口開設状況

2018年度のSLAサポート窓口開設時間は、以下の図の通りであった。前期・後期セメスター共に、期末のテスト時期（前期：7月、後期：1月）に理系科目の窓口開設時間を拡大した。

	月	火	水	木	金
2講時 10:30~12:00	—	—	物 数 化 英	—	—
昼休み 12:00~13:00	—	—	物 数 英	—	—
3講時 13:00~14:30	—	—	—	—	物 数 英
4講時 14:40~16:10	物 数 英	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英	物 数 英
5講時 16:20~17:40	物 数 英	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英	—

<図 2-7-1. 前期セメスター>

	月	火	水	木	金
2講時 10:30~12:00	—	—	物 数 化	—	—
昼休み 12:00~13:00	—	—	物 数 化	—	—
3講時 13:00~14:30	物 数	—	物 数	物 数	—
4講時 14:40~16:10	物 数 化 英	物 数 化 英	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英
5講時 16:20~17:40	物 数 化 英	物 数 化 英	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英

<図 2-7-2. 前期セメスター拡大版(7月)>

	月	火	水	木	金
2講時 10:30~12:00	—	—	物 数	—	—
昼休み 12:00~13:00	—	—	物 数	—	—
3講時 13:00~14:30	—	—	物 数	—	—
4講時 14:40~16:10	物 数 英	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英	—
5講時 16:20~17:40	物 数 化 英	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英	—

<図 2-7-3. 後期セメスター>

	月	火	水	木	金
2講時 10:30~12:00	—	—	—	—	—
昼休み 12:00~13:00	—	数	数	—	—
3講時 13:00~14:30	物 数	物 数	物 数	物 数	—
4講時 14:40~16:10	物 数 英	物 数 化 英	物 数 化 英	物 数 英	—
5講時 16:20~17:40	物 数 英	物 数 化 英	物 数 化 英	物 数 英	—

<図 2-7-4. 後期セメスター拡大版(1月)>

8 自主ゼミ支援

2018年度の登録自主ゼミは、6ゼミ（名簿登録学生数135名）であった。内訳は、以前から継続して登録しているゼミが2つと、新規登録したゼミが4つであり、詳細は表2-8-1の通りである。今年度は新規登録するゼミが多くあったが、きっかけは例年1年生に配布している『ともそだち本』を見たというものであった。

センターで行っている支援内容としては、放課後の教室貸出とSLAラウンジ利用時の備品貸出という環境支援が主である。自主的な学習活動を支える上で、活動場所の提供は重要なサポートの一つである。今年度は登録ゼミが増加したのに伴い、教室貸出回数も増加した。

一方で、「自主ゼミ活動を生む」支援の取り組み方は、依然として課題である。

■□ 詳細データ □■

① 登録自主ゼミ一覧

合計6ゼミで、新規登録が4ゼミあった。

＜表 2-8-1. 2018年度登録自主ゼミ＞

ゼミ名	学生の所属	内容	主要学年	人数 ※	継続/ 新規	支援時期
金属材料ゼミ	工学部（材料系）	勉強会	1～3年	18	継続	前期・後期
FTE	主に工・理学部	ロケット製作	1～2年	91	継続	前期・後期
kerf（仮）	理学部	勉強会	1年	5	新規	前期
プレゼンゼミ	主に文学部	勉強会	2年	8	新規	前期・後期
Python－統計自主ゼミ	主に経済学部	勉強会	1年	5	新規	後期
Python もくもく会	主に工学部	勉強会	1,4年	8	新規	後期

※「人数」は名簿登録人数であり、実際の活動人数は異なる場合もある。

② 教室貸出回数

貸出回数は合計45回で、前年度を大幅に上回った。

＜表 2-8-2. 2018年度教室貸出回数＞

	4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月
回数	1	7	11	7	12	5	2	0

学習支援センターは、学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、学生間の「学び合い」文化を醸成することを使命に掲げている。CLS“学びの転換”セミナーは、この使命に取り組むための専門的知見や実践的経験を持つ講師を招聘し、東北大学における「学び合い」文化醸成に資することを目的としている。セミナーの対象はSLAに限らず、広く本学の学生や教職員とし、様々な視点から“学び”について意見交換や議論をすることを目指している。また、これらのセミナーをSLA 共通研修として位置付けている (p.62)。

テーマ	実施日・期間	開催場所	参加者数
人工知能 (AI) から見た「知識」と「学習」	2018年 7月9日 (月) 16:30~18:00	マルチメディア 教育研究棟 6階大ホール	57
インプロ (即興演劇) で学ぶコミュニケーションスキルと発想力を磨くワークショップ	2019年 2月12日 (火) 13:30~17:30	講義棟 A401	25

(1) 第1回：人工知能 (AI) から見た「知識」と「学習」

概要： AI の基本を学びつつ、AI と私たちがどう共生し、AI によって社会がどう変わり得るのかを考える。特に、以下のような観点からの講義と議論を狙いとした。

AI はどのように知識を得て、どのように学んでいるのか？ / 「機械学習」や「ディープラーニング」の考え方とは？ / AI は、「知識」をどのように獲得し、どのように理解するのか？
・ 人間には難しいことの中で AI が得意なことは何か？ / 人間が当たり前に行っていることの中で AI にとっては何が難しいのか？ / 社会の中で AI はどのように使われているのか？ また、今後、応用の可能性があるのか？

講師：間々田隆介氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社サーバー・システム事業部コグニティブ・システム事業開発 AI 推進部 部長)

(2) 第2回：インプロ (即興演劇) で学ぶコミュニケーションスキルと発想力を磨くワークショップ

概要： コミュニケーションスキルや発想力を高めるための、インプロ (即興演劇) によるワークショップ。インプロ (「Improvisation」: 即興) とは、音楽やダンス、演劇など、あらゆる芸術分野で用いられている創作・表現方法の一つ。台本がない中で、仲間と協力しながら、その場に合わせて瞬間的に反応し、思考・判断し、新しい表現や創造へとつなげていく。このようなインプロを活かしたワークショップは、近年ビジネスや教育現場で積極的に行われている。講師は、日本のインプロ教育の第一人者である。ワークショップや場づくりのスキルを高めたい人におすすめとして、楽しくアクティブなワークやゲームなどを行った。

講師：絹川友梨氏 (インプロ・ワークス 代表、東京大学)

10 その他活動

(1) 学内連携等

<組織間ネットワーク>

- ・グローバルラーニングセンター 留学生支援関連の情報交換
- ・附属図書館 授業における広報活動、学習イベントにおける共催
- ・学生相談・特別支援センターより、支援依頼受諾
- ・評価・分析センターに「CIR Insights」記事のため利用状況データを提供
- ・基礎ゼミ・展開ゼミ FD においてライティング支援案内

<正課還元>

- ・全学教育担当教員にむけた情報フィードバックをホームページに掲載（学内専用）

(2) 訪問受け入れ

- ・岩手県立大学（教員 2 名、職員 1 名）

(3) 照会等

- ・平成 30 年度東北地区国立大学法人学生関係副学長・部課長会議「ピアサポーター制度について」

(4) 学内貢献活動

- ・萩友会プレミアム懇談会自由見学開催
- ・オープンキャンパス開催

(5) 広報活動

- ・『ともそだち本 2018』発行・配布
（学習支援センターの利用案内兼学習支援冊子として発行し、各学部オリエンテーションで配布した。対象：新入生・新 2 年生、配布：約 4630 部）
- ・ホームページ更新、Twitter による情報発信
- ・各種ポスター発行

3. 部会活動報告

|| Summary ||

■各部会の活動概要

①物理部会

情報発信に注力し、月ごとの学習ポイントをまとめたポスターの作成や、身近な物理現象のブログ記事作成を行った。協力して実施できたことは成果であったが、発信効果の評価方法などが課題となった。

②数学部会

質問対応に関する気づきを共有するために「数学ノート」を導入した。また「数学特有の言葉遣い」の整理、例年対応に悩みがちな部分の検討などを行った。今後は「支援」の部分の議論をしていくことや、発信できるコンテンツを検討することが課題である。

③化学部会

SLAメンバーが少ないなかでも、SLA研修教材の改善、対応知見 Tips の作成、有機化学のポイントの Twitter 発信を行うことができた。Twitter 発信については、学生ならではの面白みを含んだ表現で閲覧数が多くなったツイートもあった。

④英語部会

シフトを越えて新しいアクティビティやアイデアを共有し、カフェ運営を改善させた。また、新規利用者に参加してもらいやすいよう体験会を開催した。その結果、新規利用者が参加しやすくなり、リピーターも増加した。

⑤ライティング部会

対応時のポイントをチェックリストとしてまとめるなど対応に関する知見のまとめ、メールの書き方など、広く文章作成に関する学習コンテンツの作成、留学生向け質問対応の蓄積に取り組んだ。留学生に対する支援については、今後知見をまとめてどうスキルを高めていくのが課題である。

⑥企画部会

既存企画の定期開催を継続するとともに、新企画を検討し、美術館と連携した企画を作ることができた。今後は既存企画の運営・広報の改善や、ファシリテーションの技術を高めていくことが課題である。

1 物理部会

(1) 基本情報

<表 3-1-1. 2018 年度物理部会構成>

人数：前期 9 名、後期 10 名
前年度からの継続メンバー：7 名
部会長：【前期】吉澤拓哉（修士 1 年、2016 年 4 月採用）
【後期】早坂遼一路（修士 2 年、2016 年 4 月採用）

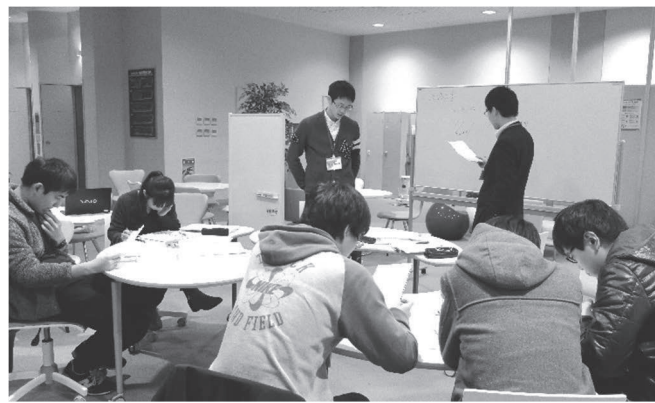
<表 3-1-2. 物理部会 2018 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数
定例1	2018/4/12	木	18:00~19:20	8
定例2	2018/5/29	火	18:10~19:40	8
定例3	2018/7/10	火	18:10~19:40	6
定例4	2018/8/6	月	17:00~18:30	5
定例5	2018/10/9	火	18:10~19:30	7
定例6	2018/11/13	火	18:15~19:45	9
定例7	2019/1/15	火	18:15~19:55	6
定例8	2019/2/8	金	13:00~14:30	6

(2) 活動概要

今年度は物理に関する質問件数が大幅に減った状況もあり、物理部会としては情報発信に取り組んだ。具体的には、①月ごと学習ポイントのポスター掲示、②身近な物理現象のブログ記事作成、である。①については、1 年生に向けて月ごとに学習上注意したい部分をまとめてポスター掲示し、学生の学びを支援するとともに、わからなければ気軽に立ち寄ってほしいことをアピールした。②については、前年度まとめていた「物理に興味を持ってもらうための話題」からの発展的活動であり、身近な事例 3 つをわかりやすくまとめ、ブログに掲載した。

SLA から google drive の活用が提案され、当初の予定通りの件数を協力して発信できたことは成果であった。一方、質問対応が減少したこともあり発信作業中心になってしまったことや、発信したものがどれだけ見られたのか、有用だったかなどを確かめる方法がないなど、課題も残った。



(2) SLAによる活動報告

物理部会活動報告

工学研究科量子エネルギー工学専攻 博士課程前期2年
SLA 物理担当 (2018年度後期物理部会 部会長) 早坂 遼一路

1. はじめに

本年度の物理部会 SLA は博士課程後期の学生2人、博士課程前期の学生4人、学部学生4人で活動を行った。活動は、学生の窓口相談と後述の部会活動から成る。窓口相談では SLA1人または2人が大学1、2年生の学習の相談にのる。その他の部会活動としては、ブログや Twitter を通して、物理部会 SLA で共同作成した内容の発信を行った。

2. 部会活動概要

本年度の特徴的な活動はブログや Twitter による外部発信である。前年度から物理部会では身近な物理現象に関する話題を収集してきた。本年度はさらにいくつかの話題について調査を行い、ブログに記事を掲載した。さらに、毎月1度大学1、2年生がつまずきやすい学習ポイントをまとめたポスターを作成し、Twitter による発信を行った。

(1) ブログ作成

ブログ記事作成の目的は、大学1、2年生に物理をもっと身近に感じてもらい、学習のモチベーションを向上すること、そして SLA 利用を促すことである。ブログでは、「ICカード Suica の仕組み」、「建築物の共振」、「タッチパネルの仕組み」の3つの記事を作成した。記事ごとに1人か2人をリーダーとし、文章は物理部会 SLA 全員で分担して作成した。SLA 全員で取り組むことで、部会の統一感が生まれたと同時に、ブログ記事作成のための情報収集によって SLA の物理に関する知識が深まった。一方で、ブログの閲覧数や閲覧者の情報が分からなかったため、ブログにどの程度の効果があったのか評価できなかった。また、ブログ記事の作成に多くの時間を使いすぎた感があり、次年度以降は、より簡単に、かつ記事の効果を評価できるような形で外部発信を行うべきだという反省が得られた。

(2) 今月のつまずきポイント発信

本活動では、大学1、2年生が学習でつまずきやすいポイントを毎月1度ポスターにまとめ、Twitter で発信した。

3. 定例ミーティング記録

定例ミーティングでは、まず、学生の窓口相談について、どのような学生・質問が来たのかの情報を共有し、窓口相談の改善を図る。次に、窓口相談以外の活動 (Twitter・ブログ) についての進捗状況や内容の確認を行う。さらに、窓口相談にきた学生の質問を個別に取り上げ、特定の問題について議論することで、SLA の対応スキルの向上を図る。

■第1回 (4月)

前年度の利用学生の質問にどのような傾向が見られたか共有した。また、身近な物理現象の話題を前年度は収集してきたが、今年度はそれを外部に発信できるようにまとめる方針を決定した。

■第2回（5月）

ある学生の対応事例の検討を行った。本対応は電磁気学についての質問だったが、学生の疑問を分析し、SLAの対応の改善について議論した。

■第3回（7月）

身近な物理をまとめた内容をブログで発信する、twitterで学びのポイントを毎月発信する、という活動目標を設定した。対応の事例検討では学生が複数人いる場合、計算だけでなく理解を促す対応、コミュニケーションが苦手な学生の場合を検討した。

■第4回（8月）

利用状況の情報共有を行った。また、ブログ記事の発信内容の検討、掲示したポスターにQRコードをのせるなど、ブログ記事を読んでもらう工夫が話し合われた。

■第5回（10月）

ブログ記事作成の計画と書き方の具体的な方針が決定した。

■第6回（11月）

理系の大学1年生の必修科目である自然科学総合実験の質問に対応できるようにということが議題に上がった。事例検討では、時間もなく、学生のニーズに合わせた対応ができなかった事例について話し合われた。また、作成中のブログ記事の内容の検討がなされた。

■第7回（1月）

物理部会部会長による流体力学の簡単な講義を行った。理学部のSLAで流体力学に馴染みがないSLAも多いため、工学部での学習内容の概要が共有された。ブログ記事の作成について改善点が議論された。

■第8回（2月）

来期の活動に向けて、今年度取り組んだブログ記事の作成とTwitterの発信についての反省点が話し合われた。さらに、自主ゼミ支援、SLA自身の勉強会など、次年度に行う活動の案を議論した。

4. 成果と課題

本年度は前年度までは行ってこなかった、外部への発信に取り組むことができた点が大きな成果だと考える。物理部会SLA全体でブログ記事の作成を行うことで、統一感も生まれ、部会の議論も活発にすることが出来た。一方で、外部発信には改善点も多い。次年度は外部発信を以下に効率よく行うか、そして学生からのフィードバックをどのように得るかを考慮して取り組む必要がある。

また、本年度は利用学生数が例年と比べて少なかった。原因は明らかではないが、多くの学生にとってより良い学びの場となるように、SLAの対応の向上を図りたい。

2 数学部会

(1) 基本情報

<表 3-2-1. 2018 年度数学部会構成>

人数：前期 7 名、後期 9 名 前年度からの継続メンバー：5 名 部会長：竹熊健人（博士課程前期 2 年、2017 年 4 月採用）

<表 3-2-2. 数学部会 2018 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数
定例1	2018/4/18	水	18:00~19:20	6
定例2	2018/5/29	火	18:10~19:40	7
定例3	2018/7/6	金	18:10~19:40	6
定例4	2018/8/9	木	14:00~15:20	4
定例5	2018/10/9	火	18:10~19:30	9
定例6	2018/12/3	月	18:15~19:45	7
定例7	2019/1/15	火	18:15~19:45	9
定例8	2019/2/13	水	16:20~17:50	6

(2) 活動概要

本年度は質問対応の検討を軸に活動した。質問対応に関する気づきについてシフトを越えて共有するための「数学ノート」、1年生がつまずきがちな「数学特有の言葉遣い」の整理、例年対応に悩みがちな部分の検討などを行った。質問対応をこなしていく中で対応の安定感が高まったので、今後は数学の知識面よりも「支援」の部分を磨いていくことが課題である。



(2) SLAによる活動報告

数学部会活動報告

理学研究科数学専攻 博士課程後期1年
SLA 数学担当 三宅 庸仁

1. はじめに

今年度の数学部会は博士3名、修士5名、学部生1名（内修士1名、学部生1名が前期に新規加入、修士2名が後期に新規加入）の計9名で活動を行った。専門の内訳は解析学2名、幾何学3名、代数学2名、工学2名と、数学専攻だけでなく工学部のメンバーを含めた構成であった。

2. 部会活動概要

本年度の数学部会では、主に (1) Tips の作成、(2) 数学 Tips ノートの作成を行った。(1) は昨年度から引き続き行ってきたものであるが、(2) は昨年度の総括で得られた知見をもとに本年度から新規導入したものである。また、昨年度に引き続き事例検討会として「今後来そうな質問の予習」と「実際に対応に困った事例」の検討会を行った。以下、上述の (1) 及び (2) についてその詳細を述べる。

(1) Tips の作成

昨年度に引き続き、これまでの SLA が得てきた知見をまとめた Tips の作成を行った。新規の Tips を作成することは昨年度同様に行うこととし、昨年度までに未完成であった Tips を完成版として今後に残す活動も同時に行った。また、昨年度の Tips 作成作業は主に個人で行っており、数学部会の SLA 全体の知見を反映できなかった。このことを考慮し、本年度は全員の知見を反映できる方法をとることとした。そのための方法の1つとして、以下の (2) で述べる数学 Tips ノートの作成を考案した。

(2) 数学 Tips ノートの作成

昨年度の反省点を踏まえ、本年度の活動から「数学 Tips ノート」を作成した。これは、(1) で述べた要因に加えて Tips のもととなる SLA の知見（具体例・躓きポイント・対応のコツなど）を気軽に残すことのできる媒体が必要ではないかという昨年度の総括であげられた意見を反映させたものであった。

3. 定例ミーティング記録

今年度の定例ミーティングでは、主に「事例検討会」と「作成 Tips の確認・議論」を行った。共に昨年度から継続して行う活動であったが、後者に関しては新たに作成した「数学 Tips ノート」に挙げられた内容も含めた議論となった。以下、各定例ミーティングで行った内容を簡潔に述べる。

■第1回（4月18日）

新規メンバーの自己紹介を行った後に、昨年度行った Tips の作成方法の確認と反省点の振り返りを行った。昨年度の反省点を踏まえ、今年度は「自由帳（数学 Tips ノート）の作成」を行ってより自由度の高い形で SLA の知見が集められる形をとった。また、第2、3回に行う事例検討会の方針とテーマの選定を行った。

■第2回（5月29日）

前半は情報共有、後半は事例検討会を行った。事例検討は2件の事例について検討し、「SLA 側は厳密な定義とイメージの2つを抑えて学生に説明することが望ましい」「学生に類題を探させることが重要」という2つの知見を得た。

■第3回（7月6日）

前半は情報共有を行い、後半は Tips 案の考察と事例検討会を行った。Tips 案に関しては、数学特有の言葉遣いに関する Tips と数物演習の対応 Tips の作成案があげられた。事例検討会では、図やグラフを使ってうまく概念のイメージを伝えることができないか議論した。

■第4回（8月9日）

前期の部会活動の総括を行った。前期の部会活動は Tips の作成作業がメインとなり、各 Tips の土台を作成し終えたので、後期の活動ではそれらをまとめていく作業を行うこととなった。また、昨年度までに作成した Tips の内容を確認して完成版を作成する作業を後期のシフト中に行うこととした。

■第5回（10月9日）

新規2名を加えて、これまでの活動の確認と後期の活動方針の確認を行った。後半では、数物演習における2つのトピックに関する議論を行った。また、第6、7回における事例検討会担当者と検討内容の選定を行った。

■第6回（12月3日）

事例検討会、及びこれまで議論されてきた「デルタ関数」「数学的な言葉遣い」に関する議論を行った。デルタ関数についてはこれまでの事例と知見をもとに Tips としてまとめることとなり、数学的な言葉遣いに関しては参考図書を各自確認することとなった。

■第7回（1月15日）

数物演習の「ラプラス変換」と「偏微分方程式」におけるテキストの説明に関する事例検討会を行った。ラプラス変換に関してはどのような点に学生はつまづくのかを議論し、偏微分方程式は実際の事例をもとにどのように説明すると効果的であるか意見交換をした。

■第8回（2月13日）

今年度の活動に関する総括を行った。今期は Tips の作成をメインに行ってきたが、これらを実際にどのように活用していくのか議論した。また、来年度に行っていくべき活動に関する議論を行った。

4. 成果と課題

本年度の活動では、昨年度に引き続き多くの Tips の作成に着手できたと考える。また、本年度から活用を開始した数学 Tips ノートは、特に前期期間中ノート上で活発に議論を行い、「数学特有の言葉遣い」という新たな Tips の作成の足がかりとなった。

反省点として、第一に「Tips の活用方法の不透明さ」という点が挙げられる。ここ数年間で Tips 作成作業は重点的に行われた活動であり、これまでに多くの Tips が作成されてきた。しかし、それらの作成資料を実際の学生対応にあまり活かすことは現状できていない。この反省点を踏まえ第8回の部会活動において Tips の活用方法について話し合い、「Tips のリスト化を行い、どのような学生対応があるのか（難しいか）を明示し、迷った場合に1つのヒントとして確認できる環境を整えておく」ということとなった。

また、今期の活動では「外部への発信作業」「部会としての対応スキルの向上活動」があまり行えなかった。前者については、今期の定例ミーティング等であまり議論されていない内容であったので、来期の部会活動で「どのような内容を発信すると学生の興味を引くのか」を考え、発信する材料集めに取り掛かりたいと考える。後者に関しては、SLA のスキルアップのための活動としてビデオリフレクションを行うこととした。

3 化学部会

(1) 基本情報

<表 3-3-1. 2018 年度化学部会構成>

人数：前期 2 名、後期 3 名
前年度からの継続メンバー：1 名
部会長：三上進一（博士課程前期 2 年、2017 年 4 月採用）

<表 3-3-2. 化学部会 2018 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数
定例1	2018/4/11	水	11:00~12:20	2
定例2	2018/6/27	水	11:00~12:00	2
定例3	2018/8/9	木	14:00~15:20	2
定例4	2018/10/5	金	18:10~19:30	3
定例5	2019/2/13	水	16:00~17:30	2

(2) 活動概要

メンバーが少ない中でも、①SLA 研修教材の改善、②対応知見 Tips の作成、③有機化学のポイントに関する Twitter 発信を積極的に行った。①については、SLA が化学 A の対応に備えるためのチェックリストを改善した。②については、前年度未完了の Tips を完成させた。③については、有機化学の理解するポイントをスライド 4 枚程度にまとめ、それを画像添付して Twitter で発信した。学生ならではの親しみやすいユーモアのある表現により、多くの閲覧数を獲得したツイートもあった。



(2) SLA による活動報告

化学部会活動報告

理学研究科化学専攻 博士課程前期 2 年

SLA 化学担当 (2018 年度化学部会 部会長) 三上 進一

1. はじめに

本年度は、学部生 1 名を新規メンバーとして迎え、それに修士 1 名を加えた計 2 名で活動を開始した。10 月にはさらに学部生の新規メンバーを迎え 3 人体制になったものの、学部生の内 1 名が研究室の忙しさのためにシフトに入ることが徐々に困難となり、後期後半は実質的に計 2 名での活動であった。昨年に引き続いて十分な人員を確保できない現状ではあったが、その中でも外部に向けた情報発信を積極的に行いながら新規メンバーの育成も同時に行い、来年度の部会活動に向けて力を蓄えるような 1 年となった。

2. 部会活動概要

前期は化学 A に関する『量子化学理解度 check リスト』の問題および解答の整理、さらに化学 C に関する外部向け発信作業の計画を行い、後期は発信資料の作成と twitter で投稿という形での発信作業を計 5 回行った。

(1) 『量子化学理解度 check リスト』の問題および解答の整理

『量子化学理解度 check リスト』とは、数年前に作成された、化学 A の講義での量子化学の要点をまとめたものである。設問形式となっており、これを一通り解くことができれば化学 A の講義内容をきちんと理解できていると言える様な内容となっている。

昨年度の部会活動では、外部向けだった本資料の、内部向け研修資料化の一環として解答の作成を行ったのだが、解答の不足や問題文の分かりにくさという問題点が残されていた。そこで、新規メンバーの研修資料として実際に本資料を使いながら問題文の改編点を洗い、改編を行いながら同時に不足解答の作成を行うことで問題点を解消した。

一方で、本資料の解答のフォーマットを統一した上でデジタル化を進めていくことを当初計画していたのだが、内部向けの研修資料としては現在の手書き型でも十分に役割を果たしていること、デジタル化を行うだけの人手が不足していること、この 2 つの理由から現在の形でひとまずの完成とすることとした。次年度以降に再度外部向けの発信資料として用いる場合には、改めてデジタル化を行う必要があると考えている。

(2) 化学 C に関する外部向け twitter 発信作業

前述の『量子化学理解度 check リスト』は主に化学 A に関する内容のものであり、これは当時の化学部会に量子化学を専攻するメンバーが多かったために作成が行われたという背景がある。一方で、現在の化学部会は人数は少ないもののメンバー全員が有機化学 (化学 C にあたる) を専攻しており、これを好機と捉えて化学 C に関する外部に向けた twitter での発信作業を行うこととした。

マクマリー有機化学を参考に 15 個のテーマを設定し、パワーポイントを用いて 3~4 枚のスライドにそれぞれまとめた後に、画像という形で twitter にて投稿した。その際、著作権フリーのイラストを用いてスライドの作成を行うことで、内容は化学に関するものでありながらも、キャッチーな見た目になるように工夫した。

投稿を開始してから徐々に反響が増加し、最大で約 3500 回のインプレッション回数 (twitter 利用ユーザーがツイートを見た回数) を獲得するなど、SLA 公式アカウントとしては過去最高となる反響があった。このことから、来年度も継続的な投稿をしていくことで更なる反響が見込めるものと

考えている。

3. 定例ミーティング記録

昨年に引き続いてメンバーが少なく、また同じシフトに入ることが多かったため、定例ミーティングを行わずにシフト内だけで情報を共有するのみで済ませる試みを行った。その結果として、事例検討を行う機会がなくなってしまうことにより、新規メンバーはもとより継続メンバーの成長の場が失われてしまうという気付きを得るに至った。

一方で、計5回行った定例ミーティングでは、『物理化学の基礎（柴田茂雄 著）』の誤植情報の共有や外部向けの情報発信作業に関する情報共有を主に行ったが、継続メンバーが1人しかいないという状況もあり、事例検討は積極的に行うことができなかった。

■第1回（4月）キックオフミーティング

部会運営に関する役割分担を決定し、今後の活動計画についての見通しを共有した。

■第2回（6月）

各シフトの情報や部会作業の進捗状況を共有した上で、化学部会の今後の活動として化学Cに関する外部発信作業を提案し、概ねの内容や日程に関する議論を行った。

■第3回（8月）前期活動総括

主観的な前期質問傾向と対応に関する知見を部会全体で共有した他、前期の間に試験的に行った交換日記形式での情報共有に関して議論した。また、外部発信作業における役割分担についても話し合いを行った。

■第4回（10月）後期方針決め

化学Cに関する外部発信作業について新規メンバーも含めて再度情報を共有し、いつまでに作成および発信を行うのかに関して具体的に目標を設定した。

■第5回（2月）後期および本年度活動総括

後期の外部発信作業をメインに1年間を通して行った部会活動内容を整理し、成果と課題を議論した上で、来期に向けた引継ぎ事項を部会内で共有した。

4. 成果と課題

今年度は、昨年の後期に引き続き週2日程度しか窓口を開設できなかったが、一方でそれを埋め合わせるだけの可能性を秘めた、外部向けの情報発信に関する方法を確立することができた。これによって、今後の発信内容の工夫によっては後期最終シフトの特異的な混雑を事前に避けることが期待される。また、定例ミーティングを行わないことで部会作業に費やす時間は増えたものの、事例検討の時間が失われてしまうという問題点も見つかった。来年度は、引き続き発信作業を行いながらもビデオリフレクションなどの検討の場を設けることによって、継続メンバーの成長を促す機会を作っていけるような部会運営を行っていきたいと考えている。

4 英語部会

(1) 基本情報

<表 3-4-1. 2018 年度英語部会構成>

人数：前期 6 名（2 名）、後期 6 名（2 名）	※（）内：うち留学生数
前年度からの継続メンバー：4 名	
部会長：樋口靖浩（博士課程前期 1 年、2016 年 4 月採用）	

<表 3-4-2. 英語部会 2018 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数
定例 1	2018/4/11	火	18:00～19:30	5
定例 2	2018/6/1	木	18:10～19:40	4
定例 3	2018/7/12	金	18:15～19:45	6
定例 4	2018/8/9	火	13:00～14:30	4
定例 5	2018/10/10	水	18:00～19:30	4
定例 6	2018/11/14	木	18:10～19:40	5
定例 7	2019/1/16	水	18:10～19:40	5
定例 8	2019/2/6	水	10:30～12:00	4

(2) 活動概要

今年度は、①異なる曜日（シフト）のメンバー間で新しいアクティビティやアイデアを共有し、それぞれのカフェ運営を改善させていったこと、②新規利用者に参加してもらいやすいよう体験会を開催したことが特徴である。カフェ運営の改善については、勉強会や相互レビューを実施した。その結果、リピーターが増加し、より居心地の良いカフェの運営ができるようになった。体験会については、新規利用者が一定数いたことから、敷居の低い入口を設けることができた。



(2) SLA による活動報告

英語部会活動報告

工学研究科航空宇宙工学専攻 博士課程前期1年
SLA 英語担当 (2018 年度英語部会 部会長) 樋口 靖浩

1. はじめに

今年度の英語部会は、6人のメンバーで活動が始まった。このうち4人が日本人学生、2人が留学生で構成されていた。前期は新人2人がSLAを数年経験しているメンバー4人の下で研修を行い、経験を積んだ。前期活動中で経験者メンバーが一人減り、後期からは5人体制で活動をしてきたため、可能な限り各曜日に担当者が入るようシフト調整をしていた。後期の後半からは日本人学生が1人加わり、再び6人で活動していた。

2. 部会活動概要

これまで英語部会はツイッター等を通して、窓口の情報や活動内容の発信を行っていた。しかし、英会話を一度も利用したことのない学生が、どの程度情報を入手し実際に来ているかわからないことが課題であった。そのため今年度は、興味はあるが利用するきっかけがない学生向けに、「英会話体験ウィーク」というイベントを打ち出し、新規利用者数の増加を試みた。

また、英語部会の対応外の活動について考えた。英会話は連続で利用者が来ることが多々あるため、別曜日の利用状況の確認や部会活動に時間を割くことが難しい。そのため今年度は効率的な情報共有と部会活動を目指して、メーリスだけではなく、LINEやSlackの導入を検討した。詳細を以下に記す。

(1) 英会話体験ウィーク

学生にSLA英会話の存在を知ってもらい、気軽に足を運び英語の練習ができる場としての認識を広めるため、新規利用者数の増加を試みた。特に、「レベルが高そう」といったイメージや「興味はあるけどきっかけがない」等の理由で利用をためらう学生がいるかもしれない点に着目した。このような学生の利用を促すため、一週間を通して各曜日の担当者がそれぞれ話し合うトピックを決め、興味のあるトピックに参加できるよう告知を行い、体験ウィークという題目でイベントを打ち出した。前期・後期共に体験ウィークを行ったところ、通常の利用状況と比べて新規利用者が多く参加していた。その後、通常の英会話に再び訪れる学生もいたため、継続支援の観点からも有意義な企画であった。

(2) 部会活動・情報共有の効率化

英会話は継続利用者もいるため、基本的に時間の空くシフトは珍しく、利用状況の把握、部会の準備、対応記録の作成等の対応外の業務に時間を取ることが難しい。記録等は紙媒体を利用していることが多く、作業を行う場所が制限されてしまう。そのため今年度の英語部会では情報共有ツールとしてLINEを導入した。活動記録と部会ミーティングの資料はLINEグループに投稿し、いつでも情報共有と確認が可能になり、活動の自由度が増えたといえる。

3. 定例ミーティング記録

今年度の定例ミーティングは、各担当者がよく行っているアクティビティや対応方法等の「ノウハウの共有」、体験ウィークならびに対応方法の検討を行い、組織的なつながりを強化した。また、LINEで情報共有が可能になったため、部会ミーティングでは情報共有シートを廃止し各々が情報を

事前に把握し、検討事項がある場合その事例を議題に上げて話し合いを行った。

■第1回（4月）

第1回目の部会ミーティングでは、①第2回目以降のミーティングの進め方、②記録用紙の使い方、③今後の活動計画・体制決めについて話し合われた。①では今後の部会ミーティングでは主に「事例検討」と「ノウハウの共有」を行うことが決定した。②では少しずつ改定されている記録用紙の使い方を改めて全員で共有し確認した。③では今年度の部会長を決定した。また、この部会以降は対応の合間にそれぞれが使用しているマテリアルを整理し、使用方法を部会で共有する準備を行うこととした。

■第2回（6月）

第2回目の部会ミーティングでは、情報共有と各曜日の対応の課題について話し合われた。次に一人がレクチャーを行い、ノウハウの共有を行った。内容はレベル別の対応方法ならびに学生からのニーズを聞き出しそれに合わせる形で対応を行う方法であった。また、新規利用者数の増加を狙った、体験ウィークの企画について話し合い、各自テーマを決め、1週間を通してイベントを組むことに決めた。さらに、情報共有の効率化を図るためLINEグループの活用を検討した。

■第3回（7月）

第3回目の部会ミーティングでは、簡単に情報共有を行ったあと、検討事項として利用者アンケートの使い方と学生が沈黙した際の対応方法について話し合った。次に、対応の幅を広げるため、継続メンバー4人がそれぞれよく行っているアクティビティや対応のコツのレクチャーを行った。また、体験ウィークの反省会が行われ、後期は学生の空き時間が比較的多いセメスターの中頃や2回の実施を検討した。

■第4回（8月）

第4回目の部会ミーティングでは、前期の総括として各曜日の利用者の傾向を共有した。総合的に利用者の意識が高く、リピーターとなる学生も多いため継続的な支援ができていた。また、検討事項として、後期セメスターの体験ウィークの実施時期ならびに新しいマテリアルの共有方法について話し合った。

■第5回（10月）

第5回目の部会ミーティングでは、ノウハウ共有のため、メンバー1人が文法ミスをはっきりと指摘方法とリキャストでミスに気付いてもらう方法の使い分け方と注意点という内容でレクチャーを行った。検討事例として、リピーターがいる中で新規利用者が入りにくいことが挙げられ、1on1を各曜日の4限に設けることにした。また、学生の集まりやすい図書館で体験ウィークを行うことに決定した。

■第6回（11月）

第6回目の部会ミーティングでは、体験ウィークの反省会と初心者の対応方法について話し合った。今回の体験ウィークは各自の企画テーマに沿って行われたが、ゲーム形式やSLAのプレゼン形式では利用者の発話量が限定されていたため、もう少しインタラクティブな内容を企画することが課題として挙げられた。また、初心者向けであることをより強調して2回目の体験ウィークを開催することが決定した。初心者にはリピーターに助けてもらえるよう促したり、1on1の利用の紹介が重要であることが議論された。

■第7回（1月）

第7回目の部会ミーティングでは、情報共有を行い、cafeに途中参加の学生が加わった際の自己紹介はどの程度行うべきかが議題として挙げられ話し合った。また、一人がマテリアルの整理を行い、使いやすいもののレクチャーを行った。それぞれが次回の部会までに新しく覚えたものを挑戦することにした。アンケートの改善策も詳細に話し合い、概ね内容を決定した。

■第8回（2月）

第8回目の部会ミーティングでは、前回の部会レクチャーを受けたマテリアルを使用した結果に

ついて話し合った。また、今期の活動を振り返り達成できたことや来年度への課題について議論された。

4. 成果と課題

今年度の英語部会の目標は「ノウハウの共有」、「新規利用者数の増加」、「部会活動の効率化」の3つであった。「ノウハウの共有」は各部会ミーティングで経験者メンバーが得意なアクティビティや対応のコツのレクチャーを行った。そのため、英語部会全体の支援の幅が広がるとともに支援の標準化が行われたと考えられる。「新規利用者数の増加」においては、ターゲット層を明確にして体験ウィークを企画したところ、新規利用者の獲得に成功しており、今後も継続すべきであると考えられる。「部会活動の効率化」はLINEグループを作り、記入用紙の削減が行われ情報共有が簡単にできるようになった。上記の3点が行われたため、例年課題であった英語部会のチーム力強化が達成できたと考えられる。来年度の課題として、これまで培った対応のコツをtipsとしてまとめ、新メンバーに引き継げるようにする必要がある。また、新規利用者とリピーターが来る中で、誰でも参加しやすい雰囲気づくりを心掛け、それぞれのステップアップに必要な対応方法の検討が期待される。

5 ライティング部会

(1) 基本情報

<表 3-5-1. 2018 年度ライティング部会構成>

人数：前期 3 名、後期 3 名
前年度からの継続メンバー：2 名
部会長：玉田優花子（博士課程後期 1 年、2016 年 4 月採用）

<表 3-5-2. ライティング部会 2018 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数
定例1	2018/4/9	月	13:00～14:20	3
定例2	2018/5/30	水	18:10～19:30	3
定例3	2018/7/11	水	18:10～19:30	3
定例4	2018/8/1	水	17:30～18:50	3
定例5	2018/10/5	金	16:20～17:40	3
定例6	2019/2/6	水	15:40～17:10	3

(2) 活動概要

今年度は、①対応に関する知見のまとめ、②文章作成に関する学習コンテンツの作成、③留学生向け支援の蓄積、に取り組んだ。①については、対応時のポイントをチェックリストとしてまとめたほか、「レポートで問いが立てられない」という学生に対する支援についてまとめ、資料化した。②については、1年生がとまどうメールの書き方についてまとめた資料を完成、配布した。③については、留学生の質問対応の蓄積ができたので、それをどうまとめてスキルを高めていくかが今後の課題である。



(2) SLAによる活動報告

ライティング部会活動報告

文学研究科文化科学専攻 博士課程後期2年
SLAライティング担当(2018年度ライティング部会 部会長) 玉田 優花子

1. はじめに

本年度はライティング支援の高度化を目指して活動を行った。ライティング部会の特色は、窓口対応と企画発信を二本柱に据えていることである。これは部会設立以来の特色であり、背景としては、理系に比べて窓口利用者数が限られていることが挙げられる。本年度もこの傾向が大きく変化することはなかったが、利用者層は少しずつ多様化しており、理想的な支援のあり方についての再考が求められていた。そこで本年度の方針として、窓口対応におけるチュータリング方法の開発・改善と、窓口依存しないレポート作成支援コンテンツの開発を掲げた。3人という少数精鋭部会であるが、情報共有を円滑に行うことができるというメリットを生かし、活動に取り組んだ。

2. 部会活動概要

本年度の窓口利用者層は、依然として初年次学生(全学教育段階の主に一年生)を中心としながらも、高年次学生(卒業論文・修士論文レベル)、そして留学生が目立った。そこで、どのような利用者に対しても一定レベルの支援を提供できるよう、メンバーの経験値・経験知を蓄積し共有しながら、対応時にSLAが意識すべきチェックポイントをまとめた「チェックリスト」を作成・運用した。また、学習支援センター全体で留学生支援の開発・試行に重点を置く流れも受け、「留学生の日本語ライティング支援」を特に活動の中核に据えた。

窓口依存しないレポート作成支援コンテンツの開発に関しては、まず『レポート指南書』入門ゼミを本年度も開催し、その効果は参加者が後に窓口を利用した際に確認することができた。また、読み物「ライティング通信」や窓口利用促進ポスターの作製など、宣伝・発信を随時試みた。しかしそれ以上に、本年度新たに発案し、最も力を入れて取り組んだのが『問いの立て方』支援である。窓口対応及びその事例検討の中で、学生の本質的な躓きは問いを立てる段階にあるのではないかという見立てが生まれ、これに着眼して活動を行ったものである。

本年度の主たる活動であった「チェックリスト」、「留学生の日本語ライティング支援」、「『問いの立て方』支援」の3つについて、以下に概説する。

(1) チェックリスト

チェックリストは、対応のコンサルティング段階に関わる部分と本対応に関わる部分で構成される。コンサルティング段階では、本日の終了時間制限の有無、レポートの提出期限と課題要件、そして学生の聞きたいことを必ず確認した上で、本日の目標を設定・共有する。本対応では、具体的に見てほしい部分が学生側にある場合はそれを重点的に見るが、ほとんどの学生が口にする「とりあえず見てほしい」という場合は、課題要件、形式面、内容面の順に優先順位をつけて見る。形式面と内容面のチェックポイントもそれぞれ細分化されている。

これまでは課題要件および形式面をどちらかという軽視してしまい、レポートをとにかく一から読んで内容に入り込む傾向にあった。しかし、序論・本論・結論といった体裁を明らかにしないなど、一見して形式面に欠陥がある場合は、実際にレポートを読む前にそれを指摘したほうが効率的である。また、学生の主張を引き出して再構成したほうが「教えるのではなく考えさせる」という理想的な支援に近づくことができる。これらの対応方針はチェックリストを通して確立された。

(2) 留学生の日本語ライティング支援

留学生は専門的な研究計画書を持参することが多いが、住んでいる寮内の役職への志願書など、

レポート・論文ではない書類が持参される場合もあった。しかしどの場合でも、「日本語を見てほしい」というニーズは共通している。SLA は日本語教育専門ではないため、それを自覚した上で、支援の質の向上を図る必要があった。

情報共有と事例検討の結果、有効な手法の一つとして提案されたのは、利用者の日本語会話レベルが高ければ、SLA は文法の間違いや不自然な表現に赤線を引くに留め、その紙を利用者にそのまま渡して疑問点を質問してもらうというものである。この手法は、利用者に場の主導権を握ってもらうことが可能である。このように、利用者のレベルやタイプに応じた支援方法が適宜検討された。

(3) 「問いの立て方」支援

(1)で述べたように、窓口では利用者が持ってきたレポートを見、マクロな形式レベルで不備があれば、まずそれを指摘する。そこで浮き彫りになったのが、往々にして、序論にあたる部分が「問い」(レポートの問題意識、レポートで明らかにすること)を備えていないということである。その場合はSLA が「問い」についてのレクチャーをすることになるが、「問い」についてそもそも理解していない利用者が少なくないことも判明した。

「問い」に躓く学生が多い一方、レポート・論文の書き方を指南する文献やアカデミック・ライティングに関する研究で、「問い」を立てる段階を主たるテーマとして扱ったものは少ない。そこで本部会では、各自が分担して先行研究を参照し、「問いの立て方」支援についてまとめた。その内容は大きく5つに分かれており、①「問いとは疑問文で書かれた一文である」と考えてみる提案、②問いを立てる準備としての文献の読み方指南、③問いを生成するテクニックの紹介、④生成された問いを評価する方法の紹介、⑤その問いを文章全体に照らし合わせて整える方法の紹介、である。

上記の内容は部会の知見としてPPT データにまとめられた他、研究ノートとして『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第5号(2019)に掲載された。

3. 定例ミーティング記録

■第1回(4月9日)

全SLA 共通の部会運営方針及びライティング部会の重点目標を確認し、活動体制を固めた。

■第2回(5月30日)

情報共有と事例検討を行い、本会の議論内容を基にチェックリストを作成することが決定された。

■第3回(7月11日)

情報共有、事例検討、「問いの立て方」支援の作業分担を行った。またチェックリストが完成した。

■第4回(8月1日)

前期の活動を振り返り、夏の延長戦活動として行う「問いの立て方」支援について議論した。

■第5回(10月5日)

「問いの立て方」支援の個人作業進捗報告を行い、合わせて後期の活動方針を確認した。

■第6回(11月21日)

「問いの立て方」支援の作業成果のまとめ方を検討した。また窓口利用促進の方策を考えた。

■第7回(2月6日)

後期対応・今年度対応全体を振り返り、活動報告会に向けての作業分担を行った。

4. 成果と課題

本年度は窓口対応の経験と反省とを経て、対応の基本方針を確立し、対応の質の向上を図ることができた。一方で、SLA 側は知識や情報をきちんと伝えたつもりでも、一度窓口で支援を受けて修正し、再度持参された文章を見ると、SLA の伝えたい内容が必ずしも伝わっていない場合があることが判明した。また、企画発信の面では十分な活動を行うことができなかった。次年度は、窓口利用状況に応じて柔軟に企画発信を行いながら、利用者により伝わりやすい説明について部会で研究し、さらに質の高い支援を目指したい。

6 企画部会

(1) 基本情報

〈表 3-6-1. 2018 年度企画部会構成〉

人数：前期 5 名、後期 8 名 前年度からの継続メンバー：3 名

〈表 3-6-2. 企画部会 2018 年度開催ミーティング一覧〉

	日付	曜日	時間	参加人数
定例1	4月5日	木	18:30~20:00	3
臨時	4月9日	月	17:30~19:00	4
定例2	5月11日	金	18:30~19:30	5
定例3	6月25日	月	18:00~19:30	5
定例4	7月25日	水	17:00~19:00	5
定例5	8月8日	水	17:00~18:00	5
定例6	10月10日	水	16:20~17:50	7
臨時	10月23日	火	16:30~18:00	5
定例7	11月20日	火	18:30~20:00	8
定例8	12月18日	火	18:30~20:00	5
定例9	2月4日	月	17:30~19:15	7
定例10	2月26日	火	10:40~12:10	5

(2) SLA による企画実施報告

企画1：考えるソファ

- 1) 企画の目的・趣旨：なんとなくわかっている気がするけど、いざ聞かれてみると明確に答えられない、そんな“問い”についてみんなで考えてみる場を提供する事を目的とした企画である。学生にとって「他人と議論することって楽しいけど、なかなか機会はないし、場もないし、めんどくさい。」「特に、普段関わることのないような他学部・他学年の考えをきくことなんてほぼ皆無。」というような課題がある。しかし、大学には様々な出身・専攻の人が集まっている。そんな、普段まず関わることがないような人同士が集まり、一つのテーマをもとにお互いの考えを発信し合い“対話”していく。そういったことを参加者ができるだけ少ないエネルギーで実現できる、そのような場を大学内に提供したいという思いから開催した。
- 2) チームメンバー：松村健吾、福地成彦、鈴木志保、西塚孝平、鈴木あすみ
- 3) 課題と自己評価：全 12 回、参加者のべ 27 名という実績を残し、昨年に引き続き多くの参加者の「議論が楽しかった」「難しかった」「もっと議論したかった」「理解できなかった」といった、議論に向き合ったからこそ得られる感想を頂けた。今年は月 4 回、曜日も決定するといった定期開催を実現した。課題としては、参加者の理想を 3 名程度とするも、1 名の回が多く、また、毎回来てくれる学生も 1~2 名に留まり、リピーターの獲得が上手くいかなかった。

(文：松村健吾)

企画2：日本語カフェ

- 1) 企画の目的・趣旨：本企画は東北大学の留学生にとって授業以外で日本語の練習をする場が不足している現状を受け、友達と接するように日本語で話せるインフォーマルな機会を創出することを目指している。
- 2) チームメンバー：鈴木あすみ、鈴木志保、鏡耀子、工藤さやか
- 3) 課題と自己評価：前期は自己紹介やフリートークをしていたが、後期で内容を見直し、日常生活の場面にまつわる内容を各回のテーマに据え広報・実施した。その結果、前期は1,2名だった参加者が増加し、特に「敬語」をテーマとした回では過去最高の7人が参加した。今後は参加者のニーズがありそうなテーマを設定しながら、一方的に教えるのではなく、「どのように言うのが良さそうか」を一緒に考えるような進行の仕方を確立させたい。

(SLA 活動報告会発表より)

企画3：チャレンジボード

- 1) 企画の目的・趣旨：本企画の目的は、SLA ラウンジの中に学生同士の学び合いの環境を構築することである。SLA の活動では主に「窓口対応」「イベント開催」が中心になっているが、その2つの活動形態においては「SLA 対 学生」の関係性が基本になっている。一方、大学内に学生同士の自主的な学び合いの文化を醸成していくという視点に立った場合、「学生対学生」の関係性を土台にした学びの環境が必要になる。そこで、本企画は SLA が直接学生とコミュニケーションをとるというよりも、ボードを通して学生同士で学び合いのコミュニケーションを取れるような環境を作っていくことを目的とする。
- 2) チームメンバー：福地成彦、西塚孝平
- 3) 課題と自己評価：本年度の成果として、昨年度と同様に学生の書き込みが継続的にあったことが挙げられる。その書き込みの内容も分野の偏りなく様々な分野の書き込みが見られた。利用傾向としては昨年度と同様にトイレ側のボードのほうが入口側のボードよりも書き込みが活発であった。課題は、ボードの利用や活発になるような具体的な改善の施策を行えなかったことである。10月にミーティングを行い改善のポイントや新たな改善案を議論したものの、その後具体的に計画を実行に移すことができなかった。前述したボードの場所ごとの書き込みの頻度の差などの問題は、昨年度から問題として挙げられていたため、今後の速やかな改善案の実行が望まれる。

(文：福地成彦)

企画4：美術館の楽しみ方、教えます！

- 1) 企画の目的・趣旨：宮城県美術館を訪問し、学芸員の方のご協力のもと美術鑑賞や作品についてのディスカッションなどを行う企画。ただ美術館に行くのではなく、学芸員の方に解説をして頂いたり、他の参加者と感じたことを共有したりする点を重視する。
東北大学の学生は美術館や博物館を訪れやすい環境にあるにも関わらず、「いつか行ってみたいがなかなか機会が無い」「美術館は敷居が高く感じてしまう」といった理由から、実際に訪れたことがある人は多くない。このため、①美術館を訪れるきっかけの提供、②参加者が抱いている美術館や美術に対する堅いイメージを取り除くこと、を主な目的とした。
- 2) チームメンバー：鈴木志保
- 3) 開催状況：2018年度は、後期3回の開催となった。3回で共通して設けた内容が、一つの作品についてのディスカッションである。各回異なる作品を鑑賞したが、様々な解釈が生まれそうな作品

を意識して選んだ。これには、自由なアイデアを発信・共有することを通じて、美術作品には色々な解釈があって良いことに気づいてもらい、また、答えの無い問いについてブレインストーミングする体験をしてもらう狙いがある。

実施日時	内容	参加者数
12月21日(金) 15:00-17:00	・美術鑑賞 松本俊介『画家の像』 ・美術館を知る(照明や建築構造など、施設としての美術館を解説して頂いた)	16名
2月14日(木) 13:30-15:30	・美術鑑賞 14日:桂ユキ『人が多すぎる』	7名
2月19日(火) 13:30-15:30	19日:ヴァシリー・カンディンスキー『「E.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作(カーニバル・冬)』 ・宮城県美術館の収集方法、所蔵作品の特徴、東北大学との関係についても随時触れて頂いた	7名

4) 課題と自己評価: 2018年度の成果としては、学外でのイベント開催と参加者の獲得の2点である。第1の学外でのイベント開催については、学習支援センター初の試みとなった。宮城県美術館学芸員の松崎なつひ氏・細谷美宇氏のご協力のもと、学びの場を学外にも広げられたのは大きな成果と言える。第2の参加者の獲得については、新規企画ということで需要があるか不安があったものの、開催した3回とも申し込みを開始してから早期に定員が埋まった。アンケートでは「美術館に対するイメージが変わった」「一つの作品についてじっくりディスカッションする時間が新鮮だった」といった感想が得られ、企画を楽しんでもらえたようだった。

次年度に向けた課題としては、継続的な開催を目指して企画のブラッシュアップが挙げられる。開催した3回で見られた具体的な改善点としては、2時間の構成では参加者に疲れが見えたこと、アイスブレイクの仕方・タイミングなどが挙げられる。企画をより充実したものにするために、来年度以降には学芸員の方とも相談しながら改善していく必要がある。また、内容を定期的に更新したり鑑賞する作品を変えたりすることで、一度きりではなく何度も楽しめる企画にしていきたい。

(文:鈴木志保)



4. SLA の採用と育成・研修活動報告

|| Summary ||

■SLA 採用

2018 年度の新規採用は、前期末 8 名、後期末 16 名であった。正式応募者における採用率は 47% であった。

■活動説明会・活動報告会

活動説明会では、今年度の重点目標として「1. 企画発信の強化」「2. 正課との連携強化」「3. 留学生支援の開発・試行」の 3 つを挙げた。また前期の活動報告会を、新たに前期全体リフレクション会とし、前期の活動終了直後にグループワーク形式で実施する会に替えた。

■夏期研修

講義「『主体的・自律的な学習者』を育成するための学習支援とは？」とワークショップ「学びのモチベーションを考える」を実施した。参加者は 11 名であった。

■共通研修

講師招聘型で行い、3 回実施した。うち 1 回は学内で講師を依頼したレクチャーとして、うち 2 回は学外から講師を招聘し、CLS 学びの転換セミナーと兼ねて開催した。

■他大学合同研修の実施

前年度に引き続き、福島大学・北海道大学の 2 校と開催した。SLA からは 5 名の学生（担当：数学、化学、企画）が参加した。

1 SLAの採用・育成

(1) 採用の概要

SLAの採用募集は、一般公募の形で行っている。SLAからの推薦・紹介での応募もあるが、採用までの流れは一律であり、近年は Semester末（前期7~8月、後期1~2月）を基本の募集・採用期間としている。

募集から採用の流れは、次の通りである。SLAの活動に興味を持った学生に向けて、まず30分程度の「説明会」を開催する。SLAの活動の様子を知ってもらい、希望と実態のミスマッチを防ぐ目的である。

「説明会」後、応募をした学生に対して、個別に「面接+試験」を実施する。「面接」は約30分の所要時間で、a)志望動機、b)支援（教育）観、c)学習観、d)人柄や能力に関する幅広い質問を行う。その後、約1時間の所要時間で「試験」を実施する。「試験」は、SLAの担当毎に内容や方法が異なる。理系科目担当SLA採用においては筆記試験も実施するが、口述試験やプレゼンテーション等も多く取り入れている。

(2) 育成の概要

SLAによる学習支援活動（SLAサポート）はセンター事業の中核である。そのため、SLAをどのように学習支援者として育成していくかは、本センターにとっての重要課題である。

① 育成指針

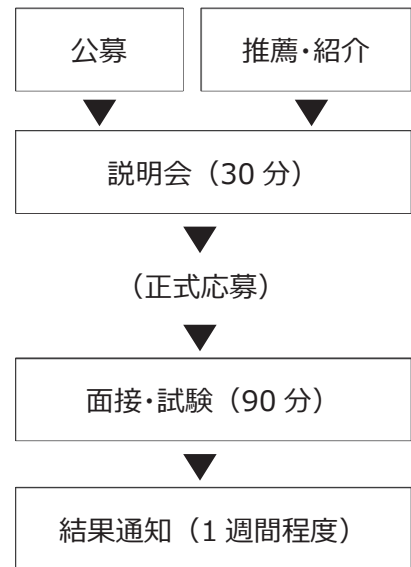
2010年度のSLA活動開始時よりSLA活動コンセプトとして掲げているのが、「ともと学ぼう、ともに育とう、『ともそだち』」である。このコンセプトには、「学生の力を活用した学習支援」を行う組織として、大きく3つの意味が込められている。第1は、利用学生（主として学部1・2年生）の中に「学び合いの文化を生む」ということ、第2は、学生を支援することを通して、SLA自身も学ぶということ、第3には、SLA同士も学び合い高め合おうということである。SLAの価値は、「正解を知っている」事や、「知識を教授できる」事にはない。対象学生自身が学び・学び合う力を身に付けていくサポートをすることがSLAの役割であり、価値である。そして、SLA自身が「学生」であることの良さを活かしながら、東北大学の中に学生同士が「学び合う」文化を醸成していく事も、SLAに期待されている役割である。

こうした理念に基づき、SLAには次の4つを「行動指針」として示している。

<SLA 行動指針>

- ① 「問題」ではなく「人」をみる
- ② 「教える」のではなく「引き出す」
- ③ 個の力だけでなくチーム力を大事にする
- ④ SLAのあり方を共に考える

研修のあり方としては、次のようなポリシーをSLAには示している。SLAとして活動する上では、①学術的・専門的知識、②学習支援スキル、③社会的スキルが必要である。このうち、①については、採用された時点で最低基準は満たしている・またはその見込みがあるものとして選抜を行う。センターとしては、②・③を中心としながら研修を行うというのが基本方針である。その研修方法



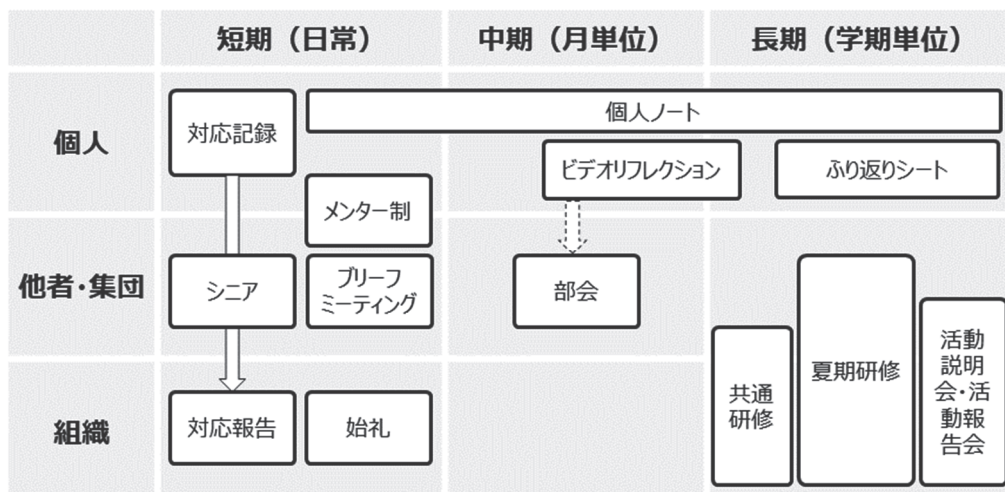
<図 4-1-1. SLA 採用までの流れ>

としては、個別指導と OJT を基本とすることを掲げ、センター員だけでなく、先輩 SLA の力も借りながら、実践・現場に即したスキルの獲得を目指すものとされている。

②育成の全体像

育成活動は OJT を中心としながら、Off-JT も組み合わせる形で整備を進めている。現状の全体像は下図に示す通り、個人・集団（グループ）・全体の単位と短期的・中期的・長期的スパンでの研修活動を組み合わせる形で、SLA 育成に関わる活動を組織している。

全体を通して、「振り返り」「学び合い（協同性）」をキーワードとしながら、SLA 同士が自律的に学び合う持続可能な組織運営と学習支援の質保証・維持向上を図る体制を構築している。



<図 4-1-2. SLA 育成に関する取り組み全体図>

SLA 育成・研修の概要は以下の通りである。

- 初任者研修：『SLA ハンドブック』を基にした「業務説明会」（約 1 時間）と、学習支援に関する基礎的な知識・スキルを学ぶ「初任者講習」（約 1 時間半）を活動開始前～初期の時期に実施。OJT としては①他者（主にメンター）の対応の観察記録、②自身の対応のビデオリフレクション、③自身の対応について他者（主にメンター）からコメントをもらうという 3 課題を、新規採用時の 1 セメスターをかけて実施。
- メンター制：世話役の先輩 SLA がメンターとなって新規メンバーのフォロー・育成を行う体制。
- シニア：SLA 内の自律的成長を促進するため、主に後輩 SLA の育成や SLA 活動改善に寄与する役割を担う先輩 SLA。
- 対応記録作成・報告：学生対応ごとに記録を作成し、自分自身の活動を振り返るとともに、センタースタッフや他のメンバーと情報を共有するための資料とする。
- ブリーフミーティング：その日の活動終了後、同じシフトのメンバー全員で行い、その日の活動の成果や反省点を共有する。チームワークを高める機会でもある。
- 始礼：週の初めの勤務時に、前週の情報共有・連絡伝達を行う。
- 部会：SLA の担当科目（物理、数学、化学、英語、ライティング、企画）毎の集まり。①SLA の情報共有、②科目ごとの対応スキルの向上、③SLA 全体のチーム力の強化（情報共有促進を含む）を主目的とし、定例ミーティングでは情報共有と勉強会を行っている。

(3) 今年度の採用活動

今年度の応募者数・採用者数は、表 4-1-1 の通りである。

今年度の採用活動の特徴は、①学内の連絡システムで募集情報を一斉配信できるようになったこと、②理系学生がいる青葉山キャンパスの食堂に POP を置いたこと、③日本語会話担当の募集情報を、留学関連を取り扱うグローバルラーニングセンターにも配信してもらったこと、である。①については、説明会申込の人数が増加したが、一方で申込しても説明会に参加しない者も一定数いた。②は後期末の募集時に行い、それを見て応募してくれる学生もいた。しかし増加を期待した化学担当への応募には寄与しなかった。③については、意欲と経験のある学生に応募してもらってきた。

<表 4-1-1. 2018 年度 SLA 応募者・採用者数等>

	説明会申込	説明会参加	正式応募	1次審査合格	最終合格・採用
前期末 (8月頃)	24名	22名	14名	11名	8名
後期末 (2月頃)	45名	29名	24名	20名	16名

<表 4-1-2. 2018 年度 担当別 SLA 応募者・採用者数>

	物理		数学		化学		英会話		ライティング		企画	
	正式 応募	採用	正式 応募	採用	正式 応募	採用	正式 応募	採用	正式 応募	採用	正式 応募	採用
前期末 (8月頃)	3名	2名	4名	2名	3名	1名	/	/	/	/	4名	3名
後期末 (2月頃)	6名	4名	5名	4名	1名	1名	7名	3名	1名	1名	4名	3名

全 SLA を対象として、セメスター始めに「活動説明会」を、セメスター末に「活動報告会」を開催している。「活動説明会」は当該期の目標を共有することを主目的に、「活動報告会」は当該期の活動を振り返り次期活動に繋げることを主目的に行っている。各会の終了時には、SLA にコメントペーパーの記入を通した振り返りを求め、また活動説明会欠席者にはビデオ視聴を要請している。

(1) 前期活動説明会

2018 年度前期活動説明会は、4 月 3 日（火）16:30～18:00 に開催した。出席は 23 名、欠席は 7 名であった。

2018 年度は重点目標として「1. 企画発信の強化」「2. 正課との連携強化」「3. 留学生支援の開発・試行」の 3 つを挙げた。「1. 企画発信の強化」については、2017 年度の予算・窓口縮小により利用者が減少したため、窓口時間に依存しない支援形態の開発・試行を行うものである。「2. 正課との連携強化」については、授業との連携により、効果的な学習支援を実現しようとしたものである。「3. 留学生支援の開発・試行」については、今まで初年次の日本人学生を中心に支援を実施してきたが、その活動が一定程度形になったことと、留学生が増える一方でその支援にまだ着手できていないことにより、取り組みを進めるものである。

次第

1. 新任教員と新規メンバー紹介
2. 学習支援センターSLAの理念
3. 今期の活動計画・目標
4. SLAの活動・実践についての確認事項
5. 今後の予定確認・コメントペーパー
 - 写真撮影
 - 部会ごとにミーティング日程調整

→終わったところから終了

5A

2018年度：重点目標

1. 企画発信の強化
2. 正課との連携強化
3. 留学生支援の開発・試行

5A

理系支援 + 担当SLAの目標

▶ 方針
：窓口対応での効果的な学習支援の取組み継続
企画発信（非窓口相談型支援）の開発

▶ 目標
：学生向け情報発信の仕組づくり

▶ 活動

- ① 学生向けコンテンツの作成と発信
- ② 学生対応のない時間の有効活用
- ③ 支援Tipsの集積と活用・改良

5A

英会話（+日本語会話）支援 + 担当SLAの目標

▶ 方針
：支援対象者の拡張（留学生）と重点化（初級者）

▶ 目標

- ①（日本語・英語ともに）初級者支援の継続・充実
- ② 日本語カフェの開発と実施体制の強化

▶ 活動

- ① 英会話支援の理念整理と共通認識の醸成
- ② 支援ノウハウの集積と活用・改良

5A

ライティング支援+担当SLAの目標

▶方針
:ライティング支援の高度化

▶目標
①チュータリング方法の開発・改善
②レポート作成支援コンテンツの開発

▶活動
①「指南書入門ゼミ」の継続実施と内容改善
②留学生対応の経験集積と方法検討
③高年次学生支援の試行(卒論・修論など)

企画発信型支援+担当SLAの目標

▶方針
:センター全体の企画発信力の強化への取組
学習機会の継続的な提供・実施

▶目標
①企画SLAの基盤づくり
②各部会/窓口支援との連携・協働

▶活動
①学習支援センター全体の情報発信企画
②各企画プロジェクトの継続・見直し
③理系科目の企画発信型支援の開発・試行

＜図 4-2-1. 前期活動説明会 スライド＞

(2) 前期全体リフレクション会

前期全体リフレクション会は、8月9日(木)16:00~17:30に開催し、出席21名、欠席11名であった。この会の中では、シフトごとのSLAメンバー紹介、センター員による利用状況データ紹介、グループごと活動共有、グループディスカッションを行った。

昨年度までは、前期セメスターの活動報告会を夏期研修と合わせて実施していた。しかし、前期活動終了日から時間が空いてしまうため、前期活動報告会は前期セメスターが終わってすぐに開催することにした。また、例年のようなSLAの各部会からの発表を基本とすると、多くのSLAにとっては聴いているだけの受動的な時間が長くなるため、本年度からワークショップ形式でグループワークを取り入れ、その中でSLA各々が振り返りをするという形にした。名称も全体リフレクション会に変更した。

<h3>これからの時間は</h3> <ul style="list-style-type: none"> 異なる部会メンバーで構成されたグループ毎に、 <ol style="list-style-type: none"> 各部会の活動について共有 「企画発信」についてディスカッション <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> SLA全体として、どんな活動を行っているかを理解する 他部会から、自分の部会の活動についてヒントを得る SLAをより良くしていくために、これからやるべきことを考える 	<h3>①各部会の活動のシェア (20分)</h3> <ul style="list-style-type: none"> 所属部会の代表になったつもりで、以下について1人4~5分程度で紹介してください。 <ul style="list-style-type: none"> 聞き手は、分りにくいところがあれば「突っ込み」を入れて、理解しようと努めてください <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 所属部会の雰囲気や特徴 今期、部会として(対応内外で)どんなことに取り組んできたか 今期達成できたこと、課題として残ったこと 今後、展開していく予定の活動 個人としての、成果と反省
<h3>②ディスカッション (30分)</h3> <ul style="list-style-type: none"> 前期の中では、窓口利用の促進や企画の集客という部分で、課題もありました その背後にある要因を想像しながら、SLAとしてどのような/どのように企画発信をすべきかについて、グループごとに考えてみてください 	<ul style="list-style-type: none"> まずは、課題を抽出してみよう <ul style="list-style-type: none"> 1~2年生がSLAの窓口やイベントを利用しにくい要因としては何があるだろう SLAはどのように認識されているだろう 何が利用する上での「壁」になっているのだろう 利用促進のアイデアを考えてみよう <ul style="list-style-type: none"> 上記の課題をどう改善できるだろう どうやって最初の「敷居」を下げられるだろう SNSとポスター、その他の広報をどう使うのが有効?

＜図 4-2-2. 前期全体リフレクション会 スライド＞

(3) 後期活動説明会

後期活動説明会は、9月27日（木）16:00～17:30に開催され、出席21名、欠席15名であった。

本日の次第

1. 新規メンバー紹介
2. 夏の活動報告
3. 2018年度後期活動方針説明
4. 終わりに
 - …(全員で)写真撮影
 - …(部会ごとに)シフト確認、部会MTG日程調整

2. 夏の活動報告

- ① 夏期研修
- 9月21日@SLAラウンジ
- ② 部会作業の延長戦
- ③ 教育開発推進事業の始動
- ④ 大学教育センター協議会
- 9月10日・11日@広島大学



物理

【前期の活動成果】

- 「電磁場」に関わる学生をつまづきポイントを分析し、Tipsの原案を作成
- 学生の物理への興味を促すことを目的とした、「C案」(身近にある物理現象)のネタをストック・整理
- 「今月の物理の学習ポイント」を作成し、ポスター・twitter等で発信

【目標・方針】

- ① 窓口時間に依存しない支援の充実に向け、「C案」「今月の学習ポイント」を中心とした学習コンテンツを、定期的・継続的に発信していこう！

数学

【前期の活動成果】

- 対応に関わる気付きをシフトを越えて共有し、議論を深めていくために、「数学ノート」(ネタ帳)を導入
- 多くの1年生がつまづきがちな、「数学特有の言葉遣い」を整理
- 数物演習の一部内容のtips化に向けた検討を開始
- シフト中フル回転で多くの質問に対応できたことが、何よりの成果！

【目標・方針】

- ① よりよい対応の方法を検討し、部会全体でスキルを高めていこう！
(特に、ある程度SLAからの解説が必要となるような対応などについて)
- ② 数物演習、及び前年度から引き続き資料やTipsを完成させよう！
- ③ 余力のある範囲で数学関連で発信できるコンテンツを考えよう！

化学

【前期の活動成果】

- 新規メンバーの研修教材「理解度チェックリスト」をブラッシュアップ
- 対応の知見のまとめたTipsを2件作成(「位相」「混成」)
- 窓口時間に依存しない支援の方法として、現象ごとの「理解のポイント」をTwitter等で発信していくことを考案し、コンテンツの作成を開始
- 2人という少数精鋭で、化学AIに関わる質問に数多く対応！

【目標・方針】

- ① 引き続き学習コンテンツを作成し、定期的・継続的に発信しよう！

ライティング

【前期の活動成果】

- 対応開始前に把握・確認すべきことや、対応方針を立てる際のポイントについて、「チェックリスト」としてまとめた
- 「問いが立てられない」という学生に対して、どのような支援やアドバイスができるか、関連する文献資料をレビューした

【目標・方針】

- ① 問いを立てる方の支援」の資料を完成させよう！
- ② アカデミックライティングについての内容に限定せず)文章作成に関わる学習コンテンツを作成・発信していこう！
- ③ 留学生向けのライティング支援について、部会全体でスキルを高めていこう！

英会話

【前期の活動成果】

- 英会話支援に対する共通認識を図るため、カフェ運営やSLAの役割などを含めた勉強会をSLA同士で実施
- カフェ運営のバリエーションを増やすため、SLAそれぞれのアクティビティを共有 & 相互レビュー
- 新規利用の促進を目的に「英会話体験week」を開催。5名の新規利用者を獲得！

【目標・方針】

- ① 新規利用者／英会話初級者の獲得に向け、企画を開催
- ② シフトを越えて、新しいアクティビティやカフェ運営に関わるアイデアを共有し、精緻化していこう！

日本語カフェ

【定期開催で見えてきた課題】

- 興味のある留学生に情報が届いていないという、発信面での工夫の必要性
- 留学生のニーズの把握 & それに合った活動の模索
- 利用者の日本語のレベル差が大きい場合のカフェ運営／ファンリレーション方法の開発・スキル向上の必要性

【目標・方針】

- ① 日本語カフェの運営のあり方について0から検討 & 拡充して実施します！企画部会に限らず、日本語カフェに興味のあるSLAはぜひご協力ください！
- ・ ミーティングへの参加、活動へのアドバイス
- ・ 日本語カフェの実施 など

全体に向けた取り組み

1. 部会MTGの時間運用の見直し
 - ☞ 事例検討など、議論をする時間を増やそう！
 - ☑ 情報共有にかかる時間をその分短縮
 - ☑ 情報共有シートの内容は可能な限り事前把握 ⇒ 記入は早めに！
2. 対応のリフレクションやスキルアップを継続的に行おう！
 - ☑ 一年目のメンバーは対応報告を徹底！
 - ☑ ピアレビュー(レビュアー、レビュイーをそれぞれ最低1回)
 - ☑ ビデオリフレクション(自分の対応を客観的に振り返ろう)

<図 4-2-3. 後期活動説明会 スライド>

(4) 後期活動報告会

後期活動報告会は、2019年2月27日(水) 16:00~18:00に開催し、出席26名、欠席13名であった。内容は、①学生の利用傾向速報、②各部会からのSLA活動報告、③センタースタッフからの総括、④活動証明書授与、であった。終了後に、卒業生送別会を開催した。



3 夏期研修

(1) 目的と概要

夏期研修は、①前期セメスターの活動の振り返りを通して今後の活動に活かせる知見を得ること、②大学教育、学習支援に関する知識やそれらの今日的課題についての知識を得ること、③SLA 同士やスタッフとの交流を深めると共に、センターの抱える課題や方向性を皆で共有し、SLA 全体のチーム力を高めることを目的としている。

本年度の夏期研修は、9月21日に開催し、参加者は11名であった。

<表 4-3-1. 2018 年度夏期研修プログラム構成および参加者構成>

内容	10:00～12:00 講義『主体的・自律的な学習者』を育成するための学習支援とは？ 13:15～16:30 ワークショップ「学びのモチベーションを考える」 16:30～17:00 まとめ
参加 SLA	11 名 ※研修対象学生 30 名中 (37%) <参加 SLA の構成> ・活動歴：半年未満…4 名、1～2 年…7 名 ・担当：物理…2 名、数学…5 名、英語…3 名、企画…1 名

(2) 各プログラム内容スライド

① 講義

SLA 夏期研修 2018 9月21日 (金)

「主体的・自律的な学習者」を育成するための学習支援とは？

学習支援センター
佐藤 智子
東北大学 高度教育・学生支援機構
sato-t@tohoku.ac.jp

グループで話してみましょう

- 主体的・自律的に学ぶべき大学生に対して、なぜ「学習支援」は必要なのでしょうか？
 - a. 必要ではない →なぜ？
 - b. 必要である →なぜ？ その時の「学習支援」の方法は？

ここでは、「学習支援」=ピア・サポート(学生による学生へのサポート)として考えてみましょう。

SLA 初任者研修より

学習支援センターの使命

1. 学生の主体的・自律的な学習を、実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生としての資質を育成する。
2. 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、東北大学の学習支援の質的向上に寄与する。
3. 教職員・学生の間「学び合い」文化を醸成し、学習共同体 (ラーニング・コミュニティ) の形成に寄与する。



論理展開は？

- A) 支援を必要としている大学生は、まだ、主体的・自律的ではないから、
・どのような「学習支援」が必要？
・どうすれば、「主体的・自律的な学習者」に転換できる？
- B) 支援を必要としている大学生は、相応に、主体的・自律的だから、
・どのような「学習支援」が必要？
・どうすれば、もっと「主体的・自律的な学習者」になる？

「授業時間外」学習と「正課外」学習

- みなさんがSLAとして支援しているのは、どちらですか？



© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

5

学習機会の4類型

1. Formal Learning (正課の学習)

2. Non-formal Learning (準正課の学習)

3. Informal/Self-Directed Learning (課外の/自発的・自己決定的な学習)

4. Incidental Learning (偶発的な学習)



© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

6

「単位」とは？

- 単位制度の実質化 (文部科学省2005)

現在の我が国の大学制度は単位制度を基本としており、1単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。しかし、実際には、授業時間以外の学習時間が大学によって様々であるとの指摘や1回あたりの授業内容の密度が大学の授業としては薄いものもあるのではないかと懸念がある。このような実態を改善するための種々の取組を総称して単位制度の実質化のための取組と言うことがある。

→ 2単位の授業の場合、セメスターで授業時間内・外の学習総時間は標準90時間。

文部科学省 (2005) 「用語解説」 「我が国の高等教育の将来像 (答申)」, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyoku/chukyuo0/toushin/attach/1335601.htm

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

学習の4つの柱

Delors, et al. (1996) Learning: The Treasure Within, UNESCO.

1. Learning to know (知るための学習)

Includes learning to learn, an instrumental learning skill inherent to basic education 基礎的な学習スキル

2. Learning to do (行うための学習)

Emphasizes the acquisition of vocational skills 職業的スキルの獲得など

3. Learning to be (なるための学習)

Emphasizes the development of human potential to its fullest 自己実現、主体形成のための学習など

4. Learning to live together (共に生きるための学習)

to develop an understanding of others, of their history, their traditions, and their spirituality 他者理解 (人・歴史・伝統・精神性など)

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

「大人」とは？

(Knowles, 1973=2013:p70)

- 4つの「成人」の定義 4 definitions of "adult"

1. 生物学的定義: 生殖可能な年齢 (思春期の初め頃)

2. 法律的定義: 選挙権、運転免許取得、親の同意なしに結婚できる年齢など

3. 社会的定義: 就労の義務を果たす、家族を扶養する責任、政治参加主体としての役割など

4. 心理学的定義: 自己決定的・自律的、自己概念を持つ

ペダゴジーとアンドラゴジー

pedagogy: 教育学、教授法

ギリシア語で「子ども」を意味するpaidと、「その指導者」を意味するagogusに由来 (Knowles, 1973=2013:67)

- ペダゴジーの意味 = 子どもを教える技術・科学

andragogy:

ギリシア語で「成人」を意味するaner (andr-の原義) に由来 (Knowles, 1980=2002:37)

- アンドラゴジーの意味 = 成人の学習を支援する理論・方法論

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

5

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

6

何もなくてもいつかは自動的に、大人になる

1. 生物学的定義: 生殖可能な年齢 (思春期の初め頃)

✓ 小学校高学年~中学生くらい?

2. 法律的定義: 選挙権、運転免許取得、親の同意なしに結婚できる年齢など

✓ 義務教育の終了 (= 就労可能な年齢) = 15歳 (日本)

✓ 結婚できる年齢 = 18歳~ (日本)

✓ 成人、選挙権: 18歳~ (日本)

✓ 飲酒・喫煙など: 20歳~ (日本)

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

5

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

6

個人差が大きい/大人になるのが難しい

1. 社会的定義: 就労の義務を果たす、家族を扶養する責任、政治参加主体としての役割など

✓ 就労の義務 = 15歳~の人がいれば、30代~の人も

✓ ※「就労」の中身・求められる専門性は一律ではない

✓ 政治参加をきちんとしている人はどれくらいいる?

✓ 家族を扶養できる能力・意欲がいつ形成されるかは個人差が大

2. 心理学的定義: 自己決定的・自律的、自己概念を持つ

✓ 自己実現、自己形成がいつできるのか? = 不確実、個人差

✓ 精神的な自立は、いつ、どのようにすればできるのか?

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

5

© 2016-2019, Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

6

ペダゴジーとアンドラゴジー

- ペダゴジー: 教師主導型

教育の内容・方法・結果の評価について、教師・指導者の立場にある者が、主導権を持って (場合によっては全権を与えられて) 決定する

- アンドラゴジー: 学習者主導型/自己決定的

成人は、自分自身の決定や自分自身の生活に対して責任を持つという自己概念を有している

他者の意思を押し付けられる状況に否定的・抵抗感

ペダゴジーモデル

- 学習の必要性: 試験に合格/進級・進学、資格取得

- 学習者の自己概念: 依存的、他律的

- 経験の役割: 学習者の経験は、学習資源としてはあまり価値を置かれない (価値を置かれるのは、教師や教科書執筆者や教材製作者の経験のみ)

- 学習へのレディネス: 学習への教科中心的方向づけ (→学習を「教科内容の獲得」と捉えている)

- 動機づけ: 外発的な動機づけ (成績評価、教師や親からの期待等)

Knowles, M. S. (1973, 1978, 1984, 1990) *The Adult Learner, A Neglected Species*, 4th Ed., Gulf Publishing company. - 2013, 増訂版・三輪健二監訳、マルカム・ノールズ『成人学習者は何か: 見過ごされてきた人たち』原書房, pp.66-79.

Knowles, M. S. (1973, 1978, 1984, 1990) *The Adult Learner, A Neglected Species*, 4th Ed., Gulf Publishing company. - 2013, 増訂版・三輪健二監訳、マルカム・ノールズ『成人学習者は何か: 見過ごされてきた人たち』原書房, pp.66-79.

アンドラゴジーモデル

- **学習の必要性**：学習の前に「なぜそれを学ばねばならないのか」を知る必要性がある
- **学習者の自己概念**：自己決定的
- **経験の役割**：学習者の経験は重要な学習資源（→このことが個人差の広がりを生じさせる）
- **学習へのレディネス**：生活中心、課題中心
- **動機づけ**：内発的な動機づけ（自尊心、生活の質の向上、仕事のやりがい等）

Knowles, M. S. (1973, 1978, 1984, 1990) *The Adult Learner, A Neglected Species*, 4th Ed., Gulf Publishing company. = 2018, 知能大学三輪道彦 監訳、マールカニール、『成人学習論とは何か「死」を恐るるべからざる』編書局、pp.46-59.

形成的学習と変容的学習 (Mezirow, 1991: 3)

- **形成的学習 (Formative Learning)** :
 - ・主に家庭教育や学校教育を通して、子ども期に行われる学習。
 - ・社会化の過程（社会に適応するために必要な規範やルールを学ぶ）
- **変容的学習 (Transformative Learning)** :
 - ・大人期の学習は、徐々に変容的なものへと移行していく。
 - ・大人になると、子ども期の社会化の中で得た学習や公認の知識だけでは満足できなくなる。
 - ・大人は、変化する物事についての複雑に深く理解し、自分の人生を自律的にコントロールするようになる。
 - ・そのため、旧い思考方法をより入念に適用しながら、**新しい観方を獲得する必要性**に気づいていく。

17

ペダゴジーとアンドラゴジー



©Tohoku Univ. Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

19

学習機会の4類型

1. Formal Learning (正課の学習)
2. Non-formal Learning (準正課の学習)
3. Informal/Self-Directed Learning (課外の/自発的・自己決定的な学習)
4. Incidental Learning (偶発的な学習)



Informal Learning の特徴

— 「状況に埋め込まれた学習」における正統的周辺参加より

(Lave & Wenger, 1991: 89-93)

- **学習で用いる言語の特徴**
 - ・ことばの問題は、知識の伝達に関わるというよりも、むしろ参加に関わる問題
 - 参加者としていかに語るか（いかに沈黙するか）という学習が重要
- **外側から実践について語ることは実践の中で語ることに**
 - ・教え込み的教授行為は、意図されざる実践を生起
 - ✓授業の場で「うまくなっていく」ことを学ぶことが、学校の教えることの主要な部分に
 - ・実践共同体での談話を通した学習は、日常的なもの
 - 物語の役割に支えられている
- **学習とアイデンティティ感覚は分離できない**（両者は同一現象の異なる側面）

©Tohoku Univ. Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

23

アンドラゴジーの考え方の特徴：自己決定性

アンドラゴジーにおける学習者の自己概念は、自己決定的（依存的な自己概念からの脱却が目指される）

学習者の自己概念	ペダゴジー	アンドラゴジー
責任	依存的	成長につれて、自己決定性が拡大
学習者の経験の役割	内容や方法についての責任は教師が持つ 学習者自らの経験には価値をおかない（教師、教材開発者、専門家等の経験を利用）	自己決定的であらうというコース 蓄えた経験が、豊かな学習資源となる
教育手法	伝導的手法（講義、割り当てられた読書、視聴覚教材の提示など）	経験的手法（実験、討論、問題解決型学習、シミュレーション法、フォールドワークなど）
学習へのレディネス	社会からのプレッシャーの強さ 同年齢の多くは、同じことを学ぶ準備がある	実生活の課題にうまく対処するための学習の必要性を実感し易い
学習のプログラム	標準化されたカリキュラム	生活への応用という点から組み立てられる
学習への方向づけ	教育は、教科内容を習得する/ロセス 教科の単元へと方向づけられる	生活上の可能性を開く力を高める/ロセス 学習経験は、課題達成中心に方向づけられる

(Knowles, 1980=2002: 39) をもとに、報告者作成

©Tohoku Univ. Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

16

アンドラゴジーの位置づけ (Knowles, 1980=2002: 38-41)

- **アンドラゴジー：「成人の学習を援助する技術と科学」**
 - ・アンドラゴジーの概念を、青少年教育に当てはめる試み
 - ・→ある状況においては、すぐれた学習を生み出す
 - ・アンドラゴジーは、特定の状況への「適合」を検証すべし、別のモデル
- **アンドラゴジーとペダゴジーは1つのスペクトルの両端**
 - ・成人も青少年も、実際の学習の状況はこの両端の間に入る
 - ・子ども：完全に依存的状態生まれにくる
 - ・子どもの自己概念は、思春期の頃になると徐々に自己決定性を帯びてくる。
- **問題は？：成人社会と子どもの能力の文化的なずれ**
 - ・子どもの実際の責任能力と、成人社会が認めている子どもの自由（責任）には文化的なずれがある
 - ・成人の社会では、子どもの依存的自己概念を助長・強化する（受動的パーソナリティとしての子ども概念を固執しようとする）場合もある。

©Tohoku Univ. Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

18

グループで話してみよう！②

- **東北大生の学修時間（授業時間外の関連学習）を増やすには？**
 - ・問題の背景・原因は？
 - ・解決策は？
- **東北大生の自発的な学習（授業・単位のためではない学習）を増やすには？**
 - ・問題の背景・原因は？
 - ・解決策は？

「状況に埋め込まれた学習」(Lave & Wenger, 1991: 79-80)

教育のカリキュラムと学習のカリキュラム

- **教育のカリキュラム**
 - ・初心者・初学者を教育するために構成される
 - ・学習の構造化のための資源が供給される（したがって制限が加えられる）
 - ・学習されるべきことの意味は、教え手の参加を通して、知ることについての外側からの視点で媒介
- **学習のカリキュラム**
 - ・本質的に、学習のカリキュラムは、状況に埋め込まれたもの（学習は、共同体の特徴）
 - ・よって、学習のカリキュラムは、単独で考えられない、教え込み的なことばでは操作できない、社会的関係から分離できない
 - ・学習カリキュラムは、新しい実践の即興的展開のための状況に埋め込まれた機会（→「目標」とみなされる様々な手本が含まれる）
 - ・学習者の視点から見た日常実践における学習の資源が置かれている場

©Tohoku Univ. Institute for Excellence in Higher Education, Center for Learning Support, Tohoku University

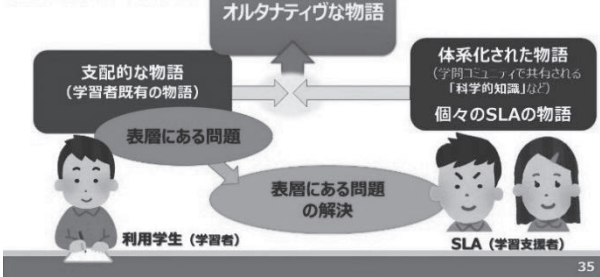
22

人間の認識には、2つの思考様式がある (Bruner, 1986)

	論理科学的様式 Paradigmatic Mode	物語様式 Narrative Mode
思考類型	合理的・論理的な思考方法	物語に基づいた思考方法
アプローチの基礎	客観的事実/エビデンス	物語/語り
理論的前提	普遍的な世界 唯一の「真理」を仮定	人によって異なる世界 多元的なリアリティを仮定
代表的な方法	討論、討議、実験、証明、論述	日記、日誌、ドラマ、自伝、ポートフォリオ、シナリオ

Bruner, J. S. (1986) *Actual Minds, Possible Worlds*, Harvard University Press.
(-1998, 田中 淳訳『可能世界の心理』みすず書房)

ナラティブ・モデル



35

問題を「外在化」する

●問題を「内在化」した表現

- ・私は何に対してやる気がなくて、外出するのも面倒だし、会いたい友だちもいません。
- ・私は心配性で、何か新しいことをしようとすると、大きな不安に襲われてしまいます。
- ・私は最近、何に対してもイライラしてしまって、感情を抑えられません。

●問題を「外在化」した表現

- ・「無気力」が顔を出して、あなたが出かけたり友だちとお出するのを邪魔するのですね。
- ・「心配性」は、あなたが新しいことに挑戦しようとする、ストップをかけてしまうのですね。
- ・「イライラ」が、あなたの心の平静さや落ち着きを奪って、感情を暴走させてしまうのですね。

A. モーガン著、小倉薫水・上田敦子訳「ナラティブ・セラピーって何？」金剛出版、2003年

37

総括に代えて

「主体的・自律的な学習者」を育成するための学習支援とはどのような支援ですか？

その内容や方法について、SLAとしてのあなたの意見を自由に論じてください。

[300字程度]

39

② ワークショップ（抜粋）

学びのモチベーションを考える

SLA2018 夏期研修 2018/9/21

1. モチベーションの量

- ・つまりは、どれだけ強いモチベーションか
- ・基本的には、内的な意思や思いよりも、生じた「行動」から推測されるもの
 - ・その行動に割いた時間や、行動の持続性
 - ・その行動への積極性
 - ・努力
 - ・集中・熱中・夢中
 - ・「フロー体験」（時間を忘れて没頭する感覚）

問題を「外在化」する

口外在化＝問題を、その人のアイデンティティから切り離す

- この「外在化」は、単なる技法ではなく、態度や方向性のこと

◆外在化の対象：

- ・感情（不安、恐怖、罪悪感、怒り、無力感など）
- ・対人関係の問題（口論、非難、不信任、嫉妬など）
- ・文化的・社会的問題など（人種差別、女性蔑視、経済的合理性、異性愛主義など）

A. モーガン著、小倉薫水・上田敦子訳「ナラティブ・セラピーって何？」金剛出版、2003年

36

内在化された会話と外在化された会話

	問題が内在化された状態	問題が外在化された状態
問題の所在	個人のアイデンティティ（人の内面に存在）	問題（人の外に存在する）
探究の方向性	人の何が悪いのか、何が足りないか	人の外にある文脈に位置づける
行為	自己が表面化したもの	特定のプロットに沿った時間軸上の出来事
問題の説明	他者の意見を求める	本人の意味づけを明らかにする
記述や結論	薄い	分厚い
価値観	「あるべき」状態からどれだけ「違う」か	「あるべき」状態を批判的に再検討し、違い・多様性を受け入れる
解決への方策	人に内在する性質に問題をみる 特定の診断（自閉症・発達障害など）の影響との「共存」の仕方についての会話を中心	問題との関係を変化させる会話を中心
変化促進因子	他者が問題を「直す」よう設計した戦略	共同体のもの
専門家	問題の影響の外側にいる人	自分自身 （人々は自らの人生について専門性をもち）

A. モーガン著、小倉薫水・上田敦子訳「ナラティブ・セラピーって何？」金剛出版、2003年

38

午後のテーマは「モチベーション」

- ・SLAの役割一つとして、1・2年生に対する学習へのモチベーションを引き出したり、受験勉強からの「学習観の転換」を促すということがあります。

- ・そこで、SLA自身の「モチベーション」を振り返りながら、1・2年生に対するこれらの側面への支援のあり方を考えます。

ワーク1（15分）

- ・あなたの、以下それぞれに対する「モチベーションの強さ」を振り返ってみましょう

・シート1：学習活動について

- ・中学・高校時代は、学習全般
- ・大学以降は、「専門に関連する科目」と「それ以外の科目（全教科目など）」に分けて

・シート2：その他の活動について

- ①スポーツ・運動をすること全般
- ②家事や料理
- ③あなたが（ある程度の期間）興味を持っている趣味など、何か1〜2つ
 - ・楽器演奏、映画や美術館鑑賞、スポーツ観戦、お酒など

グループの中で共有 (10分)

共有のポイント

- 学習へのモチベーションはどう変遷?
 - 元々高い? ある時から高まった?
 - 大学に入った直後はどうだった?
- 最近運動はしていますか?
- 家事や自炊はしていますか?
- 「趣味」への興味はどのような形で変遷してきましたか?

2.モチベーションの「質」

- 次に、モチベーションの「質」、つまりどのようなことをモチベーションにしてきたか、そのエネルギー源を考えます
- 行動の強さよりも、「志向性」に関わるもの
 - どのようなことを理由に、どのようなことを目指してその行動をとるのか、といったことに関わるもの

ワーク2 (15分)

- 学習活動(シート1)について、それぞれの時期に、何が「主要なモチベーション」となっていたか、その時間的変遷を振り返ってみましょう。
 - モチベーションが変化したポイントに付箋を貼り、どんなことをモチベーションにしていたかを記入する
 - 単一の時期に強いモチベーションが輻輳的にあったとしたら、それぞれを別の付箋を使って書く
 - 教科・科目ごとに大きく異なっていたなら、それぞれ別の付箋を使って書く

「自律性」による動機づけの分類 (西村・河村・櫻井, 2011)

- ①無動機づけ(無気力)
- 外発的動機づけ
 - ②「外的調整」
 - 「周りに言われるから」「やらないと叱られる」「みんな当たり前のようにやっているから」
 - ③「取り入れ的調整」
 - 「馬鹿にされたくないから」「友達より良い成績をとりたい」「周りに良く思われたいから」
 - ④「同一化的調整」
 - 「将来の成功に必要なから」「自分にとって重要だから」「希望する進路に進みたいから」
- ⑤内発的動機づけ
 - 「おもしろいから」「興味があるから」「好きだから」

ワーク2 ふたたび

- 学習活動(シート1)について、それぞれの時期に、何が「主要なモチベーション」となっていたか、その変遷を振り返ってみましょう。
 - 1) 講義を踏まえて、「他にこの動機もあったな」というものがあれば書き足す
 - 2) それぞれが、先の自律的な動機づけの分類でいうとどれに該当するかを、マーク

ワーク3 モチベーションの「変化のきっかけ」(20分)

- 学習活動(シート1)について、モチベーションの「量」や「質」が変化した部分に着目し、変化のきっかけを考えてみよう
- モチベーションの量や質が「変化したきっかけ」を、別の色のポストイットに記入
 - ex. 面白い授業や本との出会い、人からの影響、自分の意識の変化、目標意識の形成、などなど

グループごとに共有・議論 (20分)

- 1) 学習への動機づけの中身は、何をきっかけとして、どのように変化してきた?
 - 自律的な動機づけに変わってきている?
 - 自分と他のメンバーのパターンを比較してみよう
- 2) 良く知っている友人や同級生のことも想像しながら、東北大生のモチベーションの持ち方やその変遷の仕方について、どのような類型(パターン)がありそうか議論してみよう
 - ⇒ 午後の内容につながっていくので、付箋などを使って、メモを

- 残りの時間は、これまでの内容を基にしながら、1・2年生のモチベーションや自律的な学習を支援するために、SLAとして何ができるかを考え、提案してもらいたいと思います。
 - いくつかの関連するキーワード
 - ①自律的なモチベーションの支援
 - ②1・2年生の学びの転換
 - ③「教養教育」に関わる問題

グループワーク

- グループごとに、SLAの「とある部会」が、窓口やカフェ、企画発信的な活動の中で、1・2年生の「学びの転換」「自律的な学習態度の形成」をどのように支援できるか、提案してください
 - ①(学生の学習態度を分析した上で)主な対象とする学生
 - ②支援の狙いやコンセプト
 - ③具体的な活動・企画内容を含めること
 - 各グループ、違う部会のことを提案してもらいたいと思います
 - パワーポイントでまとめても、板書や紙芝居にまとめても、「演劇」に仕上げてもOK

考えるヒント

- 入学当初のモチベーションを想像しよう
- 「先輩」という立場
- 窓口(カフェ)と、企画・発信活動で、それぞれアプローチできる人、支援できること
- これまでにやってきた、誰でも思いつくような正攻法のアプローチだけでなく、いくらか飛躍した創造的なアイデアを!
 - その部会の人だけでは思いつかないようなことを

(3) SLAによる振り返りシート

研修後の振り返りシートは、以下の項目であった。

1. 講義やワークを通して、気づいたこと・学んだこと・疑問に思ったことを書いてください。
2. 研修での学びを通じて、今後課題・目標にしたいと思ったことがあれば記してください。
(研修前から思っていたことでも構いませんが研修との関連性に触れてくれるとありがたいです。)
3. 研修に関して、要望や提案、その他コメントがあれば、自由にどうぞ！

このうち、1の項目については、次のような記述が見られた。

- ・ 「自律性」による動機づけの分類は面白かった。英会話カフェに来てくれる学生がどの分類に該当するのか、その上でどうしたら内発的動機づけにつながるのかを考えて、会話したい。
- ・ ナラティブ・モデルは興味深かった。特に英会話では、上手く使うと学生の間違いも訂正できるし、英語学習のモチベーションも上げられると思います。
- ・ モチベーションが複数のカテゴリに分類されるということ学んだので、企画をするときに、ターゲットが今どのカテゴリにいて、企画を通して、どのカテゴリにいてほしいのかを考えることで、企画の方向性を明確にできるのではないかと感じました。また、「考えるソファ」はナラティブな参加者の考えを、ソファという場全体の物語に共有していくというプロセスという解釈もできるのかなと思いました。
- ・ 動機づけには外発的動機づけと内発的動機づけがあって、外発的動機づけのなかでも自律性が低い順に、外的調整、取入的調整、同一的調整があること。
- ・ 「主体的・自律的な学習」のために、研修開始時は漠然と「面白さや骨がある」「達成の感覚がある」くらいに思っていたのだが、講義では、学習者の段階に応じて、主客が変化することや、ナラティブな支援方針、外在化の手法といった有効な技術がすでにあることを知った。外在化に興味をもった。
- ・ 「ナラティブ・モデル」についての話は、自分自身にとっても考えさせるものがあつた。苦手意識を取りはらうのに必要な考え方だと思う。SLAの英会話が「居場所」になっていることは新しい発見だった。これは良い傾向なので続くといい。
- ・ 学習や教育について体系的に学ぶ機会は今までなかったので、今回の経験はおもしろかったです。特に今回学んだのは、高校までの学習と大学からの学習の違いでした。問題を外在化するというのは表現の一つの方法。
- ・ 自分の学習へのモチベーションの分析はおもしろかった。また後半のワークが東北大学の学生の分析に役立ちそうだったと思った。

4 3 大学合同研修

(1) 概要

本年度は、前年度に引き続き、福島大学・北海道大学の2校と合同研修を開催した。SLAの参加者は応募制とし、最終的に担当のバランスをみて調整を行った。

合同研修の活動概要は次表の通りである。合同研修の趣旨は表内記載の通りであるが、より具体的なSLA研修としての期待する成果としては、①【自己理解の深化】活動報告(アウトプット行為)によって自身の活動の自覚化・相対化を促進する機会を得る、②【具体的改善策の知見の獲得】他機関の活動を知ることを通して、自身の活動の固定概念を砕くとともに、マクロ・ミクロ多次元における活動改善のヒントや今後の新たな活動を考えるヒントを得る、③【モチベーション向上】実際に他大学で類似の目的の下で活動している「人(学生)」との出会い・交流を通して、活動への関心・意欲の向上につなげる、の3点が挙げられる。

<表 4-4-1. 2018 年度他大学合同研修開催要項>

企画名	2018 年度 3 大学学習支援スタッフ合同研修会
企画運営	東北大学 学習支援センター
趣旨	大学生に対する学習支援を担うセンター間の交流と情報交換、そして研修の合同実施等を通して、相互の組織運営体制や学習支援事業改善につなげる。特に、学習支援スタッフとして活動している学生同士を交流させることにより、自らを客観的に見つめ、これまでの活動をふり返る機会や場としつつ、学習支援者としてのさらなる能力向上やスキルアップを図る。
場所	東北大学 川内キャンパス SLA ラウンジ
事前準備	各大学の概要等情報共有
日程	2019 年 3 月 6 日 (水)
参加者	<p>■東北大学 教職員：佐藤智子、縣拓充、頼羿廷、鈴木真衣 SLA：5名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三宅庸仁 理学研究科(数学) /D1/数学担当(2016 前期～) ・松村健吾 工学研究科(知能デバイス材料学) /M2/企画担当(2017 前期～) ・渡辺孝佳 理学研究科(数学) /M1/数学担当(2018 前期～) ・鏡耀子 文学研究科(国語学) /M1/企画担当(2018 後期～) ・中村祐輝 工学部(化学) /B3/化学担当(2018 後期～) <p>■福島大学 総合教育研究センター 高等教育開発部門 教職員：鈴木学 学びのナビゲーター：4名</p> <p>■北海道大学 高等教育推進機構高等教育研修センター ラーニングサポート室 教職員：城谷大 TA：3名</p>
スケジュール	<p>12:50～13:00 施設見学(SLA ラウンジ周辺)</p> <p>13:00～13:30 【導入】趣旨説明、自己紹介、アイスブレイクなど</p> <p>13:30～15:00 【第1部】各大学活動紹介(30分×3大学)</p> <p>15:00～15:15 休憩・準備</p> <p>15:15～15:25 【第2部】概要説明</p> <p>15:25～15:45 講義：大学での学習支援の基本、FGの基本を学ぶ</p> <p>15:45～17:00 ワーク：インタビュー</p> <p>17:00～17:10 休憩</p> <p>17:10～17:30 第2部振り返り</p> <p>17:30～18:10 全体振り返り、コメントペーパー記入</p>

(2) 実施内容

会の構成は、①各大学の活動紹介、②講義、③ワークショップ、④振り返りとした。

①各大学の活動紹介は、紹介 20 分+質疑 10 分で行い、各大学の状況や課題を共有した。②講義では、夏期研修でも取り扱ったペダゴジーとアンドラゴジー、ナラティブ・モデルのほか、ファシリテーター、アイスブレイク、ファシリテーション・グラフィックについて扱った。

③ワークショップでは、「私と学習支援」というテーマでインタビューを実施した。3 人 1 組で、インタビュアー、インタビューイ、レビュアーに分かれ、インタビュー 20 分、レビュー 5 分で行った。このワークの目的は、場の雰囲気作りや、即時的な相手との関係構築のスキルを高めることであった。余裕がある参加者は、相手のアイデアや思考を引き出すファシリテーションを意識し、要約力を高めることもねらいとした。

(3) 成果と課題

コメントペーパーによると、参加した SLA は、自分たちの活動について「利用者の能動的な学習を促進している」「授業との連携が十分でない」など強みと弱みを認識できたようだった。ワークでは「質問をすることで相手の思考が整理されることなどの重要性を感じた」など、普段の活動に活かしたいという声が聞かれた。また他大学の学生と関わることで、「様々な価値観や考えを共有することもできて大変有意義」だったという感想などがあつた。

課題としては、時間配分が挙げられる。各大学の活動紹介・質疑応答に時間を要する傾向がまだあり、引き続き改善が必要である。

2018年度
3大学学習支援スタッフ合同研修

大学: _____ 名前: _____

1. 研修のなかで、最も学びが大きかったこと・印象に残ったことは何ですか？ また、それらを、今後の活動にどのように活かそう・活かしたいと思えますか？

2. 研修のなかで、物足りなかつたこと・もっと深めたかつたことは何ですか？ そう感じた理由や作業も教えてください。

3. その他、感想・疑問点・提案などを自由にお書きください。

自大学の学習支援活動と学習支援者としての自分を分析してみよう！

自大学の学習支援の強みは？

学習支援者としての私の強み／自信を語れることは？

自大学の学習支援の弱点・改善点は？

学習支援者としての私の課題／改善点は？

<図 4-4-1. コメントペーパー>

5 SLA 共通研修

「共通研修」とは、2015年度より開始した、担当科目の別を超えた SLA 全員が共通に必要なスキルを獲得する研修の場のことである。CLS 学びの転換セミナー（p.23 参照）と合わせて実施したもの（下表 1,3）と、SLA 向けに実施したもの（下表 2）とがある。参加は SLA の任意とした。

<表 5-9-1. 2018 年度共通研修>

	日時	講師	内容	SLA 参加数
1	7月11日 18:15~19:15	間々田隆介 (日本アイ・ビー・エム 株式会社 部長)	人工知能(AI)から見た「知識」と「学習」	4名
2	11月2日 10:00~11:00	菅谷奈津恵 (東北大学 准教授)	留学生の日本語教育の現状と課題について	6名
3	1月9日 18:15~19:45	絹川友梨 (インプロ・ワークス 代表、 東京大学)	インプロ(即興演劇)で学ぶコミュニケーション〜スキルと発想力を磨くワークショップ	12名

(敬称略)



6 振り返りシート・個別ヒアリング

SLA には、毎セメスター末に「振り返りシート」への記入を求めている。これは、各 SLA が自身自身の活動を振り返り、そこでの省察内容を次の活動の改善につなげることを目的としている。

この振り返りシートの内容をもとに、年度末には当該セメスターの新規メンバーを中心とした 1 人 30 分の個別ヒアリングを設けている。ヒアリングの主目的は次期セメスターの目標を立て、これをセンター・SLA 双方で共有することである。

本年度は、振り返りシートの項目をやや改訂して使用した。

＜表 4-6-1. 振り返りシートの質問項目（理系、英会話、ライティング向け）＞

【1】基本事項チェック（5段階評価）

- (1) 対応開始時に丁寧に話を聞き、学生のニーズ・状況を把握や、対応の目標を共有することができた
- (2) 質問しやすい・居やすい・また来たいと思えるような場づくりができた
- (3) 対応学生自身の成長を促す工夫ができた
- (4) 時間を意識して対応することができた（学生さんの予定、待ち札等）
- (5) “先輩の良さ”を活かした対応を心がけることができた
- (6) 5分前出勤を厳守できた
- (7) 勤務時間が延びそうな場合はセンター員に相談した
- (8) 勤務中、身の回りの整理整頓を意識することができた
- (9) エチケット（身だしなみ、マナー等）を意識できた
- (10) 勤務がなかった日のカルテ（活動記録）や業務日誌等をチェックし状況把握に努めた
- (11) 未対応時も積極的にやることを探して活動できた
- (12) センターの発行物（掲示物等）を把握するようにした
- (13) SLA の他の窓口・利用方法やイベント等の案内を学生に積極的に案内し、さらなる学び・さらなる SLA 活用へのチャンネルを広げてあげることができた
- (14) センターへの「ハウレンソウ」をしっかり実行できた
- (15) 自分以外の SLA の対応も意識しながら勤務することができた（ピアレビュー含む）
- (16) 他の SLA にもわかりやすい活動記録（カルテ）を書くことができた
※対応時間いっぱいカルテが記入できなかつたときは除外して考えてください
- (17) ブリーフミーティング等、シフト内の学び合いに貢献することができた
- (18) 部会活動等を通して、同科目メンバー間の学び合いに貢献することができた
- (19) 他の SLA と積極的にコミュニケーションをとることができた
- (20) 新規 SLA：積極的にわからないことを他の SLA に質問した
新規以外の SLA：積極的に新規 SLA のフォローや指導を行った

【2】記述式

- (1) あなたの SLA の活動に対する現在のモチベーション（ニーズ）は何ですか？上位 3 つを回答し、可能な人は、その割合を示してください。【ニーズ・モチベーション】
- (2) 学生対応において、あなたが工夫していること、意識していることを教えてください。【工夫・意識】
- (3) 今期の活動全体を通じて、身についた・成長したと思う点を挙げてください。【成長】
- (4) 今期の活動全体を通して、あなたが感じた、自信の課題や反省点を教えてください。【課題】
- (5) 総合して、あなたの今期の活動の自己評価（100 点満点）を教えてください。【自己評価】
- (6) 今期の活動の中で、「いいな」と思った他の SLA の対応や言動等がありましたか？あれば、誰の

どんな振る舞いか、教えてください。【他己評価】

(7) あなたの来期の活動目標を教えてください。【目標】

(8) センターへの要望や提案、活動全般に関する課題点について、あなたが感じたことを自由に書いてください。【要望】

【3】ミニレポート

今期の自身の活動を振り返り、印象に残ったことなどを中心に、思ったこと・感じたこと・考えたことを自由に記述してください。(箇条書きではなく文章化しましょう)

<表 4-6-2. 振り返りシートの質問項目 (企画向け) >

1. 今期の活動で、自分が成長した、学んだと思う点を教えてください。
 2. 今期の活動で、自分がもっとこういうことを学びたい、こういうスキルを習得したいと思った点を教えてください。
 3. 企画 SLA 全体の課題についてあなたが感じたこと、考えたことを自由に書いてください。
 4. あなたにとって、企画 SLA の活動をしたいと思えるモチベーションは何でしたか？ (=あなたにとっての SLA 活動とは何か？活動する中で、何を得たいのか？等) 上位3つを教えてください。可能であれば、それぞれがモチベーション全体に占める割合を示してください。

①	(%)
②	(%)
③	(%)
 5. 学習支援センターに対する要望や、運営や活動に関する新たな提案があれば、なるべく具体的に書いてください。
 6. あなたの今期の活動の総合評価は、何点ですか？ 点数とその理由を教えてください。
総合評価 00 点 /100 点満点
理由
- メッセージ: 今期の自分の活動を振り返り、来期の自分に対して、あるいはこれから企画 SLA として活動する仲間や後輩に対して、伝えておきたいことを自由に書いてください。特に、今後の活動において参考になる情報や意識しておくべき注意点などについても触れてもらえるとありがたいです。

資料

■資料 A 利用学生アンケート（コメント有・全データ）

理系

解決	満足	点数	コメント
○	○	80	勉強だけを考えすぎていることに気付きました。勉強に苦労した先輩の話も聞いてみたいです。
○	○	100	理解できました。また、わからないことがあったら質問してみたいです。
○	○	90	解説が分かりやすく、答えを教えるのではなくヒントをくれたのが良かったと思います。
○	○	100	質問に対して丁寧に分かりやすく答えて下さったので、とても良かったです。
○	○	90	わからないことを1つ1つ丁寧に聞いて下さり、初歩的なことから説明してもらえたので良かったです。
○	○	85	かなり親身に対応してくれて、質問しやすかったです。ある程度分からないことはなくなったので良かったです。
△	○	80	いろいろヒントを得られて、参考になった。
○	○	100	分からなかった所がピンポイントで理解できて良かったです。
○	○	90	非常に話しやすく、丁寧に説明していただきました。経験をふまえて話していただいたので、分かりやすく参考になりました。
△	○	80	私によりそった相談をして頂けました。
○	○	100	自分のかいた解答をていねいに添削してもらえました。わからなかったこと以外にも、数学の勉強法についてのアドバイスをいただけたりと、いろいろはなせたのもよかったです。
○	○	100	知りたかったことが全部解決できました。
○	○	100	すぐ助かりました。今回のレポートだけでなくこれからのレポートにも活かせるようにしたいと思います。
○	○	100	レポートの書き方が全然わからなかったのですが、今日でどんな感じにすればよいかわかりました。
○	○	100	あびゃー
○	○	100	親身になって相談できた。見通しが持てて良かった。
○	○	90	リアルな声を聞くことができ、どの程度深く書けば良いのか、どこまで参考文献を引っ張ってくるのか基準が分かった。
○	○	100	時間過ぎてしまって申しわけありませんでした。
○	○	100	自分がかかえていた問題点が明らかになりました。
○	○		よく分かりました。ありがとうございました。
○	○	90	説明がわかりやすくて助かりました。ありがとうございました。
○	○	100	とてもわかりやすかったです！！優しく丁寧に教えていただきました！
○	○	100	分かりやすく、しかも丁寧に対応してくれてとても良かったです。また利用したいと思います。

○	○	80	勘違いしていた部分が解消できました。良かったです。
△	○	90	数学科っぽいアドバイスでした。
○	△	90	細かなイメージをつかむ助けになりました。ありがとうございます。
○	○	80	方向性がかめた。基本がサクニンできて、理解が深まった。
○		100	楽しい時間を過ごせました。
△	○	90	解析学は難しすぎ！
○	○	100	親切な対応をして、説明してくれました。本当にありがとうございました！
○	○	100	分かりやすく丁寧に教えてもらえて来てよかったです。
○	○	100	よく分かりました。
○	○	100	式の意味が理解できた。今後の勉強方針がわかった。
○	○	95	簡単な内容でも質問に答えてくださってよかったです。ありがとうございました。
○	○	90	分かりやすかったです。ありがとうございました。できました。
○	○	100	分からないところと一緒に考えて解決していただきました。ありがとうございました。
○	○	95	面倒な定義の話にしっかり付き合ってくれて本当に助かりました。ありがとうございました。
△	○	85	今日は、授業を受けてそのまま SLA に来たので、次に来るときは自分の頭の中を整理してから来ようと思った。予習をしたり、教科書を読んだりして、できることから始めてみようと思った。
△	○		わからないところを丁寧に教えていただきありがとうございました。
○	○	90	問題のところだけでなく、かんたんな解法を教えてくださいました。
○	○	60	初っ端から抽象度が高く、何言ってるのかわからなくてパニックでしたが、授業より分かりやすかった。具体例や、文字の役割の説明をきちんと下さったのが好印象。
○	○	100	学んだこと（の統合）について、自分なりの解釈が合っているのかどうか、について丁寧に教えて頂けたと思います。
○	○	100	自分が分からなかったポイントを理解することができました。非常に助かりました。
○	○	100	文字が多くてわかりにくい文字数式に苦手意識を持っていましたが、実際はそこまで難しい内容ではないことがわかりました。説明が丁寧にわかりやすかったです。ありがとうございました。
○	○	100	物理の中の数学的部分で不明だったところまで丁寧に教えていただき、本当にありがとうございました。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。

○	○	150	むちゃすつきりました。知恵の輪がとけた気分です！ありがとうございます。
○	○	75	自分では思い付きそうにない解法を教えてくださいました。
○	○	90	授業の内容をおぎなえてよかったです。
○	○	100	SLAさんのキャラがとても濃くて楽しかったです。あと、中間前になぞがひもとけてうれしいです。
○	○	90	初めて利用しましたが丁寧に教えてくださりとてもよかったです。次回もよろしく願います。
△	○	100	実験の考察についてたくさんヒントをもらえました。レポートがんばります。
○	○	100	分からなかった問題や原理が分かりよかったです！
○	○	100	SLAを初めて利用させていただきました。自分では、どのような教科書や参考書を使えば良いのかわからなかったんで、教えていただけ良かったです。
△	○	75	「数学の知識を前提としない本」を扱っているので、SLAさんとの知識の乖離もあって、愚直な進み方をしています。理学部の在り方も窺い知れたような気がします。
○	○	99	基本から教えてくれておもしろかった！イメージと結びつけてくれたのもよかったです。
○	○	100	理解力不足で何回か似たような部分でつまづいてしまったのですが、その度に丁寧に教えて下さり、本当に有難うございました。
○	○		解き方だけでなく、考え方や勉強の仕方まで丁寧に教えていただいて理解が深まりました。ありがとうございます。
○	○	100	1人では理解しづらい内容をわかりやすく教えていただいて助かりました。
○	○	100	問題の解き方が分かったので演習頑張ります！
○	○	100	基礎中の基礎から教えて頂き助かりました。ありがとうございます。
○	○	99	丁寧に教えて下さりありがとうございます。
○	○	100	質問を通して、自分で分かっていないところが、どこなのかをまず把握することができ、そこから問題を解いていったのでとてもよく理解できました。ありがとうございます。
○	○	100	ひとりでは全くできてなかったので、理解できて本当によかったです。ありがとうございます。
○	○	100	解き方がわからなかったので教えてもらえて良かったです。ありがとうございます。
○	○	100	丁寧に説明して下さいありがとうございます。
○	○	100	ていねいに対応してくださって、よく理解できました。ありがとうございます。
○	○	100	分かりやすく丁寧に本当にありがたかったです。数学に革命がおきました。ありがとうございます。
○	○	100	ずっと疑問に思っていたことを解決できてよかったです。
○	○	100	授業の内容について、はじめから順におついていながら解説していただき、疑問点が解決しました。ありがとうございます。
○	△	80	分かったので良かった。
○	○	100	質問したことよりも深いところまで答えてもらって助かりました。
○	○		初めての利用でしたが分かりやすかったです。また利用します。ありがとうございます(^-^)

○	○	100	本当に1からわからなかったところを私たちにわかるようにかみくだいて、かみくだいて…∞教えて下さったので本当に助かりました。
○	○	100	中間試験がんばります。
○	○	100	疑問が一瞬で解決しました。ありがとうございます。
○	○	90	偏微分から重積分までどのようなものか全く分からなかったのですが何となく概念が理解できました。
○	○	100	丁寧に教えていただき、ありがとうございます。
○	○	100	大変くわしく、理解できるところまでさかのぼって解説していただけたのでとても参考になった。
○	○	100	いつもお世話になってます。授業で分からないことを解決できるのでうれしいです。
○	○	70	計算式を立てられたのでよかったです。
○	○	85	自分が見当違いのことをしていたことに気づけた。また、数学科の進路の話も聞いてよかったです。
○	○	80	他の問題にもつながるヒントをいただきました。
○	○	120	行き詰った方針のどの点に問題があるのか、問を考える上で「厄介な点」がどこにあるのか、というところから、解決方針を模索することができました。
○	△	55	お手洗いは我慢せずに行っていた方が有難いです。(頭が回らない状態だと思うので)数学科でない1年の課題にしては過度に厳密な議論だったので、段階に合わせた指導をお願いします。(質問対応というより、SLAの方が問題を解いている感じだったので)
○	○	100	困っていたので本当に助かりました。とてもわかりやすく、文系の私でも理解できました。またわからないことがあったら来たいです。
○	○	100	覚えるべきところをおしえて下さってとても助かりました！わかりやすかったです、ありがとうございます！
○	○	100	勉強がんばる！がんばります！
△	○	75	どのような問題か、何を聞かれているかも分からなかったところが、はっきりとして分かったのでとてもありがたかったです。問題自体は解決しませんでしたが見通しが立ったので助かりました。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
×	○	30	つかれた。
△	△	65	今回は時間ギリギリだったので、次からはもう少し早めに来たいです。
○	○	100	わからなかったところが全て解決しました。ありがとうございます。
○	○	90	ありがとうございます。
△	○	95	分かりやすい解説ありがとうございます。
○	○	100	わからなかったところをわかりやすく説明していただきありがとうございます。
○	○	100	三宅センパイサイコー！！
○	○	100	わからなかったところがすっきりわかりました。ありがとうございます。
×	△	60	チューターさんの時間が無かったみたいで、十分に解決しなかった…
○	○	100	分かったのでよかったです。
○	○	100	分かりやすかったです。
○	○	100	わかりやすかったです！無事レポートができそうです。ありがとうございます！

○	○	70	参考書も紹介してもらえたのが良かった。
○	○	10000	ここまで丁寧に教えていただけたとは思っていませんでした。ありがとうございました。
○	○	100	勉強がんばります！
○	○	100	自分が持っていなかった（うろ覚えだった）知識を用いて、疑問だったところが明らかになりました！専門の分野でなかったのに、問題を追っかけて解いてくださり非常にありがたかったです。
○	○		ずっと分からなかった部分を図を用いていないに説明して下さい、解決しました。ほんとうにとっても分かりやすかったです！また質問したいです。
○	○	85	問題の根本から解決した。
○	○	85	専門ではないにも関わらず、丁寧に受け答えをしてくださり、ありがたかったです。
			わかりやすかったです。
○	○	100	重要なポイントを見落としていることに気付かせてくれました。終始丁寧に教えてくれて、本当に分かりやすかったです。ありがとうございました。
○	○	90	元々聞けつくりが無く新しく出てくる疑問にもずっとつき合っただけでなく、2時間半という長い時間だったにも関わらず、最後まで充実した時間でした。ありがとうございました。また利用したいと思います。
○	○	95	1対1で丁寧に教えてもらってとてもよく分かった。
○	○	100	長々と理解するまでつき合っただけでなく本当にありがとうございました。今日友達に紹介されて初めて来たけど、来て良かったです。
○	○	100	自分の力だけでできなかった問題が解決しました。ありがとうございました。
○	○	100	自分の問題以外にもいろいろな数学の話をきけて楽しかったです。ありがとうございました。
○	○	100	がんばります。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
○	○	100	数Ⅲの復習をしようと思いました。
○	○	100	悩みが明快に解決されました。また利用しようと思います。
○	○	100	基本的なルールからでないにおしえていただき、とても助かりました。
○	○	100	ありがとうございました。期末がんばります。
○	○	100	本当に分かりやすく、この（やった）問題だけでなく他の問題にも通じる考え方ができた。
○	○	89	丁寧な対応有難うございました！
×	×	0	何も得られるものもなく、テスト前なのに時間をムダにした。ききたいことに答えてほしかった。説明も全く分からなかった。
○	○	90	授業では全く意味の分からなかった点があったが何個か解消することができた。
○	○	100	すばらしかったです！！
○	○	100	完璧に理解しました。
○	○	100	忘れていたことや、自分がまちがえやすいところも教えていただけてとてもためになりました。また利用しようと思います。ありがとうございました。
○	○		解説が親切で、理解しているかを確かめながら進めてもらったのでとても助かった。
○	○	100	よくわかりました。

○	○	100	積分をする際の色んな発想の仕方が分かりました。
○	○	100	全て疑問点を解消できました。
○	○	100	とてもよかったです！
△	○	80	とても親身で自分も一緒にがんばりやすかったです。
○	○	100	先生よりわかりやすかったです。また来ます。
○	○	100	わかりやすかったし、話しやすかったので、気軽にいろいろ聞けました。化学Cでもお世話になります。
○	○	80	短時間でしたが、端的に解説していただき、とても有意義でした。
○	○	90	私の理解力が乏しすぎて長々と同じ問題をすみませんでした。明日の解析学Aのテストがんばります…。
△	○	100	初歩的なことしか分かっていない私にも優しくあせらせることなく教えてくれた。また利用させていただきます。
△	△	60	質問内容を明確にしてから来ないといけいな、と思いましたが。気をつけます。ありがとうございました。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
○	○	100	教科書で省かれている部分も丁寧に説明してくれて分かりやすかったです。
×	○	80	時間が足りなかった。
△		100	減衰振動含む物理の問題に、様々な視点から考察していただきました。問題文の設定が不十分でちゃんとした解が出にくいという結論に至りましたが、それまでの考察はとてもためになりました。
○	○	100	とても丁寧に教えていただけて分かりやすかったです。答えの書き方などで分からなかったところも教えていただけたので良かったです！
○	○	100	とても分かりやすかったです。
○			解けるまでやりきってくれました。
○	○	100	時間が無い中でも丁寧に教えて下さって理解することができました。
○	○	100	解放がわかりました。ありがとうございました。
○	○	100	とても分かりやすかったです。ありがとうございました！！
○	○	100	理解できて良かったです。
○	○	100	とてもわかりやすく、丁寧に、来てよかったですと思いました。
○	○	100	長い時間ありがとうございました！
○	○	100	親身に教えていただき、質問箇所はみな解決できたように思うのでよかったです。
○	○	100	疑問が解決した。
○	○	100	ありがとうございました。
○	○	100	わかりやすかったです！
○	○	100	非常にわかりやすくわかるまで長くつきあってくださってほんとにありがたかったです。後期からもっと利用します！
○	○	100	後期から利用します…。
○	○	100	全然手がかりがなかった問題もなんとか解けるところまで丁寧に教えて頂いてありがとうございました！
○	○	100	対応が素晴らしいです。2セメもお世話になります。夏休み勉強頑張ります…。
○	○	100	生物的内容に親切に対応していただきありがとうございました！わかりやすく、解決できました🍀

○	○	100	(時間も少ない中) 授業中(教科書)内の疑問が解決してよかったです。とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
○	○	100	大学の先生より SLA の方に授業していただきたいくらいわかりやすすぎました。また来ます、ありがとうございました。
○	○	95	専門科目の内容でしたが SLA の方が一緒に考えてくださって、疑問を解決して頂きました。ありがとうございました。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
○	○	100	わかりました。よかったです。
○	○	100	ありがたい。
○	○	100	丁寧で優しい。ほれそうだった。
△	○	100	適確なヒントなどを頂いて、考察や問題を解く方針をたてることができました。ありがとうございました。
○	○	100	一緒に解決法を考えて頂けて良かったです。
○	○		解決しました。ありがとうございます。
○	○	100	長い時間理解できるまで丁寧に対応していただき、本当にありがとうございます！
○	○	100	Borel set がわかって感動しました。また、基本的な文字の記号の意味がやっとわかって助かりました。ありがとうございました。
○	○	100	大変親身になって対応して下さいだったので、活路が見いだせました。
×	○		論文の調べ方なども教えて頂きました。ありがとうございました。
○	○	100	丁寧な対応ありがとうございました。
○	○	90	3人体制という豪華な状況だったので、議論が弾んでためになる時間になりました。実験初心者の自分にとって、「データからどのように考察を組み立てるか」等のノウハウも教えていただけたのは非常に有難かったです。ありがとうございました。
○	○	90	わかりやすく、+αまで説明してくれました。
○	○	100	問題のとき方も定義もわかってよかった。
○	○	100	3時間半も教えていただきありがとうございました！！
○	○	100	3hもいっしょにといて下さってありがとうございました。
○	○	98	根気よくつきあってくれてありがとうございました。
○	○	100	「取り得るのでは？」と考えられる場合について、「取る」場合の可能性及びその問題点について参考になりました。
○	○	100	少しずつですが、解説していただきながら、Exercise の問題ができて良かったです。
○	○	100	非常に説明がわかりやすかった。分からなかったところが一気に解決したのでとてもうれしい。
○	○	90	過去の知恵を活用でき、何とか解く道筋が見えました。
○	○	100	どのような書式によって見やすくするのか、という点について良く議論して頂き、参考になりました。
○	○	90	結局僕の勘違いでしたが厳密なところまで聞けたので満足です。
○	○	100	分からなかった部分が意外な形で解決して良かったです。

○	○	100	フリー工級数の復習もしていただいて、理解が深まりました。
○	○	100	1 から教えてもらいました。理解しました。常連みたいになってます ごめんなさい。SLA の人みんないい人で感動です。ありがとうございました。
○	○	100	説明がわかりやすく、すんなりと理解できました。
○	○	65	内容が内容で TA も難しかったと思います。
○	○	90	知らない内容をその場で理解して一緒に考えてくださったのはありがたかったです。
○		90	むずかった！！
△			
○	○	95	自分が持っていたギモンは全て解決されたので、よかったです。また、質問をしても、その答えまでは自分の頭を使われたので、こちらも考えながら解決できたことがよかったです。
○	○	95	難しい問題でしたが、丁寧に対応して下さいました。
○	○	100	ウェブワークの英語難しかったです、一緒に読んでいただき、心強かったです。
○	○	80	データの計算方法や採用の仕方、考え方など、文献を読んでもわからないようなことについて、議論しながら解決できたことが非常に力になったと思います。ありがとうございました。
○	○	100	聞いている以上のことを知れてよかった。
○	○	100	解決しました。ありがとうございました。
○	○	100	1つ1つていねいに解説していただきました。概念も図にまとめて分かりやすく教えてくださって、とても理解の助けになりました。また教えていただきたいです。
○	○		説明が分かりやすかった。
○	○	100	完全な模範対応でした (SLA の理念に沿った)。
○	○	100	図示したので視覚的にも分かりやすかったです。
○	○	100	やや複雑な反応機構を正確に示していく上で、どのような点に注意していく必要があるか、ということについて理解できました。
○	○	100	ありがとうございました！
○	○	100	分かりやすかったです。専門外なのにありがとうございました。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
○	○	100	短い時間だったけど、解決できてよかった。
○	○	100	とても親密に対応していただいて、しかも説明も分かりやすかったです。また利用したいと思いました。
○	○	85	文系にも分かりやすい説明で助かりました。
○	○	90	自分が分からない内容を的確に教えていただけました。
○	○	95	とてもわかりやすかったです。あと、化学の対応時間を増やしてほしいです。
○	○	100	基礎の内容でしがきちんと説明して頂きました
○	○	100	分かりやすかったです。ありがとうございました。
○	○	100	わかりやすかったです、ありがとうございました。
○	○	100	とても分かりやすい説明で納得できました。ありがとうございました。
○	○	100	問題が解決しました。ありがとうございます。
○	△	70	自分で計算なさっていてあまり話せなかったです。

○	○	100	分かりやすかった。
△	○	80	いきなりすみませんでした,ありがとうございます。
○	○	100	丁寧に対応してくれて分かりやすかったです。
		100	分かった!!
○	○	100	解決しました。ありがとうございます!
○	○	100	わかりやすく説明していただきありがとうございました。
○	○	100	丁寧な対応で助かりました。30点くらい上がったと思います。
○	○	100	浮くように頑張ります
○	○	1000000	化学 C への苦手意識が減りました。二時間も長い間教えてくださいました。ありがとうございました。
○	○	100	本当に分かりやすかったです。長い時間すみませんでした。ありがとうございました!
○	○	100	詳しい部分まで丁寧に教えていただけたので、理解が深まり、答えにとっても納得できました。

○	○	100	段階を踏んでの説明だったのでわかりやすかったです。
○	○	100	数値を考える上で、どの数値に着目しているのかが明らかになり、解決しました。(熱力学について単位を混同しやすい面があると思います。/mol/L/m ³ /Pa/J など)
○	○	100	分かりやすかったです。
○	○	100	分かりやすかったです。
○	○	100	自分の思考が正常だったのが分かって安心しました。
○	○	100	丁寧に教えて下さってありがとうございました。
○	○	85	不明な点がきちんと解決したので良かったです。
○	○	100	反応の仕組みが理解できて、納得しました。
○	○	100	ありがとうございました。

英会話

解決	満足	点数	コメント
○	○	100	少し分からない単語もあったが丁寧に教えてもらったので良かった。
	○	100	久しぶりに SLA に参加できて楽しかったです。
○	○	100	自分の言いたいことが言えずにもどかしかったが、言葉が出てくるまで待ってもらえたので、あまりいゆせずに参加することができた。自分の好きなものを説明するのは意外と難しいことがわかった。勉強する意欲が高まった。
○	○	100	SAP から帰ってきて英語のスピーキング能力を維持したかったので利用させていただきました。とても楽しく会話できました!また利用させていただきます。ありがとうございました。
	○	100	楽しくたくさん会話できてとても楽しかったです。
○	○		とても楽しく会話できた。
○	○	100	数学の難しすぎました。笑
			レストランでの英語は実用的でよかった。ディスカッションの時間があるとよかった。
○	○	100	story を作るのがおもしろかったです。
○	○	100	色んな表現が覚えられて楽しかったです。
	○	100	様々なゲームをたくさんの人たちと楽しむことができました。
○	○	100	すごく楽しかったです。英会話をする機会はまだ多くないので、貴重な機会だと思いました。
	○	100	今日も楽しかったです。
○	○	100	面白かったです!
	○	95	とても楽しかったです。もっと話せるように頑張ります。
	○	100	Hotel での会話を楽しく学べました。
○		100	楽しかったです。
	○	100	今日も楽しかったです。
○	○		フリートークをしたいのですが何か特別な趣旨が毎回あるのですか。
○	○	90	ニュアンスの違いなどを学べたので良かった。

○	○	100	楽しかったです。また来ます。
	○	100	ゆっくり話していただいたのでとても分かりやすかったです。もう少し単語力を増やしていきたいです。
	○	100	初めて英会話カフェに参加して、不安もあったけど対応がとても親切だったので参加してよかったと思いました。次回も参加したいと思います!
	○	99.9	樋口 YASU が良かった。また来たいです。
	○	100	またぜひ来て英会話を上達させたいです。
	○	100	少人数なので落ち着いて話せて楽しかったです!!
○	○	100	今日も楽しかったです!定期的にまた来ます。
△	○	90	楽しかった。
	○	100	楽しんで会話のできたので良かったです。日常で使えるフレーズも勉強したいと思いました。また次も来たいです。
	○	100	自己紹介のやり方を学ぶことができ、勉強になりました。
	○	100	面白かったです。少しでも上達できたなら嬉しいです。
	○		一緒に今日やった人がめっちゃレベル高かったので大変でした > < けれどリスニングの非常に良い勉強になりました!!
	○	100	今日も楽しめました。
		90	よかった。
○	○	100	楽しかったです!!趣味について話せて嬉しかったです。
○	○	100	That was very interesting! Thank you for great time. I'll come to you again!
	○	100	Hangman ゲームがおもしろかったです。またやりたいと思いました。
	○	100	みんなで楽しく英会話できました!!
	○	100	Hang man ゲームとてもおもしろかったです!!
	○	100	片言の英語しかしゃべれませんが、これからがんばります。。。
	○	100	今日も楽しめました。

	○	100	今まで、英語に a が抜けているということに気づかなかったので気づけて良かったです。今後気をつけていきたいです。
	○	100	おもしろかった。
	○	100	大人数で楽しめました。
	○	100	ちょっとずつ話すのにも聞くのにも慣れてきたような感じがします。少しずつ続けていきたいです。
○	○	100	大人数で楽しかったです。また来ます。
	○	90	たのしかったんご
○	○	100	楽しかったです。たくさんトークできて嬉しかったです。
○	○		初めて英会話カフェに参加しましたが、とても楽しかったです！！
	○	100	2つのゲームがおもしろかった。また来たいと思う。
		100	英語で質問をするのが難しかった。
	○	100	英語で色々なゲームができた。
○		100	英語で何かを説明するのは難しいです…。
	○	100	ゆっくり話してもらえたので聞きやすかったです。Who am I?のゲームはまわりの人がヒントをあげる方がやりやすいかなと思いました。
○		100	短文での表現がもっと簡潔に表現できるようにがんばります！
	○	100	ディスカッションは勉強にもなって楽しかったです。
	○	100	ゲームがおもしろかった。
○	○	101	なし
○	○	100	楽しかったです。また来ます。
○	○		たのしかったです！！
	○	100	1週間ぶりに SLA に来ました。少し英語感がぶっていたので、また定期的に来ます。
○	○	100	楽しかったです♪また来ます！
		101	なし
	○	100	Who am I ゲームもお絵かきゲームもおもしろかった。ゲーム形式で、vocaburaly が覚えられるのもとても良かった。また来たいと思う。
	○	100	今日は、たくさん種類のゲーム（4つ？）で質の高い英会話のトレーニングができました。
	○	100	少しずつ話せるようになってきた気がします。まだまだですが言いたいことが少しでも言えるように勉強したいです。
○		100	もっと単語の知識を増やして詳しく説明できるようになりたいです。
		101	なし
	○	100	新しい文法、単語が学べました。
	○	100	英語で言いたいことがなかなか言えなかったけどゆっくり話せるよう頑張りたいです。
	○	100	文字を当てるゲーム面白かったです。勉強にもなりました。
	○	100	今日も楽しめました。
	○	100	Hangman ゲームが楽しかった。
		101	なし
	○	100	今日も楽しめました。

	○	100	discussion はムズかしかった。ゲームもムズかしかった。今日の話はどれもムズかしかった。
	○	100	色々なゲームができて楽しめました。
	○	90	よかった。
	○	100	ディスカッションは面白かったです。なかなか言いたいことを言えなかったのはもどかしかったけど少しずつ話せるようになりたい。
○	○	100	ディスカッションが面白かったです。時間をもっととってほしかったです。理系なので、そういう話題もしてくれると嬉しいです。
	○	100	自分の考えをうまく伝えられるようになりたい…です。
	○	100	めっちゃ楽しかったです。英語でゲームをやっているのが新鮮で、また来たいな、と思いました。
	○	100	長い時間、しっかりと英語のトレーニングができました。ありがとうございます。
	○	100	単語の知識をもっと増やしたいです…。
○		99	よきまる。安定感の YASU。1点は期待値ということ。
		95	vocabulary 増やせました◎英語難しくて自分の成長をなかなか感じられないですが…勉強あるのみですね。
		101	なし
	○	100	ゲームで語りが増えた気がします。
○	○	100	ディスカッション面白かったです！フリートークのネタ今度もってきます。
	○	100	ディスカッションは楽しかったです。もっと話せるように頑張ります。
	○	100	英語のフレーズを話せるようになるまで何度も練習させていただきとても勉強になりました。
	○	100	discussion が難しかった。
	○	100	お話ししていく中で、自分が出てこないワードがめっちゃあって、覚えるハズなのにでてこない単語に気付けるのはフリートークの長所だと思います！
○	○	100	しりとりゲームが面白かったです。ストーリー作るのが難しかったです。
	○	100	今日のゲームとても楽しかったです。
	○	100	短い文章でも自分の考えを伝えられるようになりたいです。
	○	100	discussion はいつも難しいが、英語力が上達していると感じる。
○	○	80	参加者が話す方法・ゆどうを多く考えていけるとたのしくなるかも。少し静かなときがある。
		100	ディスカッション、ゲームの両方ができたので楽しかったです。
	○	100	ディスカッションは楽しかったです。勉強になります。
	○	100	色々なゲーム、ディスカッション楽しめました。
		100	英会話の時間ということで、海外に目を向けている人が多いと思うので、海外について何かディスカッションをしてみたいです。
	○	100	新しい単語を多く知ることができました。
	○	100	川内キャンパスを英語で説明するのは難しい。
	○	100	2種の初めてのゲームをしました。楽しめました。
	○	100	English joke は頭の体操にもなって面白いです。

○	○	100	whisper challenge 難しかったけど楽しかったです。全然想像できなかった…
	○	100	ゲームがおもしろかったです。Whisper challenge ではなかなか正解が出せなかった。
	○	100	今日は話す量が少なかったので、次回はもっと話すように心掛けたいです。
○	○	100	英語が苦手だったのですが、楽しくできました。
	○	100	単語の共通点（並び方の法則？）を見つけるゲームが楽しかった。
	○	100	今日は、たくさん話せて楽しかったです。
	○	100	全然英語が話せない私のペースにもあわせていただいとてありがとうございました。また英会話をしに行きたいなと思いました。
	○	100	答えにつまったときにサポートしてくれたので、安心して、自分の考えを言うことができた。楽しかったです。
	○	90	何かディスカッションが参加者の発言を促してあげたいと…沈黙が長い。
	○	100	新しい単語をたくさん学べました。
		101	なし
	○	100	ゲームとディスカッションを両方やるのがとても良かったです。
	○	100	ディスカッションできて面白かったです。
	○	100	今日も楽しかったです。
○		100	日本語→英語の流れがスムーズにできるようになりたいです！
	○	100	新しいゲーム少し難しかったですが、良いトレーニングになりました。
○	○	100	ディスカッションをじっくりできてよかったです。大人数もいいけどたまには少人数でもいいかなと思いました。
	○	100	新しいゲームはめっちゃ不思議な話ができおもしろかったです。他の人が考えている間の待ち時間が長かったので、何かできるともっと良いと思いました。
○	○	100	楽しかったです。一言で返事をしたりするのが苦手なので、改善したいです。
○	○	100	初めての参加でしたが、グループの雰囲気も良く、皆が楽しめるように企画してくれたのが好印象でした。
	○	100	自分の専門を英語で説明する機会をいただき良い経験になりました。あと、最後に、文法のアドバイスをしていただき勉強になりました。
	○	100	月曜日も英会話がスタートしたので、月曜も積極的に来よう！！
	○	100	丁寧に教えてもらって良かったです。
	○	100	ずっとディスカッションできてゆっくりだけだいたい伝えたいことが言えるようになってきた気がします。これからも頑張りたいです。
	○	100	新しいゲームがとてもおもしろかったです。英語で好きな理由とかを考えて伝えないといけないのでとても勉強になると思います。
	○	100	初めてのゲームで楽しめました。
	○	100	悩み事を推測するのにとてもない答えが返ってきておもしろかったです。

	○	100	色々な種類のゲームで良い英語のトレーニングができました。
○	○	100	advice ゲームが楽しかったです。楽しく英会話のできたのでよかったです。
○	○	90	なんかもりあがっていたようで良かった。
	○		初めて金曜日に参加しました。フリートークができて楽しかったです。
	○	90	自由に話せてよかったです。
	○	100	今日はたくさん話せて楽しめました。
	○	100	フリートークだと色々なことが聞けて面白かったです。
	○	90	英会話の練習をゲームを通じて行うことができてよかったです。最近英語を話しておらず、話せなくなりつつあったので、良い経験になった。
	○	100	"actually"という単語の使い方やネイティブがどういう風に感じるかを学べてすごく勉強になりました。
○	○	95	よかったです。
	○	100	雑談やディスカッションをして、だいぶ上達したような気がしてたのしかったです。
	○	100	楽しかったです！！
		101	なし
	○	100	旅行の話楽しかったです。
○	○	99	ありがとうございました。
	○	100	映画の話とても楽しかったです。
	○	100	今回はたくさん話せていい練習になりました。
	○	90	行く前は敷居が高そうなものだと思っていたけれど、参加してみたらとても和やかな雰囲気であったという間の1時間でした！もっと英語話せるようになりたいのでまた来ます。
	○	100	楽しかったです。普段留学生と交流して英語を話してみたいけど、いきなりネイティブの方と話す自信もあまりないので、この英会話の企画を利用して少しずつ慣れていきたいと思いました。
	○	95	お茶ごちそうさまでした。
	○		お茶がおいしかった。上手く伝えたいことを言えなくて英語にするのに時間がかかってしまったのががんばりたい。
	○	90	前回行ったときは違う方とお話しできて楽しかったです。お茶また飲みたいです。今度は時間紹介ももっとがんばろうと思います。
○	○	99.9	よかったです。
○	○	95	たのしかったです。
	○	100	英語で話せて楽しかった。
○	○	95	たのしかった。
○	○	100	楽しく会話できました。また来ます！！
○	○	98.9	1.1 点分はどこにあるのか考えて下さい。
		100	色々知らなかった情報が分かって本当に良かったです◎また来セメもよろしくお願ひします！
	○	100	伝統衣装の話ができたのは面白かったです。勉強にもなって面白かったです。
○	○	99.9	楽しかった。二郎系を serve して下さい。
	○	90	今日は他の学生さんもらしていたので皆でにぎやかにお話することができました◎

○	○	100	沢山新しい単語を覚えられて良かったです！
	○	100	英語っぽいリアクションができるようになりたい。
○	○	98.9	みんなの方言を聞きたい。です。
	○	100	言語の話とても面白かったです。
○	○	97.6	あついで 2.4 点減点
	○	100	楽しかった！！
○	○	100	たくさん話をするのができて楽しかったです！
	○	100	とても楽しかった！！！！
○	○	95	よかった。
○	○	99.98	なんかじゃくちのつかい方を教えてもらった。
	○	100	楽しめました。来セメも積極的に来ます！！
		99	初回楽しく話せてよかった。
	○	100	今セマスターも積極的に来ます！！
	○	100	初めて英会話カフェに来ましたが話しやすい雰囲気でした。
	○	100	久しぶりに来たけどすごく楽しかったし、前より話せるようになったような感じがしてうれしかったです。
○	○	100	良
	○	98.7654321	よかった。
○	○	100	英会話の担当の方が非常に気さくで話しやすかったです！
	○	100	たくさん話せて楽しかったです。
○	○	100	しばらく来ていなかったら全然話せなくなっていたのでまたかよい始めます！！
	○	99	よかったよ。
	○	100	楽しかったです！
	○	90	色々知れて（表現を）、そして会話をたのしめてよかったです。
	○	90	会話だけでなく、表現の仕方や語彙を学べて楽しかった。辞書ではわかりにくい表現もわかりやすかった。
	○	100	大学内で英語を話す機会はなかなか得られないのでとてもよい体験ができました。なかなかうまく英語に翻訳できなくてもくみとってくれてやりやすかったです。
	○	100	多人数で楽しかったです。
	○	98.7654321	よかったよ。
○	○	100	1on1 も是非行ってみたいです。
	○	100	楽しかったです。
	○	100	楽しかったです。
○	○	100	すごく楽しかったです。リラックス効果あり。
○	○	100	良き
○	○	100	悩んでいることをトピックにして頂きありがとうございます！
	○	98.7654321	人生そうだったのしかった。
	○	98.9898	たのしかったよ。
	○	100	少しの時間でしたが楽しく話せました。
	○	100	楽しかった。
	○	100	安定の楽しさでした♡

△	○	90	ありがとうございました！色々な県のこと知れて良かった。
○	○	100	久しぶりに英語しゃべれて楽しかったです
○	○	100	楽しかったです。また来ようと思います。
	○	98.7654	よかった。若者が楽しいね。
	○	100	久しぶりでしたがとても楽しかったです。少し前よりできなくなっている気がするのもっと頑張りたいです。
	○	100	楽しかった！
	○	98.7654321	今日もたのしくおしゃべりしました。
○	○	100	具体的に進路について考えられた。本なども一緒に探してくれて親切でした。
○	○	100	楽しかったです！もっと英語話せるようになりたいと思いました。
○	○	99.87321	よかったハムコダ。中国の首都は北京いむにだ。
△	○	100	楽しく英会話の練習をすることができました。少し日本語を交えながら話すことができたので、ストレスフリーでとても楽しい時間を過ごすことができ、大満足です。
	○	90	初めて英会話カフェを利用して、英語を使うのは面白いと思ったり、難しいとも思いました。
△	○	100	面白いゲームで英語のコミュニケーションができて良かったです。担当の韓さんは面白くて英語もうまくて素晴らしいかったです。
○	○	100	楽しかったです！
○	○	100	楽しかったです。もっと英語で話せるようになりたい！
○	○	101	なし
	○	99	よかった。
○	○	100	初めて参加したんですが、みなさんのサポートで楽しい英会話が出来ました。ありがとうございます。
○	○	100	ありがとうございました。
○	○	100	コーヒーについてくわしくなりました。コーヒーを語れるようになってまた大人になりました。
○	○	95	知らないことをしれてよかった。初心者ウィークなのでみんなにもっと話をふってあげてもよかったと思います。（これからまた参加するかどうかの基準になるので）
	○	99.999	楽しかった。自分の専門の話をできてたのしかった。
	○	95	楽しかったです。
○	○	100	すごい楽しかったです！ためになりました。
○	○	100	英語がいえなくてもどかしかったけど、内容はたのしかった。
	○	100	楽しかったです！
	○	99	何かとたのしいおしゃべりでした。
○	○	100	1on1 の英会話は初めてだったのですが、楽しく実のある話がありました。
		100	楽しかった！！
	○	80	新しい語彙が増えてよかったです。日本の文化について外国語で説明するのは難しかったけれど、それも含めて楽しめました。意識的に日本文化を説明するための語彙を増やしていきたいです。
○	○	100	日本の伝統行事を英語で知れてよかったです！

		100	久しぶりに来て楽しかったです。
	○	99.97	よかった。日本語文化わかった。
	○	100	地震はこわいですね。
○	○	100	楽しく話すことができました。
○	○	100	英文をしゃべれるようになりました。
	○	100	楽しかった！！
		100	楽しく話せて良かったです。
○	○	99.9999	よかった。うん。
○	○	99.999	加油、加油、我在大学。
	○	100	たくさん話せて良かった！！
			なかなか来れることはできないですけど、来ると楽しく話せるので時間を見つけてまた来たいです。
	○	100	良い表現を知れて良かったです。
		101	なし
○	○	99.9999	プレゼンの練習になった。よかった。サイバーマンデーだよ。Amazonへgo！
	○	100	なかなか話す機会がなく、思っていることを伝えるのが難しかったです。ありがとうございます。
	○	90	ゲームが楽しかったです。
	○	100	英語を話す機会はなかなかないので良かった。
	○	100	楽しかった！！
○	○	100	しゃべれるようになってきた。
	○	95	方言のはなしや地域のはなしがたくさんできてのしかったです。
○	○	100	また来ます。思ったよりも緊張せずにできるかもしれないと思いました。
	○	100	楽しかったです。
	○	100	楽しかった。中国の漢字（名前について）も知れてよかった。
○	○	100	良かったです。
○	○	98.765432	よかったまる。
		100	英会話のアンケートで各人がどれだけ英語を話したか（発言した英語の量）をアンケートで聞いたらいと思います。
	○	98.7654	どれだけ話したかをアンケートでとるといい。最近のローカルニュースとかよじんじゃないかと思えます。
○	○	100	Are you satisfied with your majoring?
	○	100	英語の発音の仕方についてとても勉強になりました。発音の練習とても楽しかったです。
○	○	99.999999	発音することは大切。
	○	1000億	楽しかったです！
	○	90	前回よりも英語で話すことができて楽しかったです。
○	○		楽しく会話できて良かったです。
	○	100	楽しかった！！
○	○	100	男がいっぱい。
○	○	99.999	人がいっぱいいた。
○	○	101	なし
○	○	100	とても楽しく英語が使えてよかった。ぜひまた来たい。

○	○	90	思ったように言葉が出てこなかったので継続して練習したい。
	○	100	楽しかった！！
○	○	99.876543	次郎ラーメンは12月の最終週です。
	○	100	楽しかった。ゆっくり話していただいたので聞き取りやすかったです。
	○		話せなすぎてフラストレーションは溜まりっぱなしですが1つ1つサポートしてくれるのでありがたいです😊
	○	100	すごく丁寧に対応して頂きました！フレンドリーでとても話しやすく、また来ようと思いました！！
	○	100	楽しかった！！
○	○	100	今日は楽しく英会話できました。今日も！
○	○	100	It's crazy people.
	○	100	たくさんしゃべれてよかったです。
○	○	100	ありがとうございます。楽しかったです。
	○	100	たくさん話せて良かった。
○	○	99.997	ランダムトークだったよ。よかったまる。
○	○	98	楽しみながら英語を学ぶことができた。また来たい！
○	○	100	英語しゃべれるようになりたい。
○	○	100	与えられた話題についてじっくり英語で意見を述べられて良かったと思います！緊張していたけど楽しかったです！！また来たいのでよろしく願います！
		100	なかなか来れないんですけど、日常生活で英語を使う機会がないので、こういう機会はありがたいなと思います。
	○	100	楽しく英語を話すことができ、非常に良かったです。英語を授業外でも話す機会が得られて満足でした。
	○	100	ディスカッションとゲームを両方でできて楽しかった。また、今日は大人数だったので特に楽しかったです。
○	○	99.987654	人がいっぱいいたのでよくみんな話していたと思う？思われる？そうね。
	○	90	ディスカッション楽しかったです。
	○	80	ファシリテーターの方が優しく見守ってくれて落ちついた気持ちで英会話ができました！あんまりうまく英語で言いたいことを伝えられなかったからもっと流ちょうに話せるようになりたいと思った。
	○	100	楽しかった。もっとうまく話せるようになりたい！ありがとうございます。
○	○	100	いつの間にか1年がすぎました。
	○	100	たくさん話せてよかった。
○	○	99.87653	苦しいから来ました。良かったです。救われました。さてはお前が千勢だな？
○	○	100	すごく勉強になりました。ありがとうございます。
	○	101	少しずつ言葉がでてくるようになってきた気がします！
○		95	年末らしい話題でよかった。楽しく年をふりかえることができた。
○	○	90	難しい話にまだついていけなかったのが悔しい。
		100	とても楽しかった。

	○	100	答えに詰まったり、分からない単語があっても優しく教えてくださり、話を楽しく進めることができました。ありがとうございました。
		100	たくさん話せた！！
		98.7654321	よかった。
	○	100	楽しかった。来年も継続してきます。
○	○	100	来年もよろしくお願います
	○	100	今年度もたくさん来ます。
○	○	100	新年そうそうお腹すきました。
	○	100	楽しかった。
○	○	90	久しぶりでちょっとなまっていた。
○	○	100	具体的に物事を話したいです。
	○	90	久しぶりに来ました。楽しかったです。
○	○		もっと頑張ります。
○	○	100	非常に丁寧に对应していただき、本当に助かりました。また利用させていただきます。ありがとうございました。
○	○	100	ありがとうございました。新設でした。
	○	100	楽しかった。
	○	100	中身の濃い英会話でした。
	○	100	久しぶりに来ました。なかなかここまで all English で会話できるところは少ないのですごく助かります。
	○	100	ちょうどいいディスカッションでした。自分の経験も踏まえて言えたので、すごく盛り上がって良かったです。
○	○	100	とても役に立ちました。ありがとうございました。

	○	100	なかなか上手く話せないけど頑張ります。
○	○	100	高度な知能戦を仕掛けたかった。
	○	100	楽しくお話しできてよかったです。ありがとうございました!!
	○	100	英語で会話できてよかったです。
○	○	90	内容を付け足した時、前の段落とつながっていないことを指摘してもらえたり、どうすればつながるか教えてよかったです。また、授業を受けていない人にも内容が伝わるかを確認できてよかったです。
○	○	100	久しぶりに来て楽しかった。
		100	田さん最後の残念でした。とても楽しく勉強になりました。ありがとうございました!
○	○	100	DENN さんありがとう!
○	○	100	2年間ありがとうございました!!!楽しかったです!!
○	○		Last Denn is priceless!
	○	1E+13	ただただありがとうございました。
	○	100	久しぶりの英会話楽しかったです。SAP 終わってしばらく来ていませんでしたが、やっぱり英語を使ってコミュニケーションとるのが楽しいです。ゲームも今日初めてやりましたが面白かったです。田さん、お疲れ様でした!
○	○	100	分かりやすく教えていただきました(._.)テストがんばります!
○	○	100	田さんありがとうございました。
○	○	100	楽しかった!!
	○	100	英語のトレーニング方法や英会話上達のためのコツなど貴重なアドバイスありがとうございました。とてもためになりました。
○	○	100	お疲れ様でした。

ライティング

解決	満足	点数	コメント
○	○	100	レポートの書き方に困っていたところアドバイスを聞いてビジョンが見えるようになりました。説明も丁寧でした。
○	○	100	自分では気づくことができなかつた側面から問題を指摘していただき、レポートをより良くする上でとても参考になりました。
○	○	100	丁寧に説明してくれてありがとうございました！！
○	○	100	対応して下さった SLA さんがとても優しく、親身になって答えてくださり助かりました。またぜひ利用したいと思えます。本当にありがとうございました!
○	○	95	初めてのレポートで分からないことが多く不安でしたが、親身になって対応して頂きとても助かりました。
	○	100	問題が発覚した。
○	○	100	とても親身に相談に乗ってくださり、大変助かりました! ありがとうございました!
○	○	100	レポートの書き方について、丁寧にアドバイスしていただき、ありがとうございました。浅い内容のレポートを提出す

			るところでした。内容の充実したレポートを書けるように頑張りたいです。
○	○	100	私は平がなを多用する人だと初めて気がつきました! また、パソコン操作でわからないことを解決していただけて、よかったです。
○	○	100	他の学内の場所では取り扱ってもらえないような質問だったのに、丁寧に对应していただきありがとうございました。
○	○	100	まとめ方、考察の書き方について理解できたと思います。
○	○	100	レポートのテーマ設定の段階での相談でしたが、具体的な方法を知ることができました。ありがとうございました!
○	○	90	親しく対応してくれまして本当に良かった。自分がなやんでいる部分をちゃんと指導してくれましてよかったです。問題も解決した。ありがとうございました。
○	○	90	こっこのアドバイスをいただいて、大変助かりました。
○	○	90	9割ぐらい理解できたと思います。
○	○	100	非常に丁寧に对应していただき、疑問点が解決しました。ありがとうございました。
○	○	92	とても分かりやすかったです。

○	○	100	文法が添削された。とても役に立つ。しかも SLA さんが丁寧に対応した。
○	○	100	玉田さんはとてもまじめに私に研究計画書を書き直しました。とても役に立ちました。ありがとうございます。
○	○	100	日本語の具体的な使い分けや書き方などについて助けてもらってありがとうございます。
○	○	95	玉田さんはとても親切だと思う
○	○	100	不明・気になる点をちゃんと説明していただきました!
○	○	100	木村さんはいろいろ書き直してくれて本当にありがとうございます。
○	○	100	論文の書き方や言語表現について SLA さんの意見をいただけてとてもうれしいと思います。SLA さんのもとでも親

			切に論文の文を修正してくれて大変助かりました。ありがとうございます。とてもいい経験でした。
○	○	100	玉田さんはいつも丁寧に指導してくれて、本当にありがとうございます。
○	○	100	レポートの文章構成について悩んでいたが、解決法が見えた。ありがとうございました。
○	○		レポートの書き方について大きな問題を発見できました。助かりました。ありがとうございました。
○	○	100	説明が詳しく分かりやすい。優しく対応していただき、ありがとうございます!
		100	日本語の表現はやはり難しいと思って、玉田さんは色々教えてくれてありがとうございます。
○	○	99	先生は優しく説明は理解しやすい。

日本語カフェ（企画）

解決	満足	点数	コメント
○	○	100	Today was a good session. Thank you very much! :))
○	○	100	It was fun, today. Thank you very much!!
○	○	100	It was fun today! Thank you. "コンピューターが分かるようになる"
		101	なし
○	○	100	It was nice!
○	○	100	It was fun! Thank you.
○	○	100	Today was interesting, but it would be nice if the session can last longer.
○	○	100	新しい単語を勉強しました。
○	○	90	とても役に立ちました。色々事を勉強になりました。いっぱい単語を学びました、満足でした。
○	○	100	日本語で話すことはまだよくない。今後だんだん上手になるように。
○	○	95	楽しかったです。もし、一回で1や2のよく使われた文法をお教でもらえれば満点になります。今日、本当にありがとうございます。
○	○	100	食べるもの単語がいっぱい勉強しました。とてもすばらしい活動だと思います。参加してよかったです!

○	○	100	☺☺!!
○	○	100	日本の正月料理のことを勉強しました。とても面白い。
○	○	100	日本文化を了解した。大満足!これから、このようなイベント増やしたい。
○	○	100	shopping について、会話やりたい。単語ゲーム面白い。
○	○	100	お正月について色々勉強させて頂きました!どうもありがとうございます!
○	○	100	年末について、いろいろ話しまして、楽しかった!もっと日本のことについて知りたい。(流行っていることとか)
○	○	100	ご丁寧に对应していただきありがとうございます。私にとって、実りのある時間でした。頼先生、鏡さん、工藤に感謝します。
○	○	100	敬語の使い方について、「なるほど」の感じが何度もありまして、ありがとうございます。
○	○	100	事務と仕事でよく使われる敬語と文章の使い方を紹介してください。
○	○	100	勉強になりました。
○	○	100	日本の方とお話できてとてもいい機会だと思います。
○	○	100	とても楽しかった。来年はもし旅行とかについて話す力があればいいと思います。
		101	なし。
○	○	100	いっぱい勉強しました。いままでお世話になりました。

その他・科目不明

解決	満足	点数	コメント
○	○		ありがとうございました
○	○	100	It was a good time for me.
○	○	100	楽しかったです。
	○	100	楽しかったです。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
○	○	100	分かりやすかったです!

○	○	100	どんな質問にも丁寧に对应してください、感動です。また同じ人がいいです!とても楽しかったです。
		90	ずっと分からなかった所を自分で理解できるように教えてもらえて良かった。
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
○	○		ていねいに対応してくれて助かりました。
○	○		ありがとうございました。
○	○	100	わかりやすかったです。
	○	100	一発で自分の考えを伝えられるようになりたいです!
○	○	90	ありがとうございました。

○	○	100	見落としがあつてすみませんでした。またよろしく願ひします。
○	○	100	わかりやすかったです。
○	○	90	わかりやすかったです。
○	○	80	困つたらググってみます
△		100	丁寧に答えていただきありがとうございました。
○	○	100	ありがとうございました。
○	○	100	たのしかった！
○	○	100	とてもわかりやすかったです。
○	○	100	魔法のようにわかりやすかったです。自分がよく理解できていないところも発見できました。
○	○	100	とても勉強になりました。
○	○	100	よく分かりました。ありがとうございました。
		100	大分慣れてきたのでもっと積極的に話せるようにしたい。
○	○		わかりやすかった。
	○	100	楽しかったです。



■資料 B 2018 年度発行ポスター

学習支援センター 新入生歓迎企画

試験勉強・レポートはどうすればいいの？
授業だけじゃなく、自分から学びたいけど、
どうしたらいいんだろう？
第2外国語、何を選べばいい？
理系の授業／文系の授業で、
特に大事な科目／難しい科目は？
留学したいけど、どんな準備が必要？
大学生活楽しみつくすにはどうすればいい？

先輩に聞いてみよう
大学での学び

SLAの先輩が経験にもとづいて
皆さんの質問にお答えします！
他では聞けない失敗談も…！？

お昼の SLA 雑談会

●日時＆場所●
4月9日(月)～13日(金)
毎日 12:10～12:45 飲食OK!
みけが伊教育研究棟(M棟)1階 SLA 503号

Tohoku University Student Learning Adviser

東北大学学習支援センター (SLAサポート)
022(795)3374 <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> @sla_tomosodachi
sla-support@grp.tohoku.ac.jp (一時的な連絡はメール推奨) 作成日 2018/3/9

とと学ぼう、ととに育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲1) SLA 雑談会

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの学びをサポート!

◆こんなときはお気軽にSLAへどうぞ!

物理 数学 化学 「授業で、ちょっと分からないところが…」
「実験レポートって、どう書けばいいの？」
「自分でもっと深いところまで学びたい！」

英会話 「初心者だけど、ちょっと英会話を試してみたい」
「英語で楽しくコミュニケーションしたい！」

ライティング 「レポートって、こんな書き方で大丈夫なのかな？」
「自分の文章表現力を高めたい！」

◆予約不要! 下記のスケジュールで、SLAの先輩が相談を受けつけています。窓口へ直接おこしく下さい。

2018年度前期 Semester SLA基本スケジュール

	月	火	水	木	金
2講時 10:30～12:00	—	—	物 数 化 英		
昼休み 12:00～13:00	—	—	物 数		
3講時 13:00～14:30	—	—	—	—	物 数 英
4講時 14:40～16:10	物 数 ラ	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英 ラ	物 数 英
5講時 16:20～17:40	物 数 ラ	物 数 化 英	物 数 英	物 数 英 ラ	—

★SLAでは他にも様々な企画を開催したり、学びに役立つ情報を発信したりしています。ホームページ・Twitterをチェックしてください!

<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> @sla_tomosodachi

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F

とと学ぼう、ととに育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲2) 前期スケジュール

Tohoku University Student Learning Adviser

気軽に SLA de 英会話

2018年度前期

今回は 火～金午後+水11時～お昼!

英会話 カフェ

みんなで楽しく・気軽に話してみよう!
【予約不要、出入り自由、軽食持込OK!】

各曜日の紹介

火 15時 英語とInteract!
田 (国文M2) 中国・上海出身
アメリカン・留学経験者
TOEFL Speaking練習も歓迎!

水 2時 身近な話題で楽しもう!
水野 (国文M3) New member!
大阪出身
アメリカ留学
英語で伝える練習してみよう!

木 4.5時 テンパらないための英会話
酒井 (文D2) 岡山出身
アメリカ留学
ゆる〜くでいいので話そう!

水 4.5時 お気軽英会話! Card Talk
で楽しく英会話
米田 (教M1) 大阪出身
アメリカ留学
英語に声をかけてください!

金 3.4時 英語でディスカッション
樋口 (工M1) 栃木出身
アメリカ8年滞在
学んだ英語を使ってみよう!

TwitterやHPで予定や様子を発信します!
@sla_tomosodachi

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F

とと学ぼう、ととに育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲3) 前期英会話

Tohoku University Student Learning Adviser

アカデミックスキルセミナー

『レポート指南書』
入門ゼミ

「大学のレポートが不安」
「どう書いたらよいかわからない」
「指南書を読むだけではわかりにくい」
…というあなたに!!
ワーク形式で学べるゼミをお届けします!!

1回45分

PROGRAM

- 1 思考を整理して問いを立てよう! - 論述のススメ -
1章相当
4/16(月) ①15:15-16:00 ②16:30-17:15
4/17(火) 4/19(木) 13:30-14:15
- 2 学術情報を見極めよう! - 大学図書館活用の極意 -
2章相当
4/23(月) ①15:15-16:00 ②16:30-17:15
4/24(火) 4/26(木) 13:30-14:15
- 3 レポートの構成を見抜け! - アウトラインの実践法 -
3章相当
5/7(月) ①15:15-16:00 ②16:30-17:15
5/8(火) 5/10(木) 13:30-14:15
- 4 誰でもできる! わかりやすい文章 - パラグラフ・ライティングの書き方 -
3章相当
5/14(月) ①15:15-16:00 ②16:30-17:15
5/15(火) 5/17(木) 13:30-14:15
- 5 極める・引用! - 先人の知恵を借りる技 -
4章相当
5/21(月) ①15:15-16:00 ②16:30-17:15
5/22(火) 5/24(木) 13:30-14:15
- 6 レポートを磨け! - 推敲の奥義 -
5章相当
5/28(月) ①15:15-16:00 ②16:30-17:15
5/29(火) 5/31(木) 13:30-14:15

各テーマ4回ずつ実施します。都合のよい曜日・時間帯に来てください!
予習なしでもOK! …でも、事前に『指南書』を読んでおくとう効果的です!

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F

とと学ぼう、ととに育とう、ととそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲4) 『レポート指南書』入門ゼミ①

2018前期 Tohoku University Student Learning Adviser

第2回 アカデミックスキルセミナー 『レポート指南書』入門ゼミ

全3回 1回90分 1日2つのトピックをまとめて！

レポートには、決まった「型」や「ルール」があります。『レポート指南書入門ゼミ』では、基本的なレポートの書き方について、「ワーク」を交えて体験的に学びます！1年生はもちろん、レポートや論文について改めて学び直したい2～4年生にもお勧めです。

★★★ PROGRAM ★★★

- 1 思考を整理して問いを立てよう！
— 論述のススメ —
指図書 1・2章 相当
◇ 学術情報を見極めよう！
— 大学図書館活用の極意 —
① 6/11(月) 3限 (13:00～14:30)
② 6/14(木) 4限 (14:40～16:20)
- 2 レポートの構成を見抜け！
— アウトラインの実践法 —
指図書 3章 相当
◇ 誰でもできる！わかりやすい文章
— パワーアップ・ライティングの書き方 —
① 6/18(月) 3限 (13:00～14:30)
② 6/21(木) 4限 (14:40～16:20)
- 3 極める・引用！— 先人の知恵を借りる技 —
指図書 4・5章 相当
◇ レポートを磨け！— 推敲の奥義 —
① 6/25(月) 3限 (13:00～14:30)
② 6/28(木) 4限 (14:40～16:20)

※各テーマ2回ずつ実施します。内容はどちらとも同じなので、都合のよい方に来てください！
※4～5月に実施した全6回のゼミとも同じ内容です。

会場：SLAラウンジ (M棟1階)
対象：東北大学生 全学部・全学年
事前申込不要・参加無料！

β 学部オリエンテーションで配布された「レポート指南書」です。この冊子の内容を網羅的に扱います。

東北大学 学術支援センター Part 2
東北大学レポート指南書 (第2版)
Academic Writing Handbook for Tohoku University Students

月・木曜の4・5限は、1対1のレポート相談も受け付けています。詳しくはHPをチェック！

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.ds.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

とと学ぶ、とと育む、とと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲5) 『レポート指南書』入門ゼミ②

Tohoku University Student Learning Adviser

かんがえるソファ

1つの問いについて、みんなでじっくりと考えてみる場

「かんがえるソファ」とは？
なんとなく分かっていく気がするけど、いざ聞かれてみると明確に答えられない、そんな「問い」についてみんなで考えてみるイベントです。毎回、様々な学部の学生同士でソファ座り、1つのテーマについてじっくりと話し合っています。どんな議論になるかは参加者次第！ぜひ気軽に立ち寄って、考えを広げてみませんか！

5月のテーマ
5/15(火) 「どうして働かなきゃいけないの？」
5/23(水) 「自己紹介って何だろう？」
5/30(水) 「仕事って何だろう？」

■ 日程：第1・3火曜日 第2・4水曜日
5月15日(火)・23日(水)・30日(水)
6月5日(火)・13日(水)・19日(火)・27日(水)
7月3日(火)・11日(水)・17日(火)・25日(水)

■ 時間：16:30～17:30

■ 場所：マルチメディア教育研究棟1階 SLAラウンジ

■ 対象：東北大学生 全学部・全学年

■ 事前予約不要・参加無料！

各回のテーマと過去の様子は下記サイトをCHECK！

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
とと学ぶ、とと育む、とと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲6) かんがえるソファ 5月

Tohoku University Student Learning Adviser

かんがえるソファ

「かんがえるソファ」とは？
なんとなく分かっていく気がするけど、いざ聞かれてみると明確に答えられない、そんな「問い」についてみんなで考えてみるイベント。
毎回、様々な学部の学生同士でソファに座り、1つのテーマについてじっくりと話し合っています。どんな議論になるかは参加者次第！ぜひ気軽に立ち寄って、考えを広げてみませんか！

他の参加者やSLAと一緒に、じっくりと考えてみる1時間。

日程：毎月 第1・3火曜日 第2・4水曜日
時間：16:30～17:30
場所：マルチメディア教育研究棟 (M棟) 1階 SLAラウンジ
対象：東北大学生 全学部・全学年
事前予約不要・参加無料

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.ds.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

とと学ぶ、とと育む、とと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲7) かんがえるソファ 6月～

Tohoku University Student Learning Adviser

かんがえるソファ

6月のテーマ

まずは興味のあるテーマの問いにぜひご参加ください！

#1 「普通って何だろう？」 6/5(火) 16:30～17:30
あなたは「普通の人」ですか？普通ってどんなこと？普通じゃないってどんなこと？

#2 「常識って何だろう？」 6/13(水) 16:30～17:30
「そのくらい常識でしょ」そう言われても、「常識」って一体ナニ？

#3 「歴史は勉強しなきゃだめ？」 6/19(火) 16:30～17:30
「過去に学ぶ」とは言うけれど、歴史を学ぶことは本当に必要？何のために学ぶんだろう？

#4 「教養って何だろう？」 6/27(水) 16:30～17:30
教養のある大人になりたい...でも、どうやったら身につくの？そもそも、「教養」ってナニ？

過去のテーマや議論の様子は右のQRコードからCHECK！
https://tkkai.ihe.tohoku.ac.jp/sofa-project

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
とと学ぶ、とと育む、とと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲8) かんがえるソファ 6月

Tohoku University Student Learning Adviser

7月のテーマ

今月はボランティア支援サークル SCRUMとのコラボ月間！

#1 ボランティアって誰のため？何のため？
7/4(水) 16:30～17:30 誰のため、何のためにボランティアは存在するのでしょうか？

#2 ボランティアと仕事って何が違うの？
7/10(火) 16:30～17:30 ボランティアって職業になるの？それともただの趣味？

#3 ボランティアとお金の関係って？
7/17(火) 16:30～17:30 ボランティアにかかるお金って、どこから支払われるべき？

SCRUMとは...
東北大学内外、ボランティア活動支援センターのボランティア支援学生スタッフとして東北大学のボランティア活動を推進するために活動している。(HP: https://scrum.tohoku.ac.jp/index.html)

過去のテーマや議論の様子は右のQRコードからCHECK！
https://tkkai.ihe.tohoku.ac.jp/sofa-project

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
とと学ぶ、とと育む、とと成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲9) かんがえるソファ 7月

Tohoku University Student Learning Adviser

テスト間近につき、7月より、SLAの対応時間を拡大します！！

物理・数学・化学
英会話・レポート支援

◆テストに向けて、授業内容で十分に理解できていないところ、怪しいなというところは早めに解消しておきましょう！
◆テスト直前は窓口が非常に混み合います。質問には日程・時間に余裕を持って来ててください！

2018年度7月2日～8月3日 SLA基本スケジュール

	月	火	水	木	金
2階時 10:30～12:00	物理・数学は月水木の3限も！	—	物 数 化	ライティングの対応は月木金に！	—
昼休み 12:00～13:00	—	—	物 数	—	—
3階時 13:00～14:30	物 数	7/23以降は月4・水昼も化学対応可！	物 数	物 数	英会話カフェは毎日4・5限に！
4階時 14:40～16:10	物 数	物 数 化	物 数 化	物 数	物 数
5階時 16:20～17:40	物 数 化	物 数 化	物 数 化	物 数	物 数

★SLAでは他にも様々な企画を開催したり、学びに役立つ情報を発信したりしています。詳しくはホームページ・Twitterをチェック！

http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp @sla_tomosodachi

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F

とど学ぼう、とどに育ち、とどぞらち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲10) 前期スケジュール (シフト拡大)

Tohoku University Student Learning Adviser 2018年度前期

英会話カフェ体験WEEK

SLAでは、英語で会話を楽しむことを目的とした、「英会話カフェ」を開催しています。事前予約は必要なく、気が向いた時にふらっと来て参加してもらえればOK！初級～中級レベルの学生を想定しているため、英会話に自信のない方も利用してもらっています。今回、特に英会話カフェ体験の方に、回ごとにテーマを設定した「体験WEEK」を開催します。前から気になっていた方、少しでも英会話を試してみたいという方、気になるテーマがある方は、この機会にぜひ遊びに来てください！

予約不要！
見学もOK！

◇会場：マルチメディア教育研究棟 (M棟) 1階 SLAラウンジ

1) ゲーム de 楽しむ 英会話 7/9(月) 15:00～16:00
気軽にできる簡単なゲームを通して、英語でのコミュニケーションを楽しみます！みんなで盛り上がりながら、英語の表現を学びましょう！【担当：藤 (英・3年)】

2) 英語で旅行の話をしよう！ 7/11(水) 15:00～16:00
どこへ旅行に行つて経験したこと、話したことはいかほどになっている国や地域について、英語でアウトプットしてみましょう！国内でも海外旅行でもOK！旅行好きの人はぜひ話を聞かせてください！【担当：樋口 (英・M1)】

3) Movie Café : 映画を語ろう！ 7/12(木) 15:00～16:00
映画について英語で話してみよう！マーヴェル・ファンからアート系映画について語り合い、ジャンル不問です。Star Warsの「ヨーダ」風の英語も教えるよ！【担当：酒井 (文・D2)】

4) 関西弁、どうやって訳すねん！ 7/13(金) 15:00～16:00
大阪出身なので、英語よりも関西弁を教えます、というのには冗談ですが、英会話の入り口として方言を考えてみます！皆さんの出身地の方言についても教えてください。標準語 (東京弁) の人も大歓迎です！【担当：米田 (教育・M1)】

5) 世界のお茶！ 7/17(火) 15:00～16:00
緑茶や紅茶、中国茶などいろいろな「お茶」について、飲みながら語りましょう！カフェの中では、緑茶、紅茶、ジャスミン茶、マテ茶、チャイなどを紹介しています。興味のある方、詳しく、ぜひ！【担当：水野 (薬・3年)】

◆上記以外の日も、英会話カフェは月曜～金曜の4・5限に開催中！
右のQRコードからスケジュールをチェック！

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)

とど学ぼう、とどに育ち、とどぞらち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲11) 前期英会話カフェ体験 WEEK

Tohoku University Student Learning Adviser 2018前期セメスター

あなたの日本語を支援します！

日本語会話【話そう!】

お昼休みに、楽しく日本語で話してみませんか？

火 11:30～12:50
木 12:10～12:50 (8月2日まで)

日本語会話を学びたい・練習したい人、歓迎！
予約不要 飲食自由！

担当SLA (= Student Learning Adviser)

水野 彩子 (漢字部、3年) <火曜日担当> 好きなもの：絵を描くこと、旅行、音楽
鈴木 あずみ (文学部、博士1年) <木曜日担当> 好きなもの：ビリヤード、ダーツ

あなたの国や、専門分野についてお聞きするのを楽しみにしています！
私たちと楽しく日本語を話しましょう(^^)

レポート作成【書こう!】

日本語のレポートや文章を一緒に確認しよう！

月 & 木 14:40～17:40 (8月2日まで)

SLAと一緒に考えながらあなたの日本語の文章をより良くしましょう！
予約不要

場所：SLAラウンジ
川内北キャンパス [MAP A05]
マルチメディア教育研究棟 1階

★ホームページ
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp

東北大学 学習支援センター (SLAサポート)

▲12) 前期留学生支援

Tohoku University Student Learning Adviser

学習支援センター主催「学びの転換セミナー」

人工知能(AI)から見た「知識」と「学習」

講師 間々田 隆介 氏
日本アイ・ビー・エム株式会社 サーバー・システム事業部
コグニティブ・システム事業開発AI推進部 部長

7月9日(月) 16:30～18:00
場所：マルチメディア教育研究棟 6階大ホール(右)

最近、何かと話題になっている人工知能 (AI)。AIによって未来の社会は大きく変わるだろうと言われています。今や人間の仕事をいくつかが代替できるようになったAIは、どのように知識を得て、どのように学習しているのでしょうか？このセミナーでは、以下のような観点からAIの基本を学びつつ、AIと私たちどう共生し、AIによって社会がどう変わり得るのかを考えます。

- ・ AIはどのように知識を得て、どのように学習しているのか？
- ・ 「機械学習」や「ディープラーニング」の考え方は？
- ・ AIは、「知識」をどのように獲得し、どのように理解するのか？
- ・ 人間には難しいことの中でAIが得意なことは何か？
- ・ 人間が当たり前に行っていることの中でAIにとっては何が難しいのか？
- ・ 社会の中でAIはどのように使われているのか？また、今後、応用の可能性があるのか？

参加無料！

定員：50名程度
対象：東北大学の学生・教職員
申込方法：右のQRコードにアクセスし、フォームに入力してください
(当日参加可、申込者優先)

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F

とど学ぼう、とどに育ち、とどぞらち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲13) 学びの転換セミナー①

Tohoku University Student Learning Adviser

学部3年生以上OK!
(学部3年～修士生)

学ぶ楽しさを伝えよう!

週3時間程度勤務
(時給1200円～/予定調整可)

化学担当 SLA 募集

2018年10月 活動開始

SLA活動説明会(30分)を7月末から実施します。興味のある人はまず説明会にエントリーしてください!
(※応募には説明会参加が必須です)

エントリーフォーム

1次募集 7/27(金)
2次募集 8/9(木)

Q. 質問対応は難しい?
A. 最初は先輩と一緒に対応するので安心してください! 研修機会もあります。

Q. 化学A～C、全範囲答えられないけど?
A. 自分の専門から選り分ける分野は活動しながら復習してもらえば大丈夫です!

SLAとは、東北大学オリジナルの「学生による学生のための学習支援スタッフ」です!

SLAの詳細はホームページをご覧ください!

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター(SLAサポート)
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
とと学ぶ、ととに育む、ととをさち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲18) 前期 SLA 募集 (化学)

Tohoku University Student Learning Adviser

SLAがあなたの学びをサポート!

◆こんなときはお気軽にSLAへどうぞ!

物理 数学 化学 「授業で、ちょっと分からないところが…」
「実験レポートって、どう書けばいいの?」
「自分でもっと深いところまで学びたい!」

英会話 「初心者だけど、ちょっと英会話を試してみたい」
「英語で楽しくコミュニケーションしたい!」

ライティング 「レポートって、こんな書き方で大丈夫なのかな?」
「自分の文章表現力を高めたい!」

◆予約不要! 下記のスケジュールで、SLAの先輩が相談を受け付けています。窓口へ直接お越しください。

2018年度後期セメスター SLA基本スケジュール

	月	火	水	木	金
2限時 10:30~12:00	—	—	物 数	—	—
昼休み 12:00~13:00	—	—	物 数	—	—
3限時 13:00~14:30	—	—	物 数	—	—
4限時 14:40~16:10	物 数 化 英 ラ	物 数 化 英 ラ	物 数 英 ラ	物 数 英 ラ	—
5限時 16:20~17:40	物 数 化 英 ラ	物 数 化 英 ラ	物 数 英 ラ	物 数 英 ラ	—

SLAでは他にも様々な企画を開催したり、学びに役立つ情報を発信したりしています。ホームページ・Twitterをチェックしてください!

<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp>

@sla_tomosodachi

東北大学学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
とと学ぶ、ととに育む、ととをさち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲19) 後期スケジュール

Tohoku University Student Learning Adviser

気軽に 2018年度後期

SLA de 英会話

今期は 月～木4, 5限!

4限は... **1 on 1** 1人でじっくり練習したい人へ!
・1回30分程度
・友達と一緒に利用もOK
・TOEFLなどの練習や留学準備にも

5限は... **カフェ** みんなで楽しく話したい人へ!
・1回1時間程度
・途中参加、抜けOK
・参加者みんなで会話やゲームを楽しみます

各曜日の担当SLA

月 英語でディスカッション 樋口 (TM1) 栃木出身 アメリカ8年滞在 学んだ英語を使ってみよう! 英語が苦手でもせり、お話し相手になります!	火 英語って楽しい! 田 (TM2) 中国・上海出身 言語学専攻 言葉の仕組みと楽しさを伝えます 英語で世界を広げよう! 試験対策の文法・スピーキング指導もお任せください!
水 お気軽英会話♪ 米田 (TM1) 大塚出身 フィリピン交換留学 気軽に声をかけてください!	木 英語でゲーム! 樋 (TM3) 中国出身 マレーシア留学 日本の文化を教えてください。 最後の英語キックもお楽しみに!

◆予約不要、出入り自由、軽食持込OK!
◆初めての方は窓口へ声をかけてください!
◆スケジュールの変更などはHPを見てね

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
<http://sla.ds.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
とと学ぶ、ととに育む、ととをさち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲20) 後期英会話

Tohoku University Student Learning Adviser 2018年度後期

気軽に

SLA de 英会話

図書館にて出張開催!
お気軽に覗いてみてください!

英会話カフェ体験WEEK vol.2

SLAでは、英語で会話を楽しむことを目的とした「SLA de 英会話」を毎週開催しています。事前予約は必要なく、気が向いた時にふらっと来て参加してもらえればOK!
初級～中級レベルの学生を想定しており、英会話に自信のない方も利用してもらっています。今回、特に英会話カフェ未経験の方に向けて、英会話カフェを開催します!
前から気になっていた方、少しだけ英会話を試してみたいという方、気になるテーマがある方は、この機会にぜひ遊びに来てください!

◆会場: 附属図書館2F グローバル学習室

予約不要! 見学もOK!

1) 英語で旅行の話をしよう! 11/5(月) 16:30~17:30
どこへ旅行に行っても話したくない話はないけどどこへ行くかや地味について、英語でアウトプットしてみよう! 国内も海外旅行でもOK! 旅行好きの人はぜひ話を聞かせてください! 【担当: 樋口 (T・M1)】

11/6(火) 2) ゲーム de 楽しむ英会話 16:30~17:30
気軽にできる簡単なゲームを通して、英語でのコミュニケーションを楽しみます!
みんなで盛り上がりながら、英語の表現を学びましょう! 【担当: 樋 (T・M1)】

3) 英語で地元の話しよう! 11/7(水) 16:30~17:30
東北大学の良いところ1つとして、宮城県以外からも多くの学生が入学していることが挙げられます。皆さんの出身地について聞かせてください! 宮城県出身の方も大歓迎です。【担当: 米田 (教育・M1)】

11/8(木) 4) 世界のカフェ巡り 16:30~17:30
コーヒーに興味ある方や知りたい方必見! 世界の有名なコーヒーの種類と特徴を英語で紹介します。カフェで使える英語や、いろんなメニューの使い方を話しましょう。【担当: 田 (国文・M2)】

普段の「SLA de 英会話」のご案内
◆毎週月～木曜の4・5限に、マルチメディア教育研究棟1階 (SLAラウンジ) にて開催中!

4限は 1on1	SLAと1対1で英会話をします (基本は30分)。TOEFL対策などの勉強の仕方、英語の文章についての相談にも乗ることができます。
5限は 「英会話カフェ」	複数人で会話やゲームを楽しみます。各自ごとに集まった参加者のレベルに合わせて行います。適宜日本語を交えてもOK!

※いずれも予約不要なので気が向いた時にどうぞ! 詳細はQRコードからチェック!

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
<http://sla.ds.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
とと学ぶ、ととに育む、ととをさち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲21) 後期英会話体験 WEEK

Tohoku University Student Learning Adviser 2018年度後期

気軽に
SLA de 英会話
英会話カフェ体験WEEK vol.3

英会話は今年のうちに始めちゃえばいいんじゃないかな!

SLAでは、英語で会話を楽しむことを目的とした「SLA de 英会話」を毎週開催しています。事前予約は必要なく、気が向いた時にふらっと来て参加しても大丈夫です！初級～中級レベルの学生を想定しており、英会話に自信のない方も利用してもらっています。下記の期間は、各日テーマを設定したカフェを開催しますので、また利用したことがない人もよく通って、ぜひ遊びに来てください！

◇会場：マルチメディア教育研究棟1階（SLAラウンジ）

1) 英語で旅行の話しよう! 12/10(月) 16:30~17:30

どこへ旅行に行つて体験したこと、訪れたことはいないか気になっている国や地域について、英語でアウトプットしてみましょう！国内でも海外旅行もOK！旅行好きの人はぜひ話を聞かせてください！【担当：磯口（E・M1）】

12/11(火) 16:30~17:30 **2) 身近な話題でディスカッション**

自分の趣味、アルバイト、大学での生活などの身近な話題について、英語でみんなと話し合おう！【担当：田（M・M2）】

12/12(水) 16:30~17:30 **3) 英語で地元の話しよう!**

東北大学の良いところ1つとして、宮城県以外にも多くの学生が入学していることが挙げられます。皆さんの出身地について聞かせてください！家帰る方も大歓迎です。【担当：末田（教・M1）】

12/13(木) 16:30~17:30 **4) ゲーム de 楽しむ英会話**

気軽にできる簡単なゲームを通して、英語でのコミュニケーションを楽しみましょう！みんなで盛り上がりながら、英語の表現を学びましょう！【担当：藤（E・4年）】

普段の「SLA de 英会話」は、毎週月～木曜の4・5階で開催中！

4階は「1on1」	SLAと1対1で英会話をします（基本は30分）。TOEFL対策などの勉強の仕方や、英語の文章についての相談にも乗ることがあります。
5階は「英会話カフェ」	複数人で会話やゲームを楽しみます。各回ごとに集まった参加者のレベルに合わせて行います。適宜日本語を交えてもOK！

※いずれも予約不要なので気が向いた時にどうぞ！詳細はQRコードからチェック！

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター（SLAサポート）
ともと学ぼう、ともと育ち、ともとたち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲22) 後期英会話体験 WEEK②

Tohoku University Student Learning Adviser

このセミナーの目的は、統計学の基本的なイメージをつかむことと、日常や社会に溢れるそれっぽいデータや主張に騙されないよう、批判的・論理的な思考力を高めること。文系の様々な領域で必要になる統計学の基本を知りたいという方、統計の授業を受講しなくてもイメージがつかめないという方、グローバル社会においてますます重要な批判的思考や論理的思考を鍛えたいという方などに、特におすすめします。統計初学者を想定して、できるだけ数式を用いず、ワークやディスカッションも交えて「じっくり」「丁寧に」進めますので、数学は苦手という方もぜひお気軽にご参加下さい！

文系の学生こそ身につけておくべき!

統計学の基礎と批判的思考をじっくりと学ぶゼミ

全5回・各回60分

第1回 情報を批判的に捉えよう—イントロダクション 11/19(月)・11/20(火)

第2回 データをどうまとめる?—記述統計 11/26(月)・11/27(火)

第3回 2つの指標の関係を考える—相関と因果 12/3(月)・12/4(火)

第4回 一部から全体を推測する—推測統計 12/10(月)・12/11(火)

第5回 調査研究の落とし穴 12/17(月)・12/18(火)

※月・火曜は同じ内容になります。各回都合の合う方にご参加ください。また全回出席しなくても、途中のみ参加も歓迎します。

時間▶ 各回 16:30~17:30
場所▶ 附属図書館2階 グローバル学習室
対象▶ 東北大学生 全学部・全学年
定員▶ 各回30名程度
申込▶ おおよその人数把握のため、下記QRコードより事前の登録をお願いします。（当日参加も可）

https://goo.gl/forms/58Xry50WkyZu592
主催▶ 東北大学 学習支援センター
sla-support@grp.tohoku.ac.jp

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
ともと学ぼう、ともと育ち、ともとたち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲23) 統計ゼミ

Tohoku University Student Learning Adviser

日本語会話を練習しませんか?
Japanese Conversation Workshop

留学生のみなさんへ

みんなで楽しく話して、日本語での会話を練習しましょう！日本の文化や生活に関する話題について、話してみませんか。<中級（基本的な会話ができるレベル）以上の方向け>

開催日時〈金曜日〉
11月30日
12月7,14,21日
13:00~14:00
(少し遅れても参加できます)

場所 川内駅の隣です！
マルチメディア教育研究棟(A05) 1階 SLAラウンジ
初めて参加する人は、窓口へ声をかけてください。

話す内容の例
・あなたの国の鍋料理や煮込み料理を教えてください。
・新年/お正月には何を食べる？
・年末年始はどう過ごす？
・日本でのショッピングで使われるフレーズを学ぼう

私たちと一緒に話しましょう! ▶SLA(Student Learning Adviser)

鏡 舞子(文M1) 宮城県出身 国語学研究室 好きなもの: 音楽鑑賞・演奏	鈴木 志保(文B3) 秋田県出身 考古学研究室 好きなもの: コーヒーとムミン
工藤 さやか(文B4) 山形県出身 フランス文学研究室 好きなもの: 映画と音楽	葉 晶晶(経M2) 中国出身 非営利組織研究室 好きなもの: 辛い食べ物

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター（SLAサポート）
http://sla.ds.jhe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
ともと学ぼう、ともと育ち、ともとたち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲24) 日本語会話

Tohoku University Student Learning Adviser

日本語会話を練習しませんか?
Japanese Conversation Workshop

留学生のみなさんへ

みんなで楽しく話して、日本語での会話を練習しましょう！日本の文化や生活に関する話題について、話してみませんか。<中級（基本的な会話ができるレベル）以上の方向け>

開催日時〈金曜日〉
1月11,25日
2月1日（年度内最終回）
13:00~14:00
(少し遅れても参加できます)

場所 川内駅の隣です！
マルチメディア教育研究棟(A05) 1階 SLAラウンジ
初めて参加する人は、窓口へ声をかけてください。

話す内容の例
・テストorレポート、あなたはどちらが得意?大学の期末試験について話そう
・指導教員とどのように話す?敬語の使い方を学ぼう
・タイムマシンとどこでもドア、あなたはどちらが欲しい?2択ゲームでディスカッション

私たちと一緒に話しましょう! ▶SLA(Student Learning Adviser)

鏡 舞子(文M1) 宮城県出身 国語学研究室 好きなもの: 音楽鑑賞・演奏	鈴木 志保(文B3) 秋田県出身 考古学研究室 好きなもの: コーヒーとムミン
工藤 さやか(文B4) 山形県出身 フランス文学研究室 好きなもの: 映画と音楽	葉 晶晶(経M2) 中国出身 非営利組織研究室 好きなもの: 辛い食べ物

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター（SLAサポート）
http://sla.ds.jhe.tohoku.ac.jp 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
ともと学ぼう、ともと育ち、ともとたち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲25) 日本語会話②

資料

11月のテーマ

#1 普通って何だろう?
11/6(火) 16:40~17:40 みんな違って当たり前なのに「普通」とは? 「普通の大学生」って?

#2 コミュカって何だろう?
11/14(水) 16:40~17:40 「コミユカのある人」ってどんな人? どうすればなれるの?

#3 コミュカって何だろう?
11/20(火) 16:40~17:40 「コミユカのある人」ってどんな人? どうすればなれるの?

#4 大人って何だろう?
11/28(水) 16:40~17:40 私たちはもう大人?大人になるってどういうこと?

内容は連続ではありません。どちらか一方でも両方参加でも大歓迎です!

過去のテーマや講師の様子はこちらのQRコードからCHECK!
<https://sls.csls.ihe.tohoku.ac.jp/sla-project>

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とと学ぼう、ととに育つ、ととぞら Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲26) かんがえるソファ 11月

12月のテーマ

#1 意識高い系って何?
12/4(火) 16:40~17:40 頻繁に使われる『意識高い系』ってよく聞けど…。そもそも意識って「高い」もの?意識って何?

#2 なぜ大学生はカフェに行きたがるのか?
12/12(水) 16:40~17:40 めっちゃカフェ行く人いるよね。なんなんだろうね。でもラーメン行くのと違うのかな? 飲みに行くのと同じなのかな?

#3 あなたはSNSを利用しますか?
12/18(火) 16:40~17:40 多くの大学生はなぜツイッターやインスタグラムを利用するの?どうして鍵をかけるの? 複数アカウントも持つの?とか、逆にやらない人ってなんでやらないの?

※年末のスケジュールは第4水曜日の開催はありません。

過去のテーマや講師の様子はこちらのQRコードからCHECK!
<https://sls.csls.ihe.tohoku.ac.jp/sla-project>

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とと学ぼう、ととに育つ、ととぞら Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲27) かんがえるソファ 12月

1月のテーマ

#1 「友だち」ってつくるもの?できるもの?
1/8(火) 16:40~17:40 友だちってどうやってつくるの?「つくる」ものなのか?そもそも「友だち」って何?

#2 「空気を読む」の「空気」って何?
1/16(水) 16:40~17:40 空気が読まなきゃだめ?どうやって読める?読まないことは悪いこと?

#3 「エモい」って何だろう?
1/22(火) 16:40~17:40 「エモい」…使う人も使わない人も、どういうイメージをもっていますか?

過去のテーマや講師の様子はこちらのQRコードからCHECK!
<https://sls.csls.ihe.tohoku.ac.jp/sla-project>

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とと学ぼう、ととに育つ、ととぞら Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲28) かんがえるソファ 1月

Tohoku University Student Learning Adviser

テスト間近につき、 1月より、SLAの対応時間を 拡大します!!

物理・数学・化学
英会話・レポート支援

- ◆テストに向けて、授業内容で十分に理解できていないところ、怪しいなというところは早めに解消しておきましょう!
- ◆テスト直前は窓口が非常に混み合います。質問には日程・時間に余裕を持って来てください!

2019年1月7日~2月1日 SLA基本スケジュール

	月	火	水	木	金
2講時 10:30~12:00	—	—			
—		数	数		
3講時 13:00~14:30	物 数	物 数	物 数	物 数	
4講時 14:40~16:10	物 数 英 ラ	物 数 英	物 数 化 英 ラ	物 数 英 ラ	
5講時 16:20~17:40	物 数 英 ラ	物 数 英	物 数 化 英 ラ	物 数 英 ラ	

★SLAでは他にも様々な企画を開催したり、学びに役立つ情報を発信したりしています。詳しくはホームページ・Twitterをチェック!

<http://sls.csls.ihe.tohoku.ac.jp> @sla_tomosodachi

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とと学ぼう、ととに育つ、ととぞら Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲29) 後期スケジュール (シフト拡大)

Tohoku University Student Learning Adviser

東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム
トランスサイエンスカフェ

地震予測と 防災

地球専攻の院生からの話題提供後、「地震予測と防災」にまつわるトランスサイエンス問題について、みんなで考え、話し合います。

trans-science

事前申込不要、参加無料

12/13(木) 15~17時

場所: 附属図書館2階 グローバル学習室
話題提供者 手塚寛 (理学研究科 地球専攻)
ファシリテーター 綿引周・浅川宏直 (文学研究科 文化科学専攻)
塚本雄也 (理学研究科 地球専攻)

対象: 東北大学の学生(全学部・学年)

トランスサイエンス問題とは?
地球規模の気候変動や遺伝子組み換え作物に関する問題のように、科学に問いかけることはできても、科学だけでは解決することができない問題のことです。こうした問題は、専門家だけでは解決することがないため、みんなで話し合っ自分たちなりの答えを見つけていく必要があります。

トランスサイエンスカフェでは、トランスサイエンス問題について様々な観点から話し合うことで、一人ひとりもつ考え方・問題意識の違いに気づくことができます。

共催 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
<http://sls.csls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 1F
とと学ぼう、ととに育つ、ととぞら Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲30) トランスサイエンスカフェ

Tohoku University Student Learning Adviser

学習支援センター主催「学びの転換セミナー」

インプロ(即興演劇)で学ぶ コミュニケーションスキルと 発想力を磨くワークショップ

アクティブなワークやゲームの中で、楽しみながら学ぶ!
ワークショップや場づくりのスキルを高めたい人にも!

講師 **絹川 友梨 氏**
(インプロ・ワークス/東京大学)



話しかけたいなあ...
どう伝えたらいいかなあ...

インプロ(「Improvisation」:即興)とは、音楽やダンス、演劇など、あらゆる芸術分野で用いられている創作・表現方法の一つ。台本がない中で、仲間と協力しながら、その場に合わせて瞬間的に反応し、思考・判断し、新しい表現や創造へとつながっていきます。
このようなインプロを活かしたワークショップは、近年ビジネスや教育現場で積極的にに行われています。日本のインプロ教育の第一人者である絹川友梨氏を講師に招いて、コミュニケーションスキルや発想力を磨くワークショップを開催します。とても楽しいワークショップですので、ぜひ奮ってご参加ください!

申込はこちらのQRコードより!
締切:2月4日(月)

日時▶ 2月12日(火) 13:30~17:30
場所▶ 川内北キャンパス講義棟 A401教室
対象▶ 東北大学の学生・教職員
参加▶ 参加無料・要申込
定員▶ 30名程度(先着順)

東北大学 学習支援センター 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
〒980-8579 mail: sla-support@slp.tohoku.ac.jp tel: 022-795-3374

▲31) インプロワークショップ

Tohoku University Student Learning Adviser

美術館の 楽しみ方、 教えます!

2018年12月21日(金) 15時~17時
定員 15名程度(申込優先・当日受付可) **参加無料**
対象 全学部・全学年

申込: <https://goo.gl/forms/BMwHLrKlHkbJhOu2> (締切12/20)

川内キャンパスから徒歩5分の宮城県美術館。
いつも構目を通り過ぎるだけで行ったことが無い方も多いのでは?この企画の目的は、みんなで美術館に行き「美術館の楽しみ方を学ぶ」と、学芸員の方とお話もするので、普段は気づかないところまで目が行くかもしれません!

「いつかは行きたいけど機会が…」 「なんか敷居高い」 「アートって難しいし…」 そう思っている皆さんが美術や美術館を身近に感じる、そのきっかけを作れたらと考えています。

[timetable]
■集合: 宮城県美術館 エントランスホール ※学生証を持って来て下さい。
■第1部「みんなで美術館鑑賞」
学芸員の方のガイドのもと、作品をしらべてみます。「何を表している?」「なぜこれを描いたんだろう?」そんな想像も共有していきましょう。
■第2部「美術館を知ろう」
美術館の展示には、実は細かな工夫がこらされています。また、展示以外にも様々な役割があるんです。舞台裏を知ると、美術館がもっと楽しくなりますよ。

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
とどろろ、とどろろ、とどろろ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲32) 美術館ツアー

Tohoku University Student Learning Adviser

好評につき **第二弾!**

美術館の 楽しみ方、 教えます!

2019年2月14日(木)・19日(火)
13:30-15:30 ※両日同じ内容です
定員 各回10名程度(申込制) **参加無料**
対象 全学部・全学年

申込: <https://goo.gl/forms/3H917pp9dixNueNL2> (締切12/10)

川内キャンパスから徒歩5分の宮城県美術館。
いつも構目を通り過ぎるだけで行ったことが無い方も多いのでは?
この企画の目的は、みんなで美術館に行き「美術館の楽しみ方を学ぶ」と、「美術館ってなんか敷居高いなあ」そう思っている方が美術や美術館を身近に感じる、そのきっかけを作れたらと考えています。学芸員の方とお話できるので、「作品ってどうやって集めるの?」「今度の特別展の見どころは?」といった質問もできますよ。

■集合: 宮城県美術館 エントランスホール ※学生証持参
■内容
「みんなで美術館鑑賞」
学芸員の方のガイドのもと、一つの作品をしらべてみます。感じたことをみんなで共有して楽しみましょう!前回と違う作品を鑑賞するので、第一弾に参加した方でも楽しめます。
■宮城県美術館のストーリーを知る
宮城県美術館の歴史や東北大学との関係等を教えます。初めを知ることがたくさんあるかも!

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
とどろろ、とどろろ、とどろろ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲33) 美術館ツアー②

SLA的

1年生向け 物理の学びポイント!

10月版

前セメの内容を今のうちに再確認!

- ☑微分方程式の一般解と特殊解の違いは?
- ☑座標変換できますか?
→円筒、球座標への変換はそらでできるように
- ☑慣性系と非慣性系の違いとは?
- ☑ベクトルの計算は完璧にしておこう!
→電磁気学でよく使うよ!

物理のヒント

解いた答えが合っていないとかチェックするには?
→答えの次元をチェック
極端な状況を考えてみる。それは直感と一致するか?

問題に手が付かない、そんな時は?
→問題の状況を図に描いてみて整理しよう

物理のミニクイズ

Suicaitはどうして電池なしで改札と通信できる?
ヒント: 電磁気学の〇〇の法則

答えはSLAのブログをチェック!

東北大学 高度教育・学生支援機構 学習支援センター (SLAサポート)
とどろろ、とどろろ、とどろろ Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲34) 物理の学びポイント 10月

資料

SLA的

1年生向け物理の学びポイント!

11月版


質点系の力学・電磁気学をチェック!


多体問題は定石を使って攻めよう
 重心座標、相対座標で運動を考える
 →一つの質点ごとの運動方程式から重心、相対運動のものへ

剛体の運動に関わる物理量を理解しよう
回転モーメントとトルクと角運動量の関係は?
 →「トルク」=「角運動量の時間変化」で…
回転の運動方程式をパッと書けますか?
 →これが書ければ剛体の回転運動は解けるかも

静電ポテンシャルってなんだ?
 便利だけど難しい鏡像法(鏡映法)
 →導体表面での境界条件を満たすようにうまい事
 仮想電荷を置くことが肝

学び方のヒント
 ある教科書が分からなかったら別の教科書を参照してみよう。
 問題の場合、類題を図書館等で探して参考にしよう。

物理のミニクイズ
 日本の建物は地震で簡単に崩壊しないよう、ある物理量に
 注意して設計されています。どのような物理量でしょう?
 答えはSLAのブログをチェック! 

気になるところはSLAに気軽に聞きに来てね! 場所はM棟1階!
 Tohoku University Student Learning Adviser 

▲35) 物理の学びポイント 11月

SLA的

1年生向け物理の学びポイント!

12月版


以下のポイントは、後期に習うトピックの中でも特に大事な部分です。年末にしっかり復習しておこう!

【振動】
◆ 質点が複数の場合は運動方程式を行列にしよう
 →振動鎖など複数の質点の運動を解こうとするときは、方程式を
 行列にすると、対角化といった解法の見通しが良くなることが多い
 (連立方程式は行列で取り扱うため)
◆ フーリエ変換・級数を理解しよう
 →振動の現象は、フーリエ級数によって記述される。この現象は
 物理・化学・工学のあちこちに出現するので、問題を多めに解いて、
 式の扱いに慣れておこう

【電磁気】
◆ 電磁気の計算・考え方を身につけよう
 →物理数学で学んだ面積分・線積分の復習をしよう
 →鏡像法の考え方を身につけよう

【剛体の運動】
◆ 剛体の運動は質点の積分だと考えよう
 →質点の運動との類似性をチェック! 質点の場合における質量、速度、
 加速度、運動方程式、エネルギーに相当する物理量を確認しよう

物理的状況を理解するコツ
 数式を対応する図に表して説明できるようにしよう!

気になるところはSLAに気軽に聞きに来てね! 場所はM棟1階!
 Tohoku University Student Learning Adviser 

▲36) 物理の学びポイント 12月

SLA的

1年生向け物理の学びポイント!

1月版

期末試験前に早めの復習を始めよう


【振動と波】
 ・波動方程式の解法
 固定端・自由端をどのように境界条件にいれて解くか、うなりがどの
 ように計算結果として現れるかなど、自分で手を動かして確認しよう。
 ・言葉と現象の対応
 「うなり」はどのような時におきるどのような現象なのか、グラフと式で
 確認しよう。「振動のモード」とは何を指しているのか、絵で説明でき
 るようになる。


【相対運動】
 慣性力の存在を運動方程式から導出して説明できるようにしよう。
 また、どの座標で議論しているか常に意識しよう。

【量子力学】
 量子力学は直感があてにならないことも。計算結果を偏見なしにそ
 のまま受け止めることを意識しよう。

★典型問題を何個も解きながら理解するののも一つの手です!

内容別 おすすめの曜日
 物理学Bの流体力学・数学物理学演習→火曜(工学部SLA)
 その他の物理学B・電磁気学・力学演習→月・水・木曜
*おすすめ曜日以外でも質問できます!

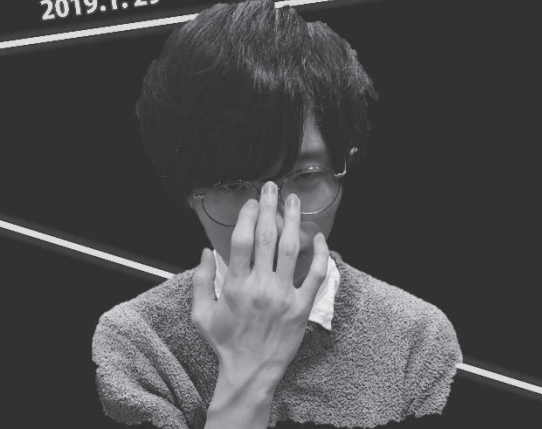
物理のミニクイズ
 手袋したままスマートフォンを触っても反応しなかった経験はありま
 せんか? どうしてスマホでそういったことが起こるのでしょうか?
 答えはSLAのブログをチェック! 

気になるところはSLAに気軽に聞きに来てね! 場所はM棟1階!
 Tohoku University Student Learning Adviser 

▲37) 物理の学びポイント 1月


Tohoku University Student Learning Adviser

2019.1.29 ISSHIN DENN、最後のシフト



SLA
 THE LAST DENN
ENGLISH

東北大学 学習支援センター(SLAサポート) 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
 とともに学ぶ、ともに育つ、ともに成長 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!



▲38) 後期英会話

Tohoku University Student Learning Adviser

学部2年～修士課程の皆さんへ！
(2019年4月時点で学部3年生以上)

週3～5時間程度勤務
時給1200円～

自分の専門やスキルを活かして
学ぶ楽しさを伝えよう！

2019年4月活動開始

SLA募集!

SLAとは、東北大学独自の「学生による学生のための学習支援スタッフ」です。
一緒に全学教育（主に1・2年生）の学びをサポートしてくれる仲間を募集します！

募集枠

物理/数学/化学 担当…各数名
1・2年次範囲の理系科目に関する質問対応・企画発信

英会話 担当…数名
英会話カフェの実施など、英会話の学習支援

企画 担当…数名
学習イベント等の企画・実施・広報

デザイン・広報 担当…1名
ポスターやwebページ等の作成・デザイン

◆応募・採用の流れ

- 活動説明会へのエントリー
右のQRコードにアクセスし、webのフォームからエントリーしてください。
後日、活動説明会の日程を連絡します。
<https://goo.gl/forms/s5Uz5PkrkZUhf2>
- 活動説明会への参加 (1月下旬～2月上旬)
SLAの活動内容や、面接・試験について説明を行います。
説明会も踏まえ、応募するかどうかを考えて下さい。
- 面接・試験の実施 (2月～3月8日 ※個別調整可)
説明会の内容を踏まえ、正式に応募いただいた方に対して後日実施。計1.5時間程度。内容は科目ごとに異なります。
- 採否結果の通知 (～3月15日まで)

◆問い合わせ先/SLAの詳細

mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp
web: <http://sla.cis.ihe.tohoku.ac.jp/>

活動説明会への
エントリー締切
2/1(金)
13:00 まで

応募条件

- 東北大学の学生で、2019年4月時点で学部3年生以上
- 自分の専攻との関連が深い
- SLAのボランティアを希望し、専攻課士の学び合いや大学での学習支援に熱心な姿勢がある
- SLA専士の学び合い、SLA研修を通じたスキル・能力アップに意欲的である
- 金銭科目は、関連する授業成績が優れている
- 専攻は、専攻は支障のない程度の日本語での日常会話が可能である

勤務条件

雇用期間：2019年4月～9月
※専攻課長 承認後勤務開始となります！

勤務時間：平日、週に3～5時間程度(応相談)
勤務場所：川内北キャンパス M棟1階
時給：学部生1,200円、修士生1,300円

東北大学 学習支援センター(SLAサポート) 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F
ととと学ぶ。ととと育つ。ととと成る。 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲39) 後期 SLA 募集



■資料 C 2018 年度学習支援センター活動略歴

4月	3日	前期活動説明会
	5日	初任者研修、企画部会 第1回定例ミーティング
	9日	ライティング部会 第1回定例ミーティング、企画部会 追加ミーティング
	9~13日	SLA 雑談会
	10日	レポート作成の授業において SLA ライティング支援の案内
	11日	化学、英語部会 第1回定例ミーティング
	12日	物理部会 第1回定例ミーティング
	16日	【SLA 通常活動開始（窓口 OPEN）】 『レポート指南書』入門ゼミ 第1クール目 開始（～5月31日）
	18日	数学部会 第1回定例ミーティング
	19日	センター定例ミーティング（第1回）
5月	8日	初任者研修（未受講者分）
	9日	センター定例ミーティング（第2回）
	11日	企画部会 第2回定例ミーティング
	29日	物理、数学部会 第2回定例ミーティング（合同実施）
	30日	ライティング部会 第2回定例ミーティング
6月	1日	英語部会 第2回定例ミーティング
	5日	かんがえるソファ 開催開始
	10日	萩友会 東北大学懇談会 自由見学開放
	11日	センター定例ミーティング（第3回）、シニア SLA ミーティング 『レポート指南書』入門ゼミ 第2クール目 開始（～6月28日）
	25日	企画部会 第3回定例ミーティング
	27日	化学部会 第3回定例ミーティング
7月	6日	数学部会 第3回定例ミーティング
	9~17日	英会話カフェ 体験 week 開催
	10日	物理部会 第3回定例ミーティング
	11日	ライティング部会 第3回定例ミーティング
	12日	センター定例ミーティング（第4回）、英語部会 第3回定例ミーティング
	25日	企画部会 第4回定例ミーティング
	31日	オープンキャンパス（～8月1日） SLA 応募者向け説明会（～8月10日）
8月	1日	ライティング部会 第4回定例ミーティング
	3日	【SLA 通常活動終了（窓口 CLOSE）】
	6日	物理部会 第4回定例ミーティング
	7日	センター定例ミーティング（第5回）
	9日	数学、化学、英語部会 第4回定例ミーティング 前期全体リフレクション会
	22日	SLA 採用試験（～9月上旬） 工学教育院学習支援室 来訪
9月	4日	センター定例ミーティング（第6回）
	21日	SLA 夏期研修
	25日	岩手県立大学様 ご来訪
	27日	後期活動説明会、初任者研修
	2日	日本語カフェ ミーティング（～11月初旬）

10月	5日	化学、ライティング部会 後期第1回定例ミーティング
	9日	【SLA 通常活動開始（窓口 OPEN）】 物理、数学部会 後期第1回定例ミーティング
	10日	英語、企画部会 後期第1回定例ミーティング
	16日	センター定例ミーティング（第7回）
11月	2日	SLA 研修（日本語教育）
	5～8日	英会話カフェ 体験 week
	6日	かんがえるソファ 開催開始
	9日	日本語カフェ 試行開催開始
	13日	センター定例ミーティング（第8回） 物理部会 後期第2回定例ミーティング
	14日	英語部会 後期第2回定例ミーティング
	19日	統計ゼミ 開催（～12月18日）
	20日	企画部会 後期第2回定例ミーティング
12月	3日	数学部会 後期第2回定例ミーティング
	10～13日	英会話カフェ 体験 week
	13日	トランスサイエンスカフェ 開催
	18日	企画部会 後期第3回定例ミーティング
	20日	センター定例ミーティング（第9回）
	21日	企画「美術館の楽しみ方、教えます！」第1回開催（～2月）
1月	15日	物理、数学部会 後期第3回定例ミーティング
	16日	英語部会 後期第3回定例ミーティング
	17日	物理部会 後期第3回定例ミーティング
	30日	センター定例ミーティング（第10回）
	1日	【SLA 通常活動終了（窓口 CLOSE）】
2月	4日	SLA 応募者向け説明会（～8日） 企画部会 後期第4回定例ミーティング
	6日	ライティング部会 後期第4回定例ミーティング
	5日	センター定例ミーティング（第10回） 物理部会 後期第4回定例ミーティング
	6日	ライティング部会 後期第2回定例ミーティング 英語部会 後期第4回定例ミーティング
	8日	物理部会 後期第4回定例ミーティング
	12日	学びの転換セミナー兼 SLA 共通研修「インプロワークショップ」
	13日	数学部会 後期第4回定例ミーティング 化学部会 後期第2回定例ミーティング
	18日	SLA 採用試験（～3月中旬）
	21日	センター定例ミーティング（第11回）
	26日	企画部会 後期第5回定例ミーティング
	27日	後期活動報告会・卒業生送別会
3月		* 各種次年度準備作業 * SLA 年度末ヒアリング
	6日	北海道大学・福島大学合同研修 開催
	22日	センター定例ミーティング（第12回）

＝編集後記＝

学習支援センターの発足から5年目を迎え、『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書』も第5号の刊行となりました。学習支援センターとしては、前年度までの総括を踏まえ、運営や組織体制の見直しを図り、新たなスタッフを迎え、改めてスタートの1年となりました。

国際的にSDGsの重要性が焦点化されていますが、本学における高度教養教育及びそれを支える学習支援の在り方も、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のあるコミュニティの構築に寄与するものとなるべきだと考えています。大学における学習支援センターとしては、時代を先導するような学習支援の取組を挑戦的に推進していくことが重要です。これまでの蓄積・実績を大事にしながらも、教育を取り巻く昨今の動向や、東北大学および当機構の置かれた状況に鑑み、前例主義に陥ることなく、常に学生を中心とした学習支援の在り方を模索していく必要があります。

高等教育機関を含めて、大量生産・大量消費による右肩上がりの「成長」を前提とした組織運営は既に限界に来ております。縮小する社会の中で、大学における学習支援の取組についても、エコシステムの視点で捉える必要があると痛感しています。被支援者である学生に対して、教員や支援者から大量の情報や資源を調達・投入しようとするアプローチではうまくいきません。当センターでは、学生個々の内面にある能力を最大限に引き出しながら、必要な資源や情報へと架橋し、学生の自律性と主体性を醸成することを重視しています。そのために、学内に点在する多くの資源をネットワーク化し、運営の効率性を高めつつも学生にとって効果的な学習支援を実現するべく、様々な取組を進めてきました。

2018年度は、SLAが持つ多様な学術的・社会的情報の発信力を高め、同時に、留学生の学習支援の基盤づくりに取り掛かる事のできた、重要な転換期となる1年になりました。相談窓口を開設し1対1で丁寧な学生の学習相談に応じていく形を引き続き大事にしていきつつも、時間的・心理的な理由で窓口に来られない学生に対しては、できる限り充実した学習情報を届けられるようなアウトリーチの取組を継続させていきたいと考えています。また、多くの留学生を有する東北大学において、真に国内学生と留学生が「学び合う」環境を構築していくことも、重要な課題と認識しています。

末筆となりましたが、2018年度も学内外の多くの皆様、多くの組織・機関に支えられ、無事に当センターの活動を終えることができました。ご支援頂いておりますすべての皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。

(佐藤 智子)

学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書 ー2018年度ー
Annual Report 2018 / Center for Learning Support (SLA Support Office)

2020年3月25日発行
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター（SLA サポート）
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41番地 マルチメディア教育研究棟1F
website : <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>

印刷 北日本印刷株式会社

※SLA 学生の各種作成物の情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。
※本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁じます。
